

TIBCO FOCUS®

Db2 Web Query InfoAssist+ 利用ガイド Part 2

バージョン 2.3.0

January 2022



目次

1. データの操作	7
グラフのミッシングデータ	7
データソースの追加と切り替え	8
データのソース設定	9
Web Query での一時項目の作成	10
一時項目の選択.....	10
一時項目 (DEFINE).....	11
一時項目 (COMPUTE).....	12
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) でのフィールドタイトルの使用.....	13
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) ダイアログボックスでのテキストエリ アの幅の調整.....	16
マスターファイルから独立した一時項目の作成.....	18
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) のミッシング値表示の有効化.....	18
データの結合と混合	19
JOIN.....	19
データの混合.....	20
フィルタによるデータ表示のカスタマイズ	23
フィルタの設定および解除.....	33
プロンプト機能による実行時のフィールド情報の選択.....	33
出力フォーマット	34
HTML5.....	36
追加の出力タイプの有効化.....	37
ユーザ選択.....	37
2. HOLD ファイルの作成	39
HOLD ファイルの用途	39
HOLD ファイルの格納	40
レポートおよびグラフの出力フォーマット	40
HOLD ファイルの作成	41
TIBCO FOCUS フォーマットインデックスフィールド.....	50

HOLD ファイルを使用したサブクエリの作成	51
3. 複数ページのドキュメントの作成	53
複数ページのドキュメントの作成	53
複数ページの Active テクノロジダッシュボードの作成	55
ページメニューのナビゲート	56
アクティブキャッシュオプションの使用	58
InfoAssist+ でのアクティブキャッシュの有効化	58
4. InfoAssist+ での Active テクノロジコンポーネントの作成	59
Active テクノロジ の使用	59
Active テクノロジレポートオプションの概要.....	59
セキュリティ機能.....	62
大規模データの処理.....	63
配信および表示に関する考慮事項	63
Active テクノロジ使用時の注意	65
5. Active テクノロジコンポーネントによるインタラクティブコンテンツの作成	69
Active テクノロジレポートの作成	69
Active Report のメニューオプション.....	69
Active テクノロジセルメニューオプション.....	74
Active テクノロジレポートオプションの構成.....	75
全般タブ.....	75
メニューオプションタブ.....	76
色タブ.....	78
詳細タブ.....	79
Active テクノロジグラフの作成	80
Active テクノロジグラフのオプション.....	81
Active テクノロジグラフ使用時の注意.....	84
複数ページの Active テクノロジダッシュボードの作成	85
入力フォーム.....	85
ターゲットレポート.....	86
ターゲットとソースとしての複数レポートの使用.....	87

6. スライサの使用	95
スライサの作成	95
スライサによるフィルタの適用	100
スライサの連鎖	100
スライサの編集ダイアログボックス	104
全般タブ	105
最大レコード数タブ	106
グループタブ	106
7. InfoMini アプリケーションの作成	109
InfoMini アプリケーションの概要	109
InfoMini ボタンの使用	110
InfoMini レイアウトの理解	110
リボン	110
フォーマットタブ	111
スライサタブ	111
InfoMini アプリケーションの作成	111
8. リボンのコマンドリファレンス	115
レポートのリボンコマンド	115
ホームタブ	115
フォーマットタブ	117
データタブ	120
スライサタブ	121
レイアウトタブ	122
表示タブ	123
フィールドタブ	125
グラフのリボンコマンド	131
ホームタブ	131
フォーマットタブ	133
データタブ	138
スライサタブ	139

レイアウトタブ.....	140
表示タブ.....	141
フィールドタブ.....	144
シリーズタブ.....	147
ドキュメントのリボンコマンド	148
ホームタブ.....	148
挿入タブ.....	152
フォーマットタブ.....	153
データタブ.....	155
スライサタブ.....	156
レイアウトタブ.....	157
表示タブ.....	159
フィールドタブ.....	161
シリーズタブ.....	166
ビジュアライゼーションのリボンコマンド	168
ホームタブ.....	168
フォーマットタブ.....	170
表示タブ.....	172
フィールドタブ.....	173
シリーズタブ.....	174
9. InfoAssist+ 警告メッセージの理解	177
InfoAssist+ 警告メッセージ	177
未サポートの構文およびオブジェクト	180
A. 用語集	183
Legal and Third-Party Notices	193

1

データの操作

InfoAssist+ の強力な機能を使用して、データの結合やデータの混合などの操作を実行することができます。現在の環境で追加のデータソースを使用したり、複数のデータソースを統合したりする必要がある場合、このセクションで説明する機能を使用して、データおよびデータソースを操作することができます。

具体的には、現在のデータソースと別のデータソースを結合する操作があります。また、現在のデータソースに別のデータソースのデータを混合する操作もあります。これらの機能を使用して、より大規模な、より多くのカスタムデータセットを作成し、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションの作成に使用することができます。

ここでは、一時項目 (DEFINE)、一時項目 (COMPUTE)、データ結合 (JOIN)、データ混合、フィルタオプションなど、データ操作の概念について説明します。

トピックス

- ❑ [グラフのミッシングデータ](#)
 - ❑ [データソースの追加と切り替え](#)
 - ❑ [データのソース設定](#)
 - ❑ [Web Query での一時項目の作成](#)
 - ❑ [データの結合と混合](#)
 - ❑ [フィルタによるデータ表示のカスタマイズ](#)
 - ❑ [出力フォーマット](#)
-

グラフのミッシングデータ

グラフを作成する際に、ミッシングデータのオプションを使用して、グラフ上でのミッシング値の表示方法を制御することができます。

注意： レポートを作成する場合、このオプションは使用不可になります。

手順

ミッシングデータのオプションを指定するには

1. 1 つ以上のメジャーと 1 つのディメンションで構成されたグラフを作成します。
2. [データ] タブの [表示] グループで、[ミッシングデータ] をクリックします。

3. ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **間隔あり** 棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフで、ミッシング値を空白部分 (隙間) として表示します。
 - **ゼロ表示** 棒グラフでは、ゼロ線上に棒を表示します。折れ線グラフでは、ミッシング値と後続の値とを接続する実線を表示します。面グラフでは、ゼロ線上に面を表示します。
 - **補間線** 折れ線グラフでは、ミッシング値を、その点の直前と直後の 2 点を接続する補間点線として表示します。棒グラフでは、ミッシング値を補間された棒として表示します。面グラフでは、ミッシング値を面として表示します。

選択したオプションに基づいてグラフが表示されます。

データソースの追加と切り替え

ドキュメントモードで作業する際に、別のデータソースを追加することができます。複数のデータソースを追加した後、これらのデータソースを切り替えることができます。このオプションは、[データ] タブの [データソース] グループにあります。複数のレポートやグラフが配置されるドキュメントモードでは、アクティブにするレポートとグラフを切り替えることがよくあるため、データソースの切り替え機能が特に役立ちます。

注意: レポートオブジェクトで作業している場合、[データソース] グループは無効になります。

手順

データソースを追加して切り替えるには

1. InfoAssist+ をドキュメントモードで開きます。
2. レポートまたはグラフを追加します。
3. [データ] タブの [データソース] グループで、[追加] をクリックします。
4. [開く] ダイアログボックスでマスターファイルを選択し、[開く] をクリックします。

このオプションを使用すると、ドキュメントに別のデータソースを追加できるため、同一ドキュメントにさまざまなデータソースをベースにした複数のレポートを挿入することができます。リソースパネルがリフレッシュされ、追加したデータソースが表示されます。
5. [切り替え] をクリックし、利用可能なデータソースのいずれかを選択します。

このオプションをクリックするとドロップダウンリストが開き、追加されているデータソースがすべて表示されます。アクティブにするデータソース、つまり新しいレポートの作成に使用するデータソースを選択することができます。また、別の方法として、現在アクティブのデータソースと異なるデータソースを使用するレポートを選択することでデータソースを切り替えることもできます。リソースパネルには、選択したデータソースの構造が反映されます。

データのソース設定

データをプレビュー表示する際に、サンプルデータを表示することも、選択したデータソースの実データを表示することもできます。また、データソースから取得する実データの件数を設定して、[ライブプレビュー] デザインビューに表示するデータを制限することもできます。

注意: [ライブプレビュー] デザインビューでは、割り当て済みの領域内に表示が収まらないフィールドの横に警告アイコンが表示されます。割り当てられる領域のサイズは、ページレベルのスタイル設定で決定されます。ページレベルのスタイル設定には、ページサイズ、ページの方角、マージン、フォントサイズがあります。

ページ上に表示される (領域に収まる) コンテンツの範囲は、使用されているフォントおよびフォントサイズに応じて異なります。また、ページ上に表示されるコンテンツの範囲は、マージン、間隔、ページ要素 (例、見出し、脚注) によっても影響されます。

手順 データのソースを設定するには

1. 使用可能なマスターファイル (.mas) のデータを使用して、レポート、グラフ、ドキュメントのいずれかを作成します。
2. [ホーム] タブの [デザイン] グループで、[サンプルデータ] をクリックします。

レポートまたはグラフにサンプルデータが表示されます。この場合、実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。

3. [ライブデータ] をクリックして、最初に選択したデータソースを使用します。

この場合、選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。

4. 必要に応じて、データソースから取得する実データの件数を設定して、[ライブプレビュー] デザインビューに表示するデータを制限することもできます。[件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済み件数のいずれかを選択します。デフォルト値は [500] ですが、設定済み件数として、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] があります。

注意：大規模なデータを扱う場合、この機能を使用するとレスポンス時間が短縮されます。

Web Query での一時項目の作成

一時項目とは、その値自体はデータソースに保存されていないが、既存のデータから計算を行ったり、絶対値を割り当てたりできるフィールドです。一時項目には保存場所は不要です。保存場所は必要に応じて作成されます。一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) は、それぞれ異なるタイプの一時的フィールドです。

一時項目を作成する場合、式を記述してその値を生成します。1 つの値を生成するために、式にはフィールド、定数、演算子を組み合わせて使用することができます。たとえば、給与額および控除額で構成されるデータがある場合、次の式を使用して給与額に対する控除の割合を計算することができます。

`deduction / salary`

ユーザが独自に式を指定することもできますが、特定の計算や操作を行うために用意されたさまざまな関数の中から必要なものを選択することもできます。さらに、単純な式および関数を構成要素としてさらに複雑な式を作成したり、特定の一時項目を使用してその他の一時項目の評価を行ったりすることも可能です。

注意：一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) を作成する場合、[フィールド] テキストボックスに以下の文字を入力することはできません。入力した場合、その文字は除外されます。

ブランク ! " # \$ % ' () * + , / : ; < = > ? @ [\] ^ _ ` { | } ~

一時項目の選択

次の説明を参考にして、一時項目のタイプを選択します。

- ☐ **一時項目 (DEFINE)** 次の場合にこのタイプを選択します。
 - ☐ 一時項目 (DEFINE) を使用してレポートに表示するデータを選択する。この場合、一時項目 (COMPUTE) を使用することはできません。一時項目 (COMPUTE) では、データが選択された後でデータの評価が行われるためです。
 - ☐ 一時項目を使用してデータ値をソートする。一時項目 (COMPUTE) では、データがソートされた後にデータの評価が行われます。BY TOTAL 句を使用すると、このタイプのフィールドでソートを行うことができます。

- ❑ **一時項目 (COMPUTE)** 次の場合にこのタイプを選択します。
 - ❑ 合計値または演算接頭語 (合計値の演算を行う) を使用して一時項目を評価する。この場合、一時項目 (DEFINE) を使用することはできません。一時項目 (DEFINE) では、合計が計算される前に評価が行われるためです。
 - ❑ データ構造内の異なるパスに存在するフィールドを使用して一時項目を評価する。この場合、一時項目 (DEFINE) を使用することはできません。一時項目 (DEFINE) では、異なるパスのデータ間で関係が確立される前に評価が行われるためです。

一時項目 (DEFINE)

一時項目 (DEFINE) は、選択条件に一致するレコードをデータソースから取得する際に評価されます。式の結果は、データソースに実際に保存されている実フィールドのように扱われます。

一時項目 (DEFINE) の値を決定する計算は、実フィールドにおいて選別条件を満たすレコードが取得されてから、その各レコードで実行されます。

一時項目 (DEFINE) は、次の方法で定義することができます。

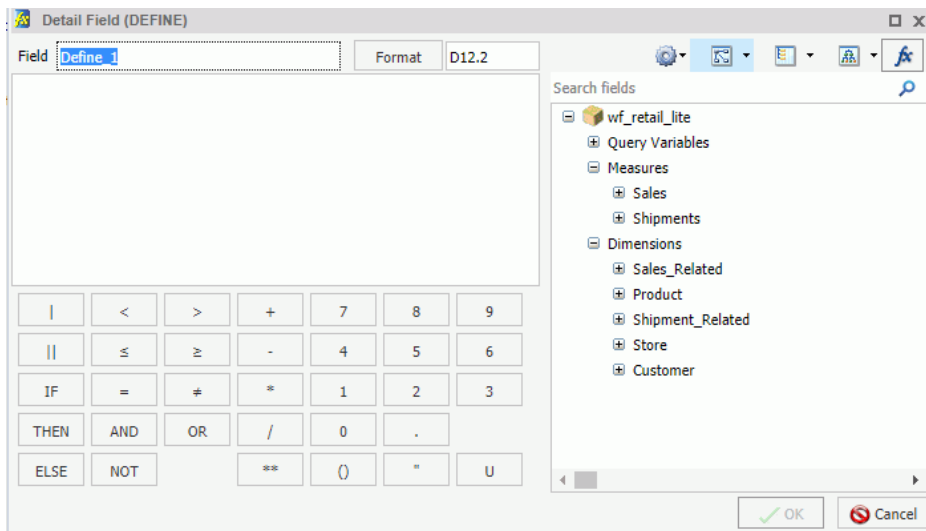
- ❑ **マスターファイル** この一時項目 (DEFINE) は、レポートの作成にデータソースが使用されている限り、常に使用することができます。この一時項目 (DEFINE) は、JOIN または DEFINE FILE コマンドでクリアすることはできません。
- ❑ **プロシジャで定義** プロシジャで作成された一時項目 (DEFINE) は、そのプロシジャでのみ持続します。

オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。

複数のデータソースを使用する必要がある場合は、マスターファイルで定義したフィールドに加えて、これらの複数データソースのフィールドを同時に定義することができます。すべての一時項目 (DEFINE) と実フィールドを合計した長さは、32,000 バイトを超えることはできません。

[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。


下図は、[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを示しています。



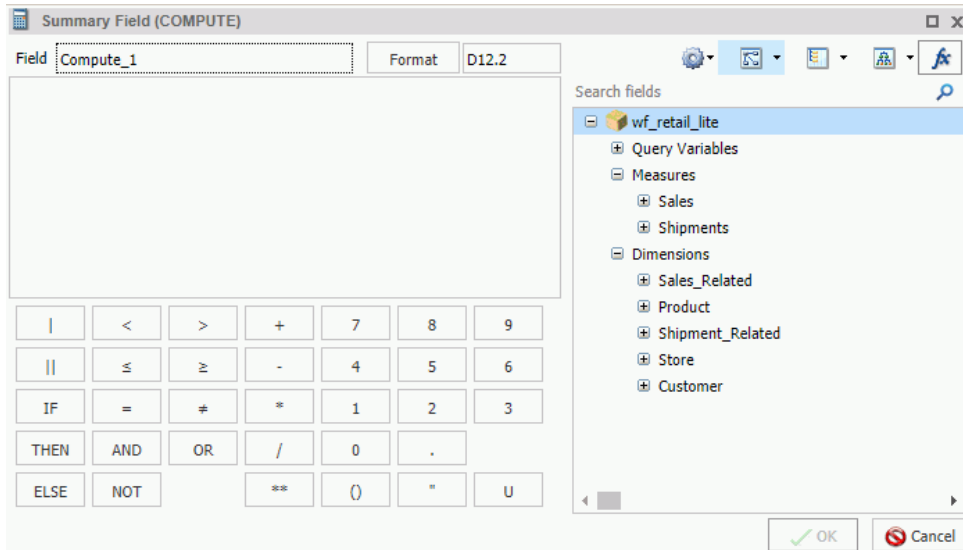
一時項目 (COMPUTE)

一時項目 (COMPUTE) は、選択条件に一致するすべてのデータが検索、ソート、集計された後で評価されます。その結果、この計算はフィールドの集計値を使用して実行されます。一時項目 (COMPUTE) は、指定したリクエストでのみ使用することができます。COMPUTE コマンドは、リクエストの本文で指定します。表示コマンドの後には、オプションとして AND を指定します。1 つの COMPUTE コマンドで複数フィールドの計算を行うことができます。

[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (COMPUTE) を作成することができます。

フィールドリストでは、データソースフィールドを論理形式、リスト形式、階層形式で表示するオプションなどの機能を使用することができます。また、[関数] ボタン  をクリックして、フィールドリストの代わりに関数リストを表示することもできます。

下図は、[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを示しています。

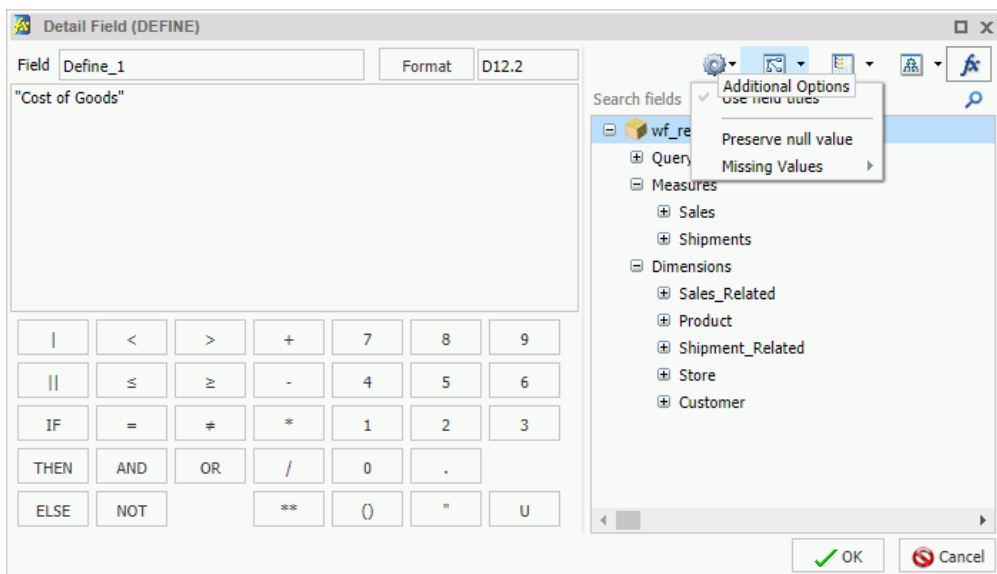


一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) でのフィールドタイトルの使用

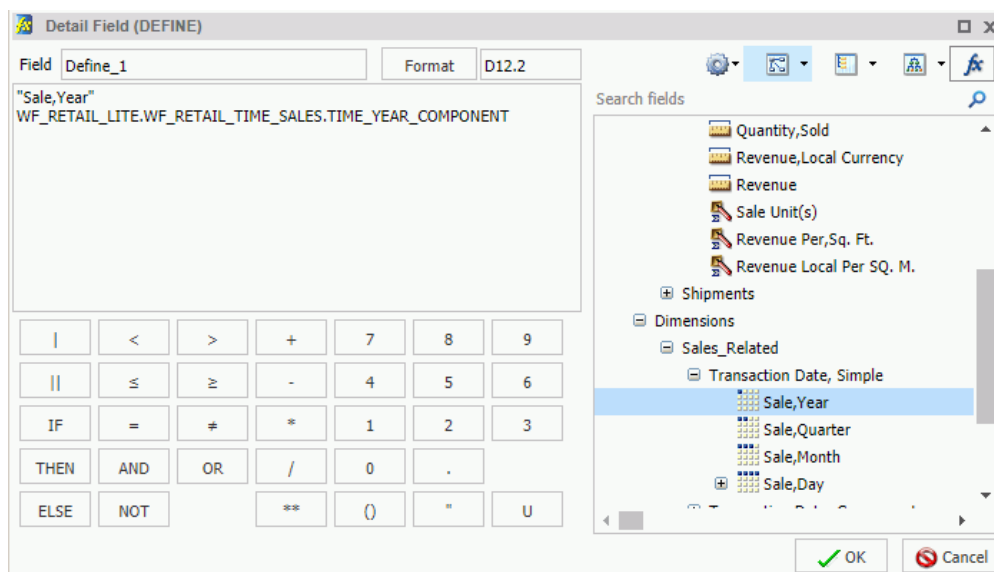
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) の作成時に、DEFINE または COMPUTE の式を入力するテキストエリアにフィールドタイトルが自動的に表示されます。

フィールドタイトルは、フィールド属性の 1 つです。フィールドタイトルはメタデータで定義され、選択したフィールドをフィールドタイトルで表示するよう指定した場合にのみ表示されます。メタデータでフィールドタイトルが定義されていない場合、表示されるタイトルは物理フィールド名になります。

[フィールドタイトルの使用] 機能を使用すると、フィールドの完全修飾名 (例、WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_SALES.COGS_US) ではなく、フィールドタイトル (例、売上原価) を表示することができます。これにより、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) の作成時にフィールドの識別が容易になります。フィールドタイトルの表示から完全修飾フィールド名の表示に切り替えるには、下図のように [その他のオプション] をクリックし、[フィールドタイトルの使用] のチェックをオフにします。



作成した一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) で、複数のフィールドに同一タイトルを使用した場合 (例、[売上年])、1 つ目のフィールドのみがフィールドタイトルを使用して追加されます。それ以外は、フィールドの完全修飾名が表示されます。たとえば、InfoAssist+ のサンプルデータソースで、[売上年] は、WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_YEAR と WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE_YEAR_COMPONENT の 2 つの一意のフィールドに対するフィールドタイトルとして表示されます。この場合、WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_YEAR のみが [売上年] のフィールドタイトルを使用して表示されます。もう一方のフィールドは、下図のように、完全修飾名を使用して表示されます。



注意: 一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) のコードを含むプロシジャを確認する場合、フィールド名は常に完全修飾名で表示されます。フィールドタイトルでは表示されません。

手順

一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) でフィールドタイトルを使用するには

1. レポートまたはグラフモードで、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) を作成します。
2. メタデータツリーでこれらをダブルクリックしてフィールドを追加します。

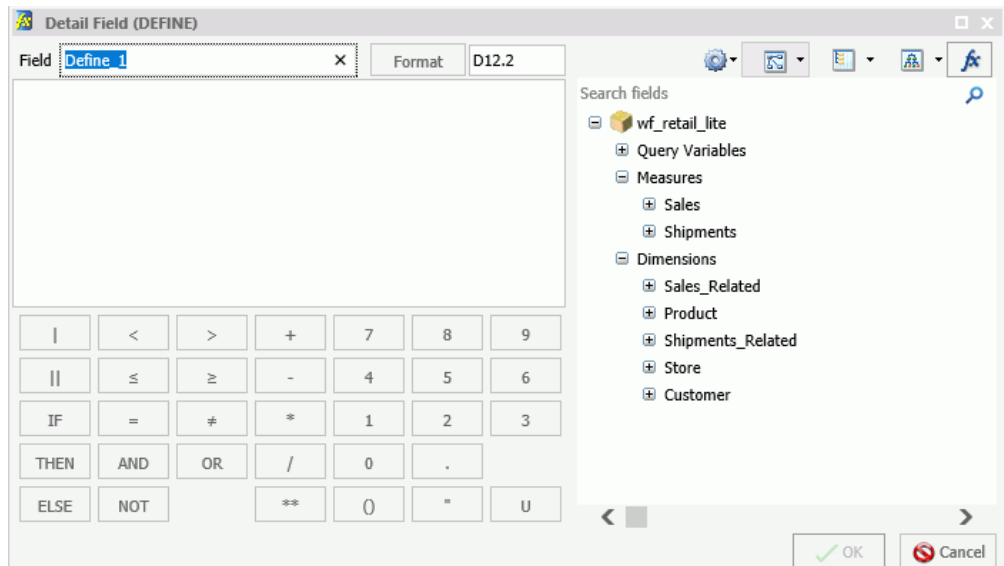
注意: 選択したフィールドはフィールドタイトルで表示されます。これがデフォルト設定のオプションです。指定したフィールドのフィールドタイトルが別のフィールドのフィールドタイトルと重複する場合、2 つ目以降のインスタンスには完全修飾フィールド名が使用されます。

3. [その他のオプション]、[フィールドタイトルの使用] を順にクリックして、フィールドタイトルの使用を無効にすると、フィールド名が完全修飾名で表示されます。

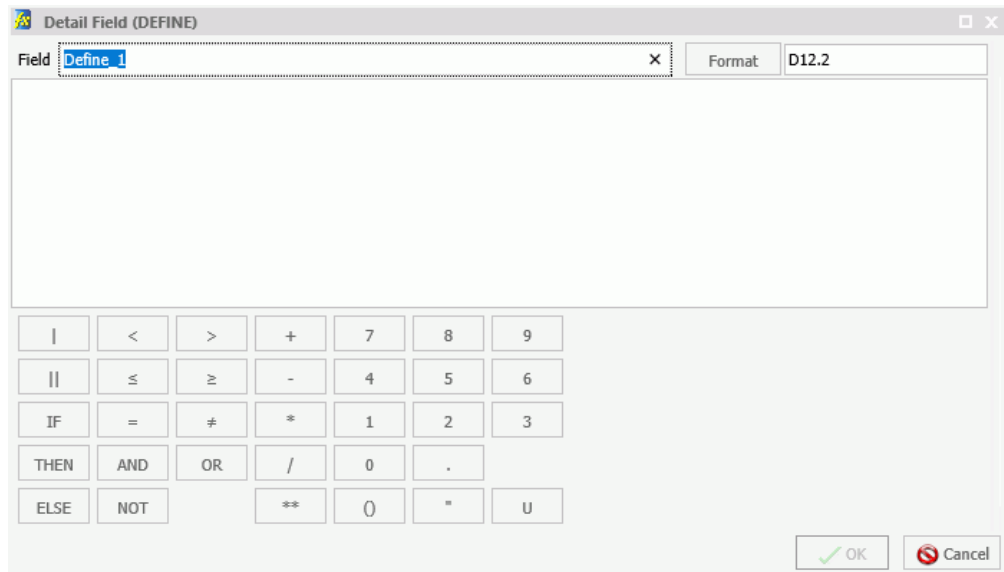
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) ダイアログボックスでのテキストエリアの幅の調整

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) を作成する際のダイアログボックスで、クエリに使用するフィールド名の長さに合わせてテキストエリアの幅を調整することができます。これは、完全修飾名や長い数式を使用し、標準のテキストエリアの幅に収まらない場合に特に役立ちます。

下図のように、初期状態のテキストエリアは、演算ボタンエリアと同一の幅で表示されます。



テキストエリアを完全に拡張すると、表示されていたメタデータツリーとツールバーが非表示になります。



手順

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) ダイアログボックスのテキストエリアの幅を調整するには

1. InfoAssist+ をレポートモードまたはグラフモードで開きます。
2. マスターファイルを選択します。
3. [データ] タブで、[一時項目 (DEFINE)] または [一時項目 (COMPUTE)] をクリックします。
[一時項目 (DEFINE)] または [一時項目 (COMPUTE)] が表示されます。
4. テキストエリア右端の境界上にマウスポインタを置くと、両矢印が表示されます。
5. 両矢印をクリックして右側にドラッグします。

テキストエリアの幅が調整されます。

注意

- ❑ 現在のセッションでテキストエリアを拡張すると、InfoAssist+ によって拡張された状態が保持され、アプリケーションの他のエリアでも使用されます。たとえば、一時項目 (DEFINE) の作成時にテキストエリアを拡張した場合、一時項目 (COMPUTE) の作成時にもテキストエリアが拡張された状態で表示されます。

- 拡張された状態でテキストエリアを使用する場合、テキストエリア右端の境界上にマウスポインタを置き、両矢印が表示されると、メタデータツリーおよびツールバーを元の状態に戻すことができます。ここで矢印をクリックし、必要に応じて左右にドラッグします。

マスターファイルから独立した一時項目の作成

DEFINE および COMPUTE コマンドで作成する一時項目は、特定のマスターファイルに関連付けられます。また、COMPUTE コマンドで計算した値は、特定のリクエストに関連付けられます。ただし、DEFINE FUNCTION コマンドを使用すると、マスターファイル、リクエストのどちらからも独立した一時項目を作成することができます。

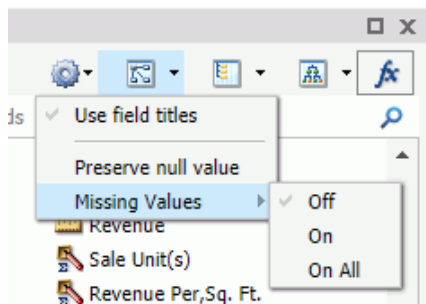
DEFINE 関数は、複数の計算で構成された名前付きのグループで、任意の数の入力値を使用して値を返します。DEFINE 関数を呼び出す場合は、最初にその関数を定義しておく必要があります。

DEFINE 関数は、製品に付属の関数を使用できる状況のほとんどで呼び出すことができます。データタイプは、それぞれの引数と併せて定義します。引数の値を変更する場合は、そのフォーマットを定義済みのフォーマットと一致させる必要があります。文字の引数が指定フォーマットより短い場合は、ブランクが追加されます。また、文字の引数が長い場合は、末尾が省略されます。

関数内のすべての計算は、倍精度で実行されます。フォーマットを変換するには、一時項目を定義する割り当て内で等号 (=) を使用します。

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) のミッシング値表示の有効化

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) を作成する際に、[ミッシング値] オプションを使用して、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) のミッシング値を表示するかどうかを制御することができます。これにより、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションでミッシング値を正確に表示することができます。[ミッシング値] オプションにアクセスするには、下図のように [その他のオプション] ボタンをクリックします。



以下は、[ミッシング値] ドロップダウンリストの各オプションについての説明です。

- ❑ **オフ** このオプションを選択すると、DEFINE または COMPUTE フィールド定義から MISSING 構文が削除されます。これがデフォルト値です。MISSING は、数値フィールドの場合はミッシング値を 0 (ゼロ) として処理し、文字フィールドの場合はミッシング値をブランクとして処理します。
- ❑ **オン** このオプションを選択すると、DEFINE または COMPUTE フィールド定義で指定されたフォーマットの後に「MISSING ON」が追加されます。MISSING ON は、一時項目をミッシング値として解釈します。
- ❑ **すべてオン** このオプションを選択すると、DEFINE または COMPUTE フィールド定義で指定されたフォーマットの後に「MISSING ON ALL」が追加されます。MISSING ON ALL は、式で指定されたフィールドすべてに値が存在する場合、一時項目に値が存在すると解釈します。式で指定されたフィールドの少なくとも 1 つにミッシング値が存在する場合にも、一時項目にミッシング値があると解釈します。

データの結合と混合

複数の関連するデータソースを結合して大規模な統合データ構造を作成し、そのデータ構造から単一クエストでレポートを作成することができます。この結合 (JOIN) は仮想構造です。結合された複数のデータソースには、単一データソースのようにアクセスすることができます。その結果、レポートやグラフの作成に使用可能なフィールド数が増大するため、作成するコンテンツの拡張性が向上します。

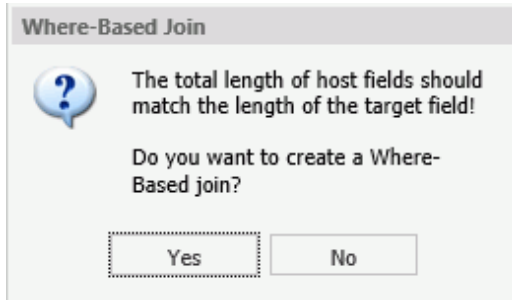
JOIN

条件付き JOIN を使用すると、フィールド間の等価性とは別の条件に基づいて JOIN を設定することができます。さらに、ホストおよびクロスリファレンス JOIN フィールドに同一フォーマットを含めたり、クロスリファレンスフィールドにインデックスを付ける必要がなくなります。

注意: [JOIN] ダイアログボックスの [編集] をクリックし、[説明] セクションに説明を入力することで、JOIN の説明を編集することができます。この説明には、文字、数字、アンダースコア () のみを使用できます。特殊文字を使用することはできません。

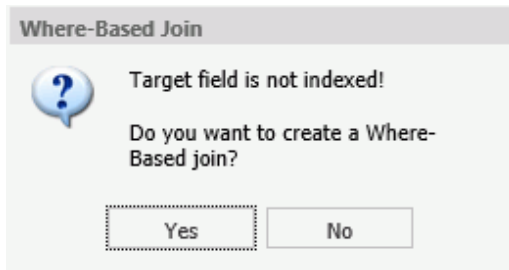
条件付き JOIN は、すべてのリレーショナルデータアダプタでサポートされます。各データソースは複雑な条件の処理能力において異なるため、WHERE 構文の最適化は JOIN に関わる特定データソースおよび条件の複雑さにより異なります。

データソースでは、ホスト JOIN フィールドとクロスリファレンス JOIN フィールドに共通するフォーマットがない場合、次のメッセージが表示されます。



注意：[はい] をクリックすると、[フィルタの作成] ダイアログボックスが開いて、WHERE ベースの JOIN を作成することができます。

クロスリファレンス JOIN フィールドにインデックスがない場合、次のメッセージが表示されます。



注意：[はい] をクリックすると、[フィルタの作成] ダイアログボックスが開いて、WHERE ベースの JOIN を作成することができます。

WHERE ベースの JOIN を作成するには、フィルタ条件を作成します。

データの混合

[混合] オプションを使用すると、JOIN に含めるデータフィールドを明示的に選択することができます。具体的には、複数のマルチファクトデータ構造を結合したり、関連する外部データを現在のデータソースに統合したりすることで、混合されたデータリソースを作成することができます。混合するデータは、ローカルリソースから選択することも、他のシステムリソースから選択することも可能です。

カスタムデータソースを作成するには、[混合] オプションを使用します。たとえば、現在のデータソースから一部の基本フィールドを使用し、さらに [混合] オプションを使用して関連するデータフィールドを別のデータソースから追加することで、独自のデータセットを作成することができます。

[混合] オプションを使用すると、新しいファクトテーブルを、既存の子セグメントの親セグメントとしてクラスタマスターに追加することができます。このオプションは、[JOIN] ダイアログボックスに表示されます。データを混合する例として、共通のディメンション (例、製品ディメンション) を共有する 2 つのファクトテーブルからレポートを作成する場合があります。この例は、wf_retail_lite サンプルデータベースで確認することができます。wf_retail_lite マスターファイルには、WF_RETAIL_STORE_SALES セグメントと WF_RETAIL_SALES セグメントが格納されています。WF_RETAIL_SALES セグメントは、WF_RETAIL_STORE_SALES セグメントの親として定義されています。次の例では、2 つ目のファクトテーブルをレポートに追加します。この例では、2 つ目のファクトテーブルは、InfoAssist+ にアップロードしてレポートまたはグラフの作成に使用する Excel スプレッドシートです。アップロードするスプレッドシートファイルのデータは、共通フィールドに基づいて wf_retail_lite データベースに結合されます。

注意：[データ] ウィンドウの検索機能を使用して、選択したデータベース (例、wf_retail_lite) で共通フィールドを検索することができます。必要に応じて、アップロードするデータをデータベース構造にマッピングするために、スプレッドシートにフィールドを追加することもできます。たとえば、ID_CUSTOMER フィールドを追加します。Microsoft Excel ファイルの最初のシート名が新しいデータソース名になるため、ファイルには適切な名前を使用する必要があります。

[混合] オプションに適用される一般的な規則は次のとおりです。

1. データを混合した結果、単一のディメンションが 2 つのファクトテーブルで共有されます。テーブルは、少なくとも 2 つのセグメントで構成されたクラスタに基づく必要があります。1 つ目のセグメントはファクトテーブル 1 として使用され、2 つ目のセグメントはディメンションとして使用されます。
2. アップロードした 2 つのファイルを混合することはできません。これは、これらのファイルから単一セグメントのマスターファイルが作成されるためです。
3. 混合されたテーブルのフィールドをソートフィールドとして使用しないでください。これは、別のファクトテーブルのフィールドとともに使用する際に、これらのフィールドに共通フィールドが存在しなくなるためです。

手順 データを混合するには

次の手順では、外部データソースのデータを既存のデータソースに混合する方法を説明します。この例では、Microsoft Excel スプレッドシートファイルを使用します。

1. [データ] タブの [JOIN] グループで、[JOIN] をクリックします。

[JOIN] ダイアログボックスが表示されます。

2. [追加] をクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

注意：[開く] ダイアログボックスに表示されるオプションは、ユーザ権限に応じて異なります。

3. [開く] ダイアログボックスの上部で [データのアップロード] をクリックします。

アップロードウィザードが開きます。

4. Microsoft Excel スプレッドシートファイルを [アップロード] ウィンドウにドラッグするか、[アップロードするファイルの選択] をクリックしてローカルドライブ上のファイルを選択します。

アップロードウィザードの次の画面が開きます。ファイルをターゲット環境にアップロードする前に、この画面の各種オプションを使用して、スプレッドシートや区切りデータファイルをプレビュー表示し、変更を加えることができます。この画面には、デフォルト設定でデータがメジャー、ディメンション、階層に分解された結果が表示されます。

5. リボンの [ロードして次へ] をクリックします。

[ターゲットロードオプション] ダイアログボックスが開きます。

注意：デフォルト設定では、[バルクロード] のチェックはオンです。ターゲット環境をサポートするバルクロードプログラムが存在しない場合は、このチェックをオフにします。たとえば、Microsoft SQL Server を使用している場合は、Bulk Copy Program (BCP) を使用することができます。バルクロードプログラムがインストールされているかどうかが不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

6. [ロードに進む] をクリックします。

アップロードウィザードが閉じ、[開く] ダイアログボックスに戻ります。

注意：情報メッセージがある場合、またはアップロードに失敗した場合は、[ステータス] 画面が開きます。

7. [開く] ダイアログボックスで、アップロードしたデータソース名を選択し、[開く] をクリックします。

8. [JOIN] ダイアログボックスで、マスターファイル内のフィールドをドラッグし、新しくアップロードしたファイルの共通フィールドにドロップして、これらの共通フィールドを接続する線を作成します。
9. [混合] をクリックし、[OK] をクリックします。

混合されたフィールドが [データ] ウィンドウで使用可能になります。

フィルタによるデータ表示のカスタマイズ

フィルタを使用して、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションのデータ表示をカスタマイズすることができます。フィルタは、着目するデータのみを表示したい場合に役立ちます。

レポートを作成する際に、リクエストのさまざまな箇所でフィールドを参照します。たとえば、表示コマンド (PRINT、SUM)、ソート句 (BY、ACROSS)、選択条件 (WHERE、WHERE TOTAL、IF) でフィールドを参照します。

注意： ESSBASE 階層データソースを使用する場合、ソートフィールドに対してフィルタを作成することはできません。

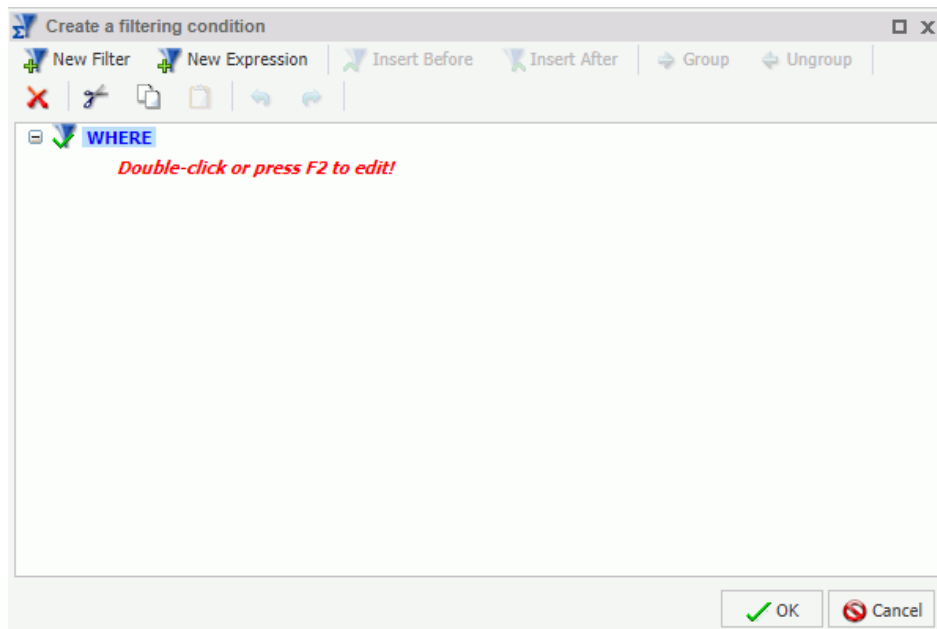
WHERE 句を使用して、レポートに表示するレコードをデータソースから選択します。選択条件に基づいてデータが評価され、データがデータソースから取得されます。選択条件の定義には、必要な数の WHERE 句を任意に使用することができます。

逆に、WHERE TOTAL テストでは、すべてのデータが取得、処理された後でそのデータが選択されます。

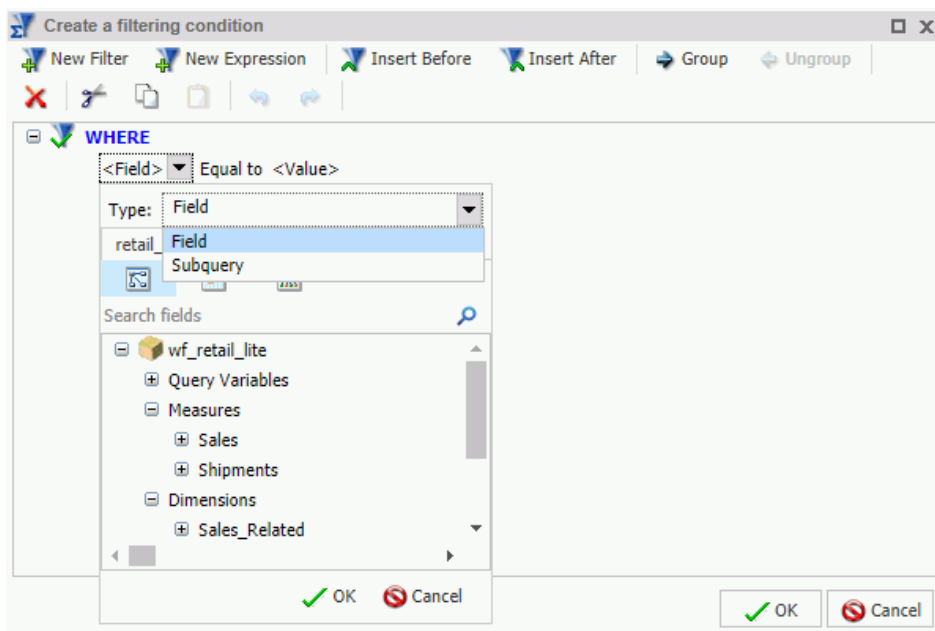
フィルタ条件内では、条件と式をグループ化することができます。また、条件内で関数や演算を適用することもできます。

[フィルタの作成] ダイアログボックスで [WHERE] をクリックすると、WHERE 条件および WHERE TOTAL 条件によるフィルタを作成することができます。

[ダブルクリックするか、F2 キーを押して編集してください] をダブルクリックすると、2 つ目の図のように、[フィールド]、[演算子]、[値] ドロップダウンリストが表示されます。

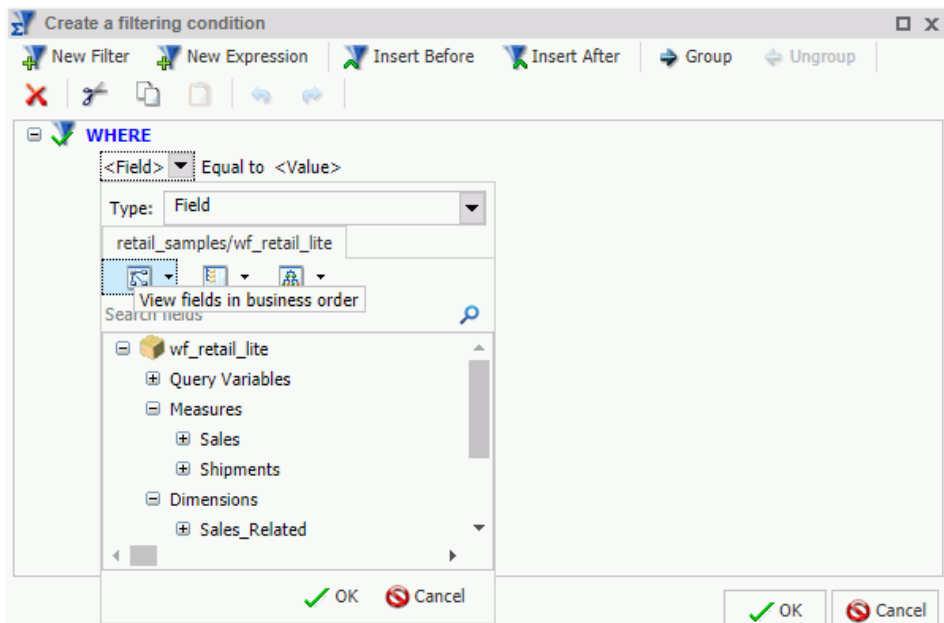


フィールドと値は、マスターファイルおよびデータソース、サブクエリは HOLD ファイルから取得することができます。

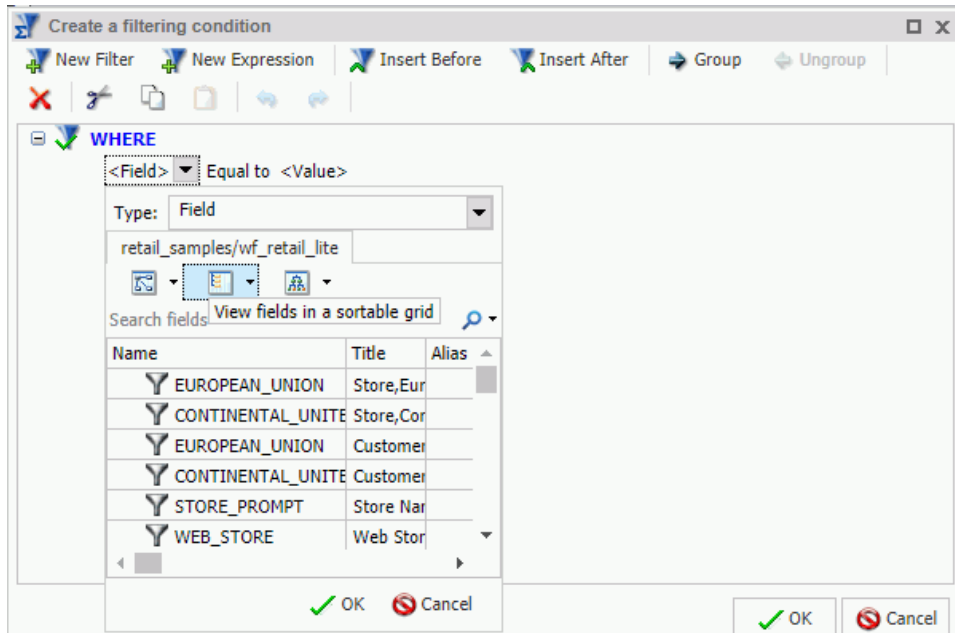


[フィールド] ドロップダウンリストには、マスターファイルのフィールドリストが表示されます。フィールドリストには、次の表示方法があります。

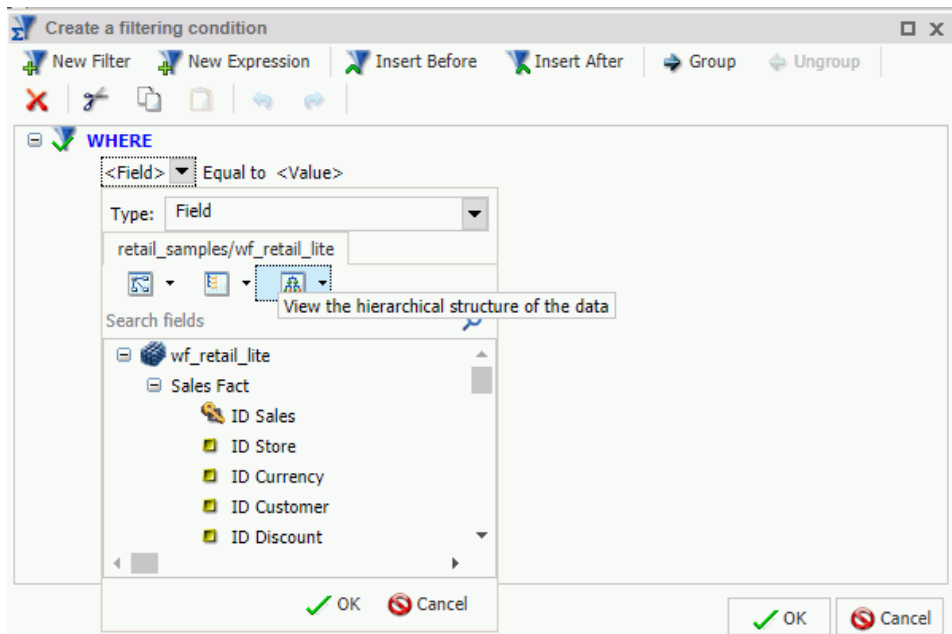
- ☐ ビジネス順 (デフォルト設定)



□ ソート可能なリスト形式

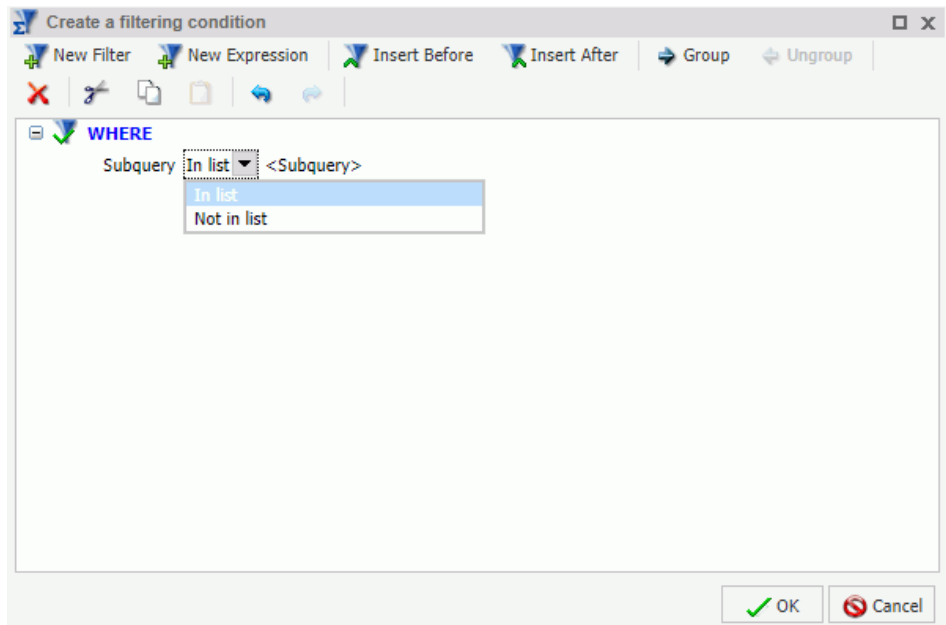


□ データの階層構造



□ 下図のように、[サブクエリ]を選択すると、[演算子] ドロップダウンリストが [リストに存
Db2 Web Query InfoAssist+ 利用ガイド Part 2

在する] または [リストに存在しない] オプションを選択するメニューに切り替わります。



注意：レポートオブジェクトからレポートを作成する場合、[フィルタの作成] ダイアログボックスで [サブクエリ] オプションを使用することはできません。

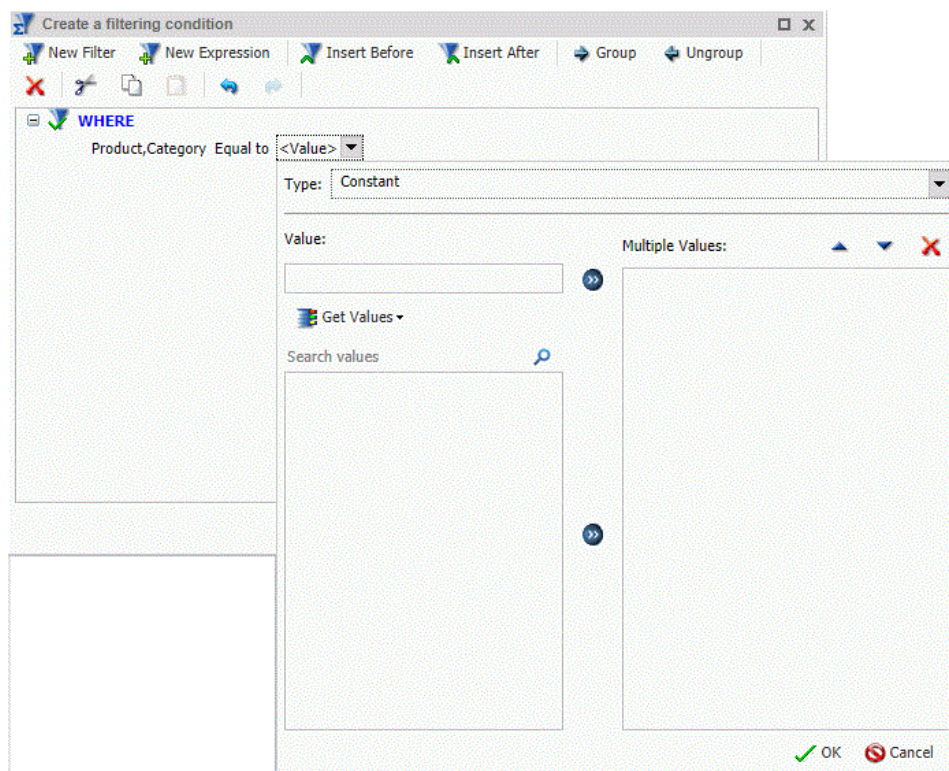
- ❑ **リストに存在する** 式の右端のドロップダウンリストを有効にします。このドロップダウンリストには、使用中のマスターファイルから作成されたすべてのサブクエリの一覧が表示されます。

[既存] をクリックすると、[開く] ダイアログボックスが開き、別のマスターファイルからサブクエリを選択することができます。

- ❑ **リストに存在しない** [開く] ダイアログボックスが開き、別のマスターファイルからサブクエリを選択することができます。

[演算子] (デフォルト) ドロップダウンリストには、フィルタに使用可能な演算子のリストが表示されます。たとえば、[等しい] を選択します。

下図のように、[値] ドロップダウンリストで、複数のオプションを提供するダイアログボックスを開くことができます。



注意：完全な日付フォーマットのフィールドでフィルタを作成する場合は、[値] テキストボックスの横にカレンダーが表示されます。このアイコンを使用して、カレンダーコントロールから日付を選択することができます。

[タイプ] ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

- ☐ **定数** リテラル値を入力することができます。正の値、負の値、任意の文字列を入力できます。
- ☐ **パラメータ** テキストボックスに名前と説明を入力してパラメータを指定し、パラメータのタイプとして [実行時に入力]、[静的]、[動的] のいずれかを選択することができます。

[実行時に入力] パラメータを指定してフィルタを作成すると、デフォルト設定で、このプロシジャ (.fex) 内の実行時入力パラメータを定義する行の末尾に「QUOTEDSTRING」が挿入されます。この場合、この値が挿入されたプロシジャ (.fex) を実行した際に、実行時入力パラメータに対して複数の値を入力できなくなります。

また、[オプション] を選択して、このパラメータをオプションパラメータ (必要に応じて使用されるパラメータ) として設定することもできます。この場合、デフォルト値の「_FOC_NULL」が追加され、このパラメータがプロシジャから除外されます。さらに、[オプション] を選択すると、プロシジャ内でパラメータプロンプト機能が無効になります。そのため、レポートにオプションパラメータが含まれている場合、パラメータプロンプトが表示されずにレポートが実行されます。ただし、別のレポートからこのレポートにドリルダウンした場合はパラメータが受容され、そのパラメータ値でレポートが実行されます。[オプション] チェックボックスは、主として別のレポートがこのレポートにドリルダウンし、このレポートにパラメータを渡す場合に使用します。

[フィルタの作成] ダイアログボックスで WHERE 句を定義する際に、実行時に入力するパラメータ、静的なパラメータ、動的なパラメータを作成することができます。これらのパラメータ値はローカル変数に変換され、データのコンテキストまたはユーザの選択によってレポートのコンテンツ実行時に定義することができます。また、このパラメータ (変数) の適用範囲をローカルからグローバルに変更することで、ページまたはレイアウトの複数コンポーネントで値を使用できるようにすることができます。パラメータ (変数) の適用範囲をグローバルに変換するには、パラメータ名フィールドの先頭文字にアンパサンド (&) を 1 つ追加します。

注意：アンパサンド記号 (&) は、パラメータの適用範囲を定義するパラメータ名の先頭文字にのみ入力できます。それ以外の文字位置ではパラメータのフィールド名にアンパサンド記号 (&) を含めることはできません。

パラメータの説明は、パラメータプロンプトの定義に使用されます。説明には、任意の位置にブランクを挿入することができます。先頭文字を一重引用符 (') にすることはできません。また、アンパサンド (&)、ピリオド (.)、セミコロン (;)、括弧 () もパラメータのプロンプトに使用することはできません。

下図は、パラメータのオプションを示しています。

□ **フィールド** 比較するフィールド名を指定することができます。

通常、[値] エリアにはテキストボックスが表示され、値を直接入力することができます。ただし、日付フィールドを使用する場合は、[値] テキストボックスが [今日] に設定されます。必要に応じて、[月の開始]、[月の終了]、[四半期の開始]、[四半期の終了]、[年の開始]、[年の終了] のいずれかを選択することも、[カスタム日付] を選択してカレンダーから特定の日付を指定することもできます。

注意：デフォルト日付の [今日] は、レポートモード、グラフモード、ドキュメントモードにのみ適用されます。

また、[値] エリアの [値の取得] ドロップダウンリストには、次のオプションが表示されます。

□ **すべて** 選択したフィールドの値をすべて取得します。

□ **最初** 選択したフィールドの最初の値を取得します。

□ **最後** 選択したフィールドの最後の値を取得します。

□ **最小** 選択したフィールドの最小値を取得します。

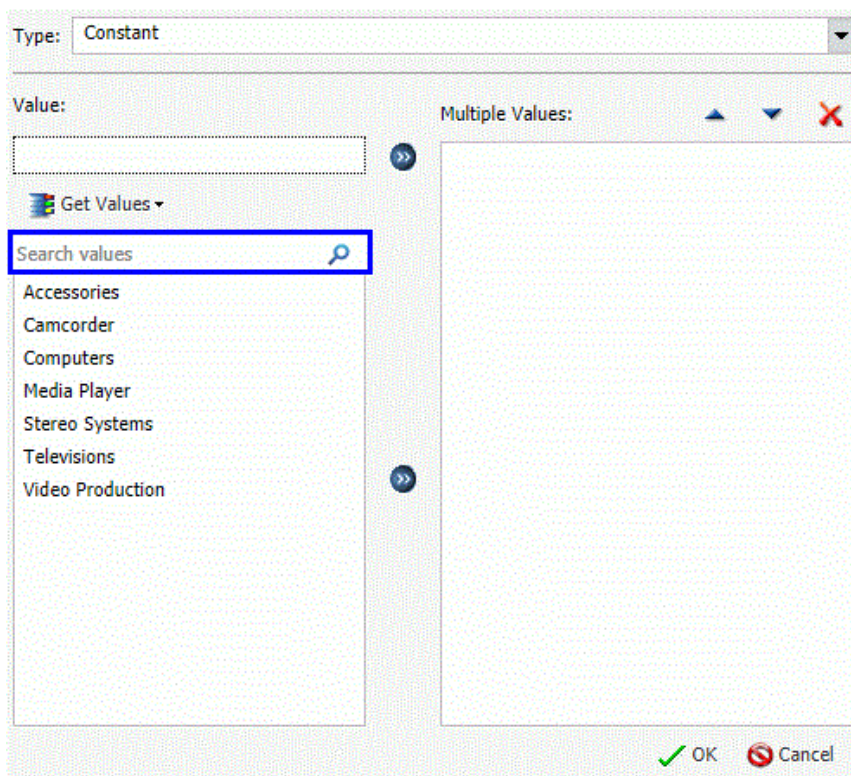
□ **最大** 選択したフィールドの最大値を取得します。

□ **ファイルから** 指定された値を取得します。このオプションを選択すると、[ファイルから選択] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで、ローカルファイルを選択し、ファイルフォーマットを指定することができます (例、Flat File (CSV)、Excel スプレッドシート (XLS、XLSX))。

数値データの値は、Flat File または CSV から使用可能なフィルタ値に整数としてインポートされます。このインポートでは、マイナス記号 (-)、数字、小数点を含む数値がサポートされます。通貨記号またはカンマ (,) を含む数値はインポートされますが、[フィルタの作成] ダイアログボックスの [値] テキストボックスの表示では正しく解釈されない可能性があります。複雑なフォーマット設定が必要な値を含むテキストファイルまたは CSV ファイルは、Excel の適切なフォーマット設定で開いたり保存したりできます。その後、この Excel ファイルは、フォーマット設定を保持したままインポートすることができます。

注意：[値の取得] ドロップダウンリストを使用するには、最初にフィールドを選択しておく必要があります。

[値の取得] オプションのいずれかを使用して値を取得した後、[検索する値] テキストボックスを使用してリスト内のレコードをすばやく特定することができます。たとえば、「S」と入力すると、「S」で始まるレコードのみがリストに表示されます。この機能は、先行入力検索とも呼ばれ、選択する値の位置に直接移動できるため、値の特定が容易になります。アスタリスク (*) などのワイルドカードもサポートされます。下図は、[検索する値] テキストボックスを示しています。



目的の値を選択後、左右の矢印を使用して、その値を [複数値] エリアに追加したり、[複数値] エリアから削除したりできます。上下の矢印で値の順序を変更することや、削除アイコンで値を削除することもできます。

条件の作成後、[フィルタの作成] のダイアログボックス上部の [前に挿入] ボタンと [後に挿入] ボタンを使用して、作成した条件の前後に条件を追加することができます。[AND] または [OR] 接続詞を使用して条件を結合することや、[グループ] ボタンおよび [グループ解除] ボタンを使用して条件をネスト、整理することができます。

また、[新規] ボタンをクリックして、フィルタに式を追加することもできます。このボタンをクリックすると、新しい WHERE 句が追加され、式を動的に作成することができます。

[フィルタの作成] ダイアログボックス上部の [新規フィルタ] ボタンをクリックして、新しいフィルタを作成することもできます。

フィルタの作成後、[OK] をクリックしてフィルタを保存、適用します。これらにアクセスするには、リソースパネルの [フィルタ] パネルを使用します。

注意：ライブプレビューに表示される日付には、データソースで指定されたフォーマットが反映されます。ただし、日付フォーマットのフィールドにフィルタが適用されている場合、[フィルタ] ウィンドウに表示される日付のフォーマットはロケールから取得されます。レポート、グラフ、ビジュアライゼーションを実行した際は、データソースで指定されたフォーマットが出力結果およびプロンプトに反映されます。

フィルタの設定および解除

フィルタを作成した後、状況に応じてレポートにフィルタを適用するかどうかを決定することができます。たとえば、複数のフィルタを作成した後、一方のフィルタは適用するが、他方のフィルタは適用しないよう設定したい場合があります。[ホーム] タブまたは [フィールド] タブの [フィルタ] グループの [条件の設定] および [条件の解除] オプションを使用して、フィルタを適用するかどうかを設定することができます。

フィルタを適用するかどうかを決定するには、次のオプションを使用します。

☐ **除外** レポートからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。

☐ **条件の設定** レポートから除外されたフィルタを元に戻します。

プロンプト機能による実行時のフィールド情報の選択

プロンプト機能を使用して、実行時に値を指定するオートプロンプトパラメータを作成することができます。この機能は、[フィールド] タブの [フィルタ] グループにあります。

オートプロンプトパラメータを作成するには、次の手順を実行します。

1. レポート内でパラメータを作成するフィールドを選択します。
2. [フィールド] タブの [フィルタ] グループで、[フィルタ] をクリックします。

[フィルタの作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. [値] フィールドをダブルクリックします。

注意：プロンプトを定義する際は、デフォルト設定で [パラメータ] が選択されています。

次のオプションのいずれかを選択します。

- ☐ **実行時に入力** テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。
- ☐ **静的** 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。
- ☐ **動的** データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。

注意：必要に応じて [オプション] を選択し、選択した値 ([実行時に入力]、[静的]、[動的]) がオプションであることを指定します。

4. [OK] をクリックし、[OK] を再度クリックして [フィルタの作成] ダイアログボックスを閉じます。

レポートを実行すると、作成したパラメータに基づいて情報の入力または選択を要求するプロンプトが表示されます。

出力フォーマット

[ホーム] タブの [フォーマット] グループで出力フォーマットを変更することができます。

- ☐ **現在の出力フォーマット** ドロップダウンメニューが開き、サポートされている出力フォーマットがすべて表示されます。
 - ☐ PNG (グラフでのみ使用可能)、HTML (グラフおよびレポートのデフォルト)
 - ☐ HTML5 (グラフでのみ使用可能)
 - ☐ Active Report (レイアウトのデフォルト)
 - ☐ PDF
 - ☐ Active PDF
 - ☐ Excel (XLSX) ([ライブプレビュー] および [クエリ] デザインビューでデザインされたレポートのみ)
 - ☐ Excel Formula (XLSX) ([ライブプレビュー] および [クエリ] デザインビューでデザインされたレポートのみ)
 - ☐ Excel (CSV)

注意：Db2 Web Query 管理コンソールの [InfoAssist+ のプロパティ] セクションで、Excel 関連の出力フォーマットをリストに表示するかどうかを制御することができます。

□ PowerPoint (PPTX)

レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットは、キャンバス右下のステータスバーの [出力フォーマット] メニューから選択することもできます。

- **レポートまたはグラフ** InfoAssist+ で使用する機能を、レポートに特化した機能にするか、グラフに特化した機能するかを決定します。InfoAssist+ の各セッションで作成した新しいレポートまたはグラフには、「レポート X」または「グラフ Y」というデフォルト名が付けられます。ここで、X および Y は、作成したレポートまたはグラフごとに、1 から始まり、1 ずつ増加する値を表します。複数レポート間の切り替えについての詳細は、[View Tab](#) を参照してください。
- **ファイルグラフからイメージファイル、またはレポートからデータファイルを作成します。** 詳細は、40 ページの「[レポートおよびグラフの出力フォーマット](#)」を参照してください。

フォーマット	レポート	グラフ	ドキュメント
HTML	使用可 (デフォルト)	使用可 (デフォルト)	使用可
HTML5	使用不可	使用可	使用不可
Active Report	使用可	使用可	使用可
PDF	使用可	使用可	使用可 (ドキュメントのデフォルト)
Active PDF (Adobe Reader 9.0 以降が必要)	使用可	使用可	使用可
Excel フォーマット	使用可	使用可	使用可
PowerPoint (PPTX)	使用可	使用可	使用可

フォーマット	レポート	グラフ	ドキュメント
PDF/GIF (InfoAssist+ のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
PNG (InfoAssist+ のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
GIF (InfoAssist+ のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
JPEG (InfoAssist+ のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
SVG (InfoAssist+ のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可

HTML5

HTML5 は、グラフのデフォルト出力フォーマットです。この出力フォーマットでは、ビルトインの JavaScript エンジンを使用して、グラフをブラウザに表示することができます。この出力フォーマットのグラフでは、アニメーション、高品質ベクタ出力、アルファチャンネル、グラデーション効果など、HTML5 Web 標準の最新の機能を活用することができます。

追加の出力タイプの有効化

デフォルト設定では、[ホーム] タブの [出力タイプ] メニューおよびキャンバス右下のステータスバーの [出力タイプ] メニューに PNG、GIF、JPEG、SVG 出力フォーマットは表示されません。また、[ユーザ選択] 出力タイプもデフォルト設定では表示されません。これらの出力タイプを有効にするには、管理コンソールを開き、[ユーティリティ]、[InfoAssist+ のプロパティ] を順に選択します。

これらのフォーマットが有効化されていない場合に、PNG を含む既存のプロシジャを開くと、出力は HTML になります。また、次のような警告メッセージが表示される場合があります。

- ❑ JPG、GIF、または SVG フォーマットを含む既存のプロシジャを開くと、そのリクエストは現在の構成では許可されず、プロシジャは HTML 出力に変換されることを示す警告メッセージが表示されます。
- ❑ PDF または GIF フォーマットを含む既存のプロシジャを開くと、そのリクエストは現在の構成では許可されず、プロシジャは PDF 出力に変換されることを示す警告メッセージが表示されます。

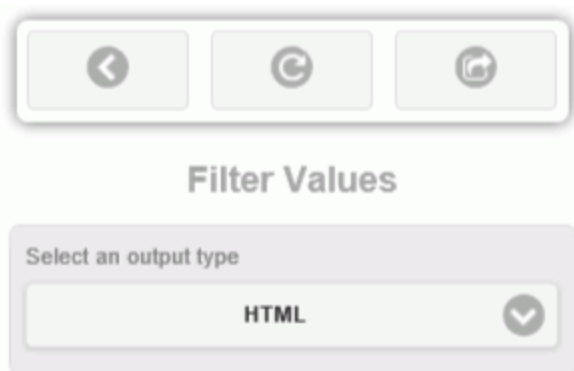
レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットは、ステータスバーの [出力フォーマット] ボタンで設定することもできます。

ユーザ選択

[ユーザ選択] 出力フォーマットを使用すると、実行時にユーザがレポートの出力タイプを変更することができます。[ユーザ選択] 出力フォーマットは、[ホーム] タブの [出力タイプ] メニューまたはキャンバス右下のステータスバーの [出力タイプ] メニューから選択可能です。

注意: [ユーザ選択] 出力フォーマットを選択するには、管理コンソールで [ユーザ選択] の表示を有効にしておく必要があります。

このオプションを有効にすると、実行時に出力タイプの選択が要求されます。下図は、この機能を示しています。



レポート、グラフ、ドキュメントでは、次の出力タイプのいずれかを選択することができます。

- ❑ レポートの場合、選択可能な出力タイプには、HTML、Active Report、PDF、Active PDF、Excel (XLSX)、Excel Formula (XLSX)、PowerPoint (PPTX) があります。
- ❑ グラフの場合、選択可能な出力タイプには、HTML、HTML5、Active Report、PDF、Active PDF、Excel (XLSX)、PowerPoint (PPTX) があります。

注意：新しいグラフ属性構文を使用しないグラフの場合、[ユーザ選択] を選択すると、すべての出力フォーマットが表示されます。新しいグラフ属性構文を使用するグラフの場合、選択可能な出力フォーマットは HTML5 および Active Report のみです。この規則の例外として、タグクラウド、パラボックス、マリメッコ、ストリームグラフがあります。これらは、新しいグラフ属性構文を使用しない HTML5 固有のグラフですが、選択可能な出力フォーマットは HTML5 および Active Report のみです。

- ❑ ドキュメントの場合、選択可能な出力タイプには、HTML、Active Report、PDF、Active PDF、Excel (XLSX)、PowerPoint (PPTX) があります。

2

HOLD ファイルの作成

リクエストの出力を HOLD ファイルに格納し、そのファイルを別の Db2 Web Query プロシジャへの入力として使用することができます。

これにより、HOLD ファイルからデータを抽出するリクエストを作成し、これを別のリクエストと組み合わせることで、複数のリクエストで構成されたレポートを作成することができます。

作成した HOLD ファイルは、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションで使用することができます。

トピックス

- ❑ [HOLD ファイルの用途](#)
 - ❑ [HOLD ファイルの格納](#)
 - ❑ [レポートおよびグラフの出力フォーマット](#)
 - ❑ [HOLD ファイルの作成](#)
 - ❑ [HOLD ファイルを使用したサブクエリの作成](#)
-

HOLD ファイルの用途

HOLD ファイルは、次のことに役立ちます。

- ❑ 後続のリクエストでデータをより高速かつ効率的に取得できるよう、大規模なデータソースからフィールドを抽出する。これにより、処理時間が短縮され、より小規模で特殊なデータセットからレポートやグラフの高速な作成が可能になります。また、データの小規模サブセットを使用する際の柔軟性が向上するとともに、効率性も高まります。
- ❑ 別のリクエストで処理できるよう、リクエストで計算された一時項目 (DEFINE)、一時項目 (COMPUTE) の値を格納する。これにより、計算値の繰り返し使用が可能になり、特定のシナリオを再作成する必要がなくなります。

HOLD ファイルの格納

作成した HOLD ファイルは、一時的に保存して即座に使用することも、今後の再利用のために永続的に格納しておくこともできます。このように、作成後の利用目的に応じて、HOLD ファイルを柔軟に使用、格納することが可能です。

レポートおよびグラフの出力フォーマット

レポートの HOLD ファイルは、次のフォーマットで保存することができます。

- ☐ バイナリ (*.ftm)
- ☐ FOCUS (*.foc)。詳細は、50 ページの「[TIBCO FOCUS フォーマットインデックスフィールド](#)」を参照してください。
- ☐ フィールド名付きカンマ区切りテキストファイル (*.tab)
- ☐ テキストファイル (*.ftm)
- ☐ タブ区切りテキストファイル (*.tab)
- ☐ フィールド名付きタブ区切りテキストファイル (*.tab)
- ☐ データベーステーブル (*.sql)

注意：データベーステーブル出力は、SQL データベースを対象にしている場合にのみ使用できます。

- ☐ SQL スクリプト (.sql)
- ☐ Hyperstage (*.bht)

注意：Hyperstage 出力は、Reporting Server で Hyperstage アダプタが構成されている場合にのみ使用できます。

- ☐ XML (*.xml)
- ☐ JSON (*.json)

グラフの HOLD ファイルは、次のフォーマットで保存することができます。

- ☐ PNG (*.png)
- ☐ GIF (*.gif)
- ☐ SVG (*.svg)

- ❑ JPEG (*.jpg)

HOLD ファイルの作成

このセクションでは、HOLD ファイルの使用方法を示す手順について説明します。

注意

- ❑ HOLD ファイルに ACROSS フィールドを含めることはできません。
- ❑ HOLD ファイルを作成する前に、[クエリ] ウィンドウで [タイトルの変更] オプションを使用してフィールドのタイトルを変更することができます。タイトル内のブランクはアンダースコア (_) に変換されます。この機能を使用することで、HOLD ファイルに含めるフィールドの名前を制御できるとともに、レポート、グラフ、ドキュメントを作成する際にフィールドの識別が容易になります。
- ❑ HOLD ファイルの作成時に表示される [一時ファイル] ダイアログボックスには、Reporting Server でユーザがアクセス権限を所有するアプリケーションのみがリストに表示されます。
- ❑ HOLD ファイルで作業する際にも [オートリンク] 機能を使用することができます。
- ❑ HTML5 フォーマットでグラフを作成する際は、HOLD ファイルを作成することはできません。ただし、HTML フォーマットでは HOLD ファイルの作成が可能です。
- ❑ レポートに HOLD プロシジャが含まれている場合、一時項目 (DEFINE) の AS 名に使用されているピリオド (.) は自動的にアンダースコア (_) に変換されます。

手順

HOLD ファイルからドキュメントの複数コンポーネントを作成するには

ここでは、フィールドを HOLD ファイルに抽出し、HOLD ファイルからドキュメントの複数のコンポーネントを作成する手順について説明します。

1. InfoAssist+ をドキュメントモードで開きます。
2. データソースを選択します。
3. 後続リクエストで使用するため、抽出が必要なすべてのフィールドを追加します。
4. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[ファイル] をクリックします。
5. [対象] ドロップダウンリストをクリックし、[ファイル] を選択します。
6. [...] (参照) ボタンをクリックし、[一時ファイル] ダイアログボックスを開きます。
7. [一時ファイル] ダイアログボックスで、ファイル名を入力後、[フォーマット] ダイアログボックスから HOLD ファイルのフォーマットを選択し、[保存] をクリックします。

注意：デフォルト設定では、一時 HOLD ファイルが作成されます。このファイルは、レポートまたはグラフの実行後に削除されます。代わりに、アプリケーションパスのフォルダパスを選択し、永続的な HOLD ファイルを作成することもできます。このファイルはプロシージャの実行後も保存されるため、再利用することができます。

8. [挿入] タブの [レポート] グループで、[グラフ] をクリックします。
9. グラフにフィールドを追加します。
10. 別のグラフを挿入します。
11. このグラフにフィールドを追加します。
12. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[円] をクリックします。
13. [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。
14. レポートにフィールドを追加します。
15. 必要な任意の数のレポートおよびグラフを追加し、ドキュメントを完成させます。

手順

HOLD ファイルから表形式レポートを作成するには

HOLD ファイルから表形式レポートを作成するには、最初にレポートを作成します。

1. [開く] ダイアログボックスで、wf_retail_lite マスターファイルを選択します。
2. 次のメジャーフィールドをレポートに追加します。
 - ☐ 売上原価
 - ☐ 値引
 - ☐ 粗利益
 - ☐ 販売,数量
 - ☐ 収益
3. 次のディメンションフィールドをレポートに追加します。
 - ☐ 製品,区分
 - ☐ 製品,区分 (詳細)
 - ☐ 売上,年
4. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[ファイル] をクリックします。
[一時ファイル] ダイアログボックスが開きます。

5. [一時ファイル] ダイアログボックスで HOLD ファイルの名前を指定し、デフォルトファイルタイプの [バイナリ (*.ftm)] を選択した状態で、[保存] をクリックします。
6. キャンバスの下部で、[レポートの作成] をクリックします。

リソースパネルにカスタムデータベース構造が表示されます。キャンバスがデフォルトのブランク状態に戻り、HOLD ファイルを使用して新しいレポートの作成を開始することができます。

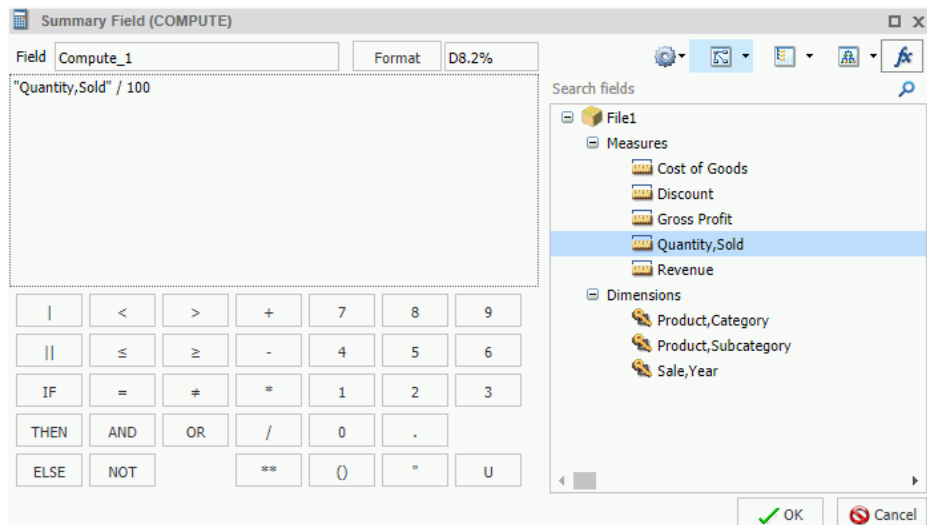
7. HOLD ファイルから [販売,数量] フィールドをキャンバスにドラッグします。
8. キャンバスで [販売,数量] 列の見出しを選択します。
9. [フィールド] タブの [表示] グループで、[集計]、[最初の値] を順に選択します。

注意：見出しが [FST 販売,数量] に変わります。

10. [FST 販売,数量] 見出しを選択します。
11. [販売,数量] フィールドは後続の計算で使用するため、[フィールド] タブの [表示] グループで [フィールドの非表示] をクリックして、フィールドを非表示にします。
12. [データ] タブの [演算] グループで、[一時項目 (COMPUTE)] をクリックします。
13. [SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスで、次の操作を実行します

- ☐ [フォーマット] テキストボックスに「D8.2%」と入力します。
- ☐ [販売,数量] フィールドをダブルクリックして、フィールドを数式ボックスに追加します。
- ☐ [販売,数量] フィールドの後ろに「/ 100」を追加して、パーセントを計算します。

下図は、[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスの例を示しています。



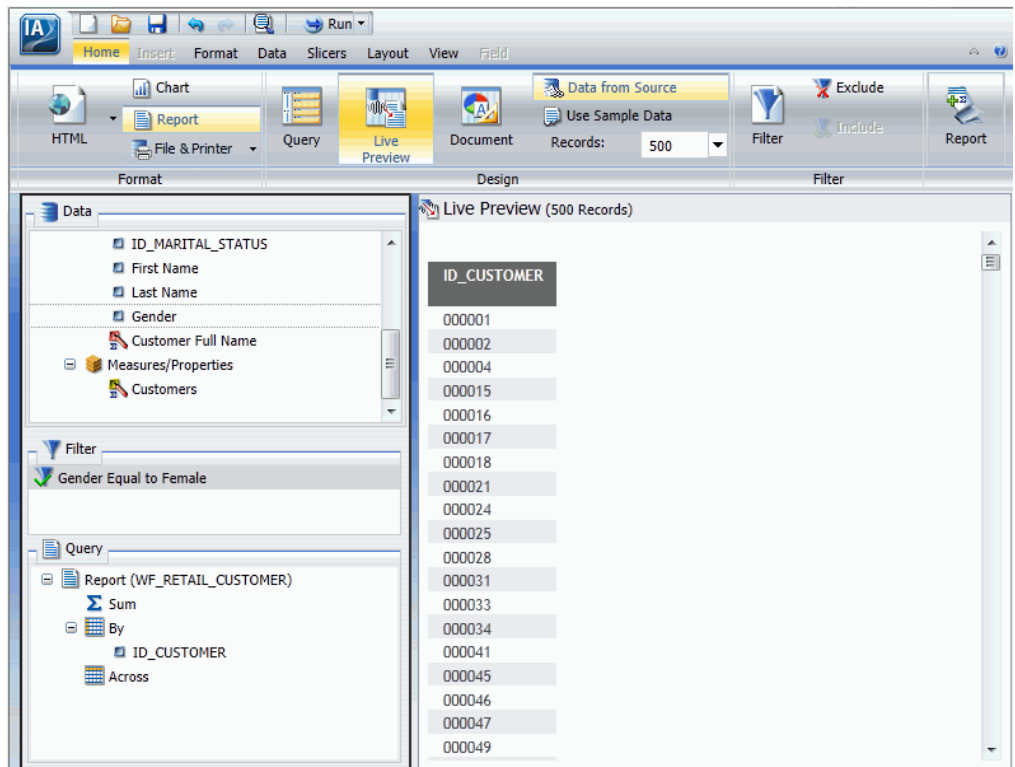
14. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
15. [製品,区分] フィールドを [クエリ] ウィンドウの [BY] フィールドコンテナにドラッグします。
16. [クエリ] ウィンドウで [製品,区分] フィールドを選択します。
17. [フィールド] タブの [区切り] グループで [中間合計] を選択し、[製品,区分] 列に中間合計行を作成します。
18. [製品,区分 (詳細)] フィールドを [クエリ] ウィンドウの [BY] フィールドコンテナにドラッグします。
19. [売上,年] フィールドを [ACROSS] フィールドコンテナにドラッグします。
20. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[行合計] をクリックします。
レポートを実行して出力結果を表示します。

手順

サブクエリで使用する HOLD ファイルを作成するには

この手順では、サブクエリで使用する HOLD ファイルの作成方法について説明します。

1. 少なくとも 1 つのフィルタ条件を設定した新しいレポートを作成します。



2. [ファイル] をクリックします。

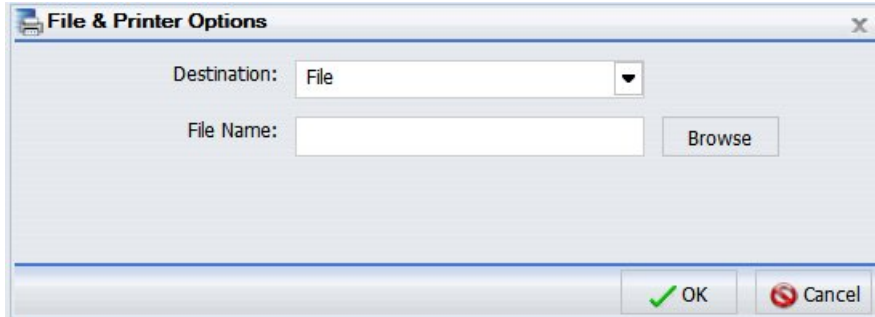
[ファイルとプリンタ] ボタンは、[ホーム] タブの [フォーマット] グループ、および [フォーマット] タブの [対象] グループにあります。

[ファイルとプリンタ] ボタンは、分割ボタンです。ボタンの左側をクリックすると、[一時ファイル] ダイアログボックスが表示されます。右側の下向き矢印をクリックして [一時ファイル] ダイアログボックスを表示し、最初の設定を行うことや、設定を変更することができます。

[パスとフォーマットを選択してください] ダイアログボックスが開きます。

注意：ダイアログボックスの上部には、[一時ファイル] というラベルが表示されます。フォルダのいずれかを選択すると、このラベルが [パスとフォーマットを選択してください] に変わります。

[ファイルとプリンタ] ダイアログボックスは、下図のように表示されます。



3. [対象] ドロップダウンリストをクリックし、[ファイル] を選択して [参照] ボタンをクリックします。
4. [一時ファイル] ダイアログボックスで、次の項目を入力します。
 - a. [ファイル名] テキストボックスに、ファイル名を入力します。
デフォルトのファイル名は「ファイル 1」です。
 - b. リストメニューから、ファイルフォーマットとして [SQL スクリプト (*.sql)] を選択します。
 - c. HOLD ファイルのパスを選択します。
パスは、一時ファイル (デフォルト設定)、書き込み可能なサーバのアプリケーションフォルダのいずれかです。
注意： 指定したパスに HOLD ファイル名がすでに存在する場合、[保存] をクリックすると、警告メッセージが表示され、保存できません。別の名前で保存してください。
5. [保存] をクリックします。
InfoAssist+ キャンバスの下部に、[レポートの作成] ボタンが表示されます。
6. 手順 2 から 4 を繰り返し、必要な数の HOLD ファイルを作成します。
7. HOLD ファイルをすぐに使用するには、[レポートの作成] ボタンをクリックし、実行するオプションを選択します。

注意： HOLD ファイルから作成したレポートで作業する場合、レポートでデータソースを切り替え、追加しようとする、警告メッセージが表示されます。

手順

HOLD ファイルコンポーネントの順序を変更するには

次の手順は、HOLD ファイル内のファイルコンポーネントの順序を変更する方法を示しています。

注意：この手順では、バイナリ HOLD ファイルとサブクエリを作成して、HOLD ファイルの順序を変更する方法について説明します。この順序変更の結果も示されています。

1. InfoAssist+ で新しいドキュメントを作成し、データソースとして wf_retail_lite マスターファイルを使用します。
2. [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。次のフィールドを [データ] ウィンドウからレポートに追加します。

- ☐ 粗利益
- ☐ 販売,数量
- ☐ 収益
- ☐ 製品,区分
- ☐ 製品,区分 (詳細)

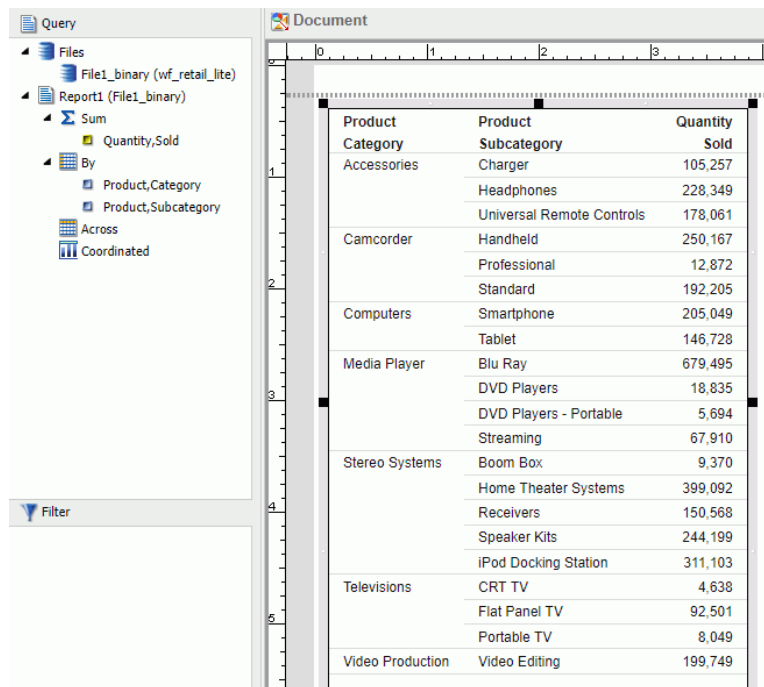
下図は、作成されたレポートを示しています。

Product Category	Product Subcategory	Gross Profit	Quantity Sold	Revenue
Accessories	Charger	\$1,970,123.91	105,257	\$4,022,834.91
	Headphones	\$24,523,023.97	228,349	\$76,186,587.97
	Universal Remote Controls	\$13,361,292.65	178,061	\$49,398,915.65
Camcorder	Handheld	\$21,393,854.97	250,167	\$41,970,570.97
	Professional	\$8,835,522.75	12,872	\$44,053,830.75
	Standard	\$19,369,867.52	192,205	\$68,441,300.52
Computers	Smartphone	\$15,834,702.15	205,049	\$59,870,476.15
	Tablet	\$17,674,115.97	146,728	\$43,446,005.97
Media Player	Blu Ray	\$51,771,195.13	679,495	\$232,884,116.13
	DVD Players	\$1,859,845.81	18,835	\$5,615,899.81
	DVD Players - Portable	\$265,150.77	5,694	\$571,726.77
	Streaming	\$1,936,586.65	67,910	\$7,001,316.65
Stereo Systems	Boom Box	\$546,423.99	9,370	\$1,386,796.99
	Home Theater Systems	\$27,931,096.22	399,092	\$84,359,685.22
	Receivers	\$16,555,835.56	150,568	\$56,885,503.56
Televisions	Speaker Kits	\$25,819,241.69	244,199	\$107,215,381.69
	iPod Docking Station	\$15,328,473.06	311,103	\$41,447,566.06
	CRT TV	\$602,419.65	4,638	\$2,530,835.65
	Flat Panel TV	\$15,885,498.71	92,501	\$74,962,843.71
Video Production	Portable TV	\$342,105.45	8,049	\$887,453.45
	Video Editing	\$17,947,619.62	199,749	\$58,053,276.62

3. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで [ファイル] をクリックし、HOLD ファイルを作成します。

[一時ファイル] ダイアログボックスで、ファイルの名前を入力します。たとえば、「File1_binary」と入力します。

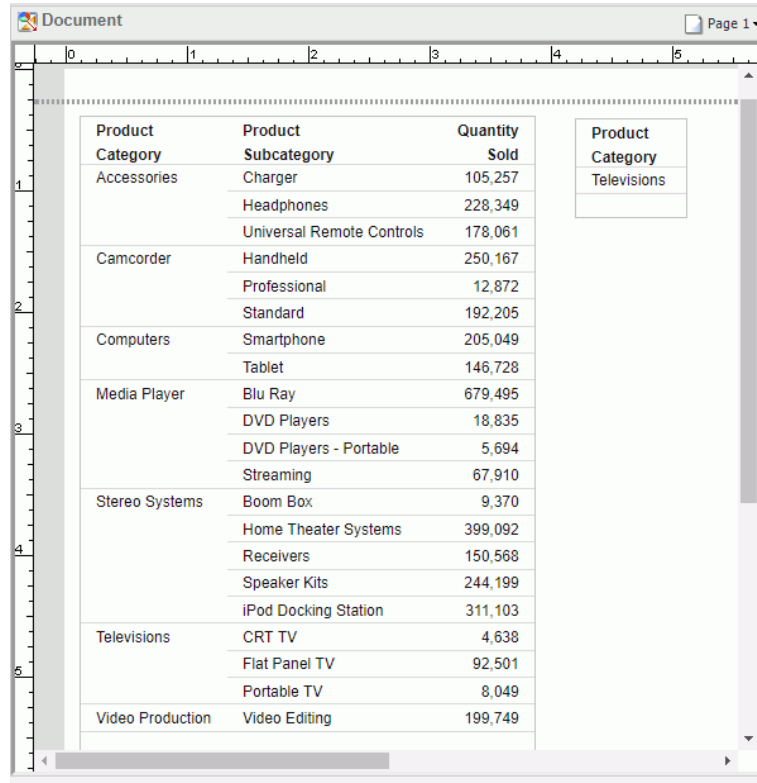
4. [保存] をクリックします。
5. HOLD ファイルを使用してレポートを作成します。下図のように、[製品,区分]、[製品,区分(詳細)]、[販売,数量] フィールドを指定します。



Product Category	Product Subcategory	Quantity Sold
Accessories	Charger	105,257
	Headphones	228,349
	Universal Remote Controls	178,061
Camcorder	Handheld	250,167
	Professional	12,872
	Standard	192,205
Computers	Smartphone	205,049
	Tablet	146,728
	Blu Ray	679,495
Media Player	DVD Players	18,835
	DVD Players - Portable	5,694
	Streaming	67,910
Stereo Systems	Boom Box	9,370
	Home Theater Systems	399,092
	Receivers	150,568
	Speaker Kits	244,199
Televisions	iPod Docking Station	311,103
	CRT TV	4,638
	Flat Panel TV	92,501
Video Production	Portable TV	8,049
	Video Editing	199,749

6. 次の手順では、最初のレポートのフィルタとして使用するサブクエリ SQL スクリプトを作成します。
 - a. [データ] タブの [データソース] グループで、[切り替え] をクリックします。
元のマスターファイル (wf_retail_lite) を選択します。
 - b. [製品,区分] ディメンションフィールドをダブルクリックします。
これにより、2 つ目のレポートが作成されます。必要に応じてドキュメントキャンバスでレポートをドラッグし、サイズを変更します。

- c. [製品,区分] フィールドに適用するフィルタを作成します (WHERE 製品,区分 等しい Televisions)。



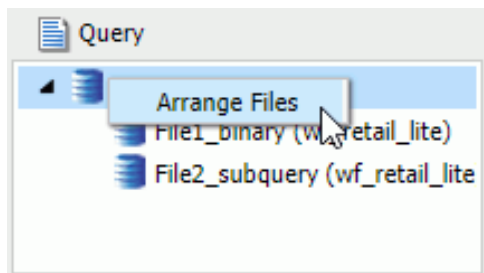
Product Category	Product Subcategory	Quantity Sold
Accessories	Charger	105,257
	Headphones	228,349
	Universal Remote Controls	178,061
Camcorder	Handheld	250,167
	Professional	12,872
Computers	Standard	192,205
	Smartphone	205,049
Media Player	Tablet	146,728
	Blu Ray	679,495
Stereo Systems	DVD Players	18,835
	DVD Players - Portable	5,694
	Streaming	67,910
	Boom Box	9,370
Televisions	Home Theater Systems	399,092
	Receivers	150,568
	Speaker Kits	244,199
	iPod Docking Station	311,103
Video Production	CRT TV	4,638
	Flat Panel TV	92,501
	Portable TV	8,049
	Video Editing	199,749

7. 新しいコンポーネントを選択した状態で、[ホーム] タブの [フォーマット] グループで [ファイル] をクリックします。

[ファイル名] テキストボックスに「File2_subquery」と入力し、ファイルタイプメニューから [SQL スクリプト (*.sql)] フォーマットを選択します。

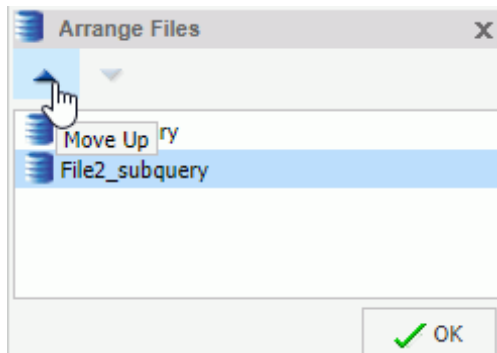
8. [保存] をクリックします。

9. 次の手順を実行して、File2_subquery が File1_binary HOLD ファイルの上に配置されるよう HOLD ファイルの順序を変更します。
 - a. 下図のように、[クエリ] ウィンドウで [ファイル] を右クリックし、[ファイルの整列] を選択します。



[ファイルの整列] ダイアログボックスが開きます。

- b. 下図のように、[ファイルの整列] ダイアログボックスで [File2_subquery] を選択し、[上へ移動] をクリックして [File1_binary] の上にファイルを移動します。



- c. [OK] をクリックします。
10. 最初のレポートを編集し、サブクエリを使用してフィルタを作成します。
11. [OK] をクリックして、[フィルタの作成] ダイアログボックスを閉じます。

レポートがリフレッシュされ、適用したフィルタが反映されます。

TIBCO FOCUS フォーマットインデックスフィールド

インデックスフィールドは、FOCUS フォーマットのみでサポートされます。インデックスの追加が可能なフィールドの最大数は、4 つです。ファイルフォーマットが FOCUS の場合、[クエリ] ウィンドウに [インデックス] が表示されます。

HOLD ファイルを使用したサブクエリの作成

HOLD ファイルを使用してサブクエリを作成することができます。サブクエリとは、SQL ステートメントの WHERE 句に追加される、ネストされたクエリのことです。何度も再利用できるという点で、サブクエリを使用すると便利です。

注意：InfoAssist+ でグラフまたはレポートを作成する場合、[ホーム] タブの [デザイン] グループで [クエリ] をクリックすると、[クエリ] デザインビューでコンテンツを作成できます。この場合、キャンバスが非表示になり、[クエリ] ウィンドウと [フィルタ] ウィンドウのみがコンテンツの作成に使用されます。[クエリ] デザインビューでは、リクエストにサブクエリが存在し、ACROSS フィールドが存在しない場合、データは実行時のみリフレッシュされます。コンテンツを編集するデザイン時にはリフレッシュされません。このため、パフォーマンスが向上します。デザイン時にはキャンバスが非表示になるため、この時点でデータのリフレッシュは必要ありません。

手順

HOLD ファイルを使用してサブクエリフィルタを作成するには

ここでは、上記の手順で作成した HOLD ファイルを使用して、サブクエリフィルタを作成する手順について説明します。

1. レポートを作成します。
2. [データ] タブの [フィルタ] グループで、[フィルタ] をクリックします。
[フィルタの作成] ダイアログボックスが開きます。
3. [フィルタの作成] ダイアログボックスで、[タイプ] ドロップダウンリストから [サブクエリ] を選択します。
4. [サブクエリ] ドロップダウンリストから、比較演算子として [リストに存在する] を選択します。
5. 式の最も右側の項目として、サブクエリのリストから、作成したサブクエリ (ここでは「ファイル 1」) を選択します。
6. [OK] をクリックします。

作成したサブクエリで、レポートにフィルタが設定されます。

注意：このリクエストで生成される SQL ステートメントを表示するには、クイックアクセスツールバーの [実行] ドロップダウンメニューを開き、[SQL トレース] を選択します。

3

複数ページのドキュメントの作成

ドキュメントモードでは、コンテンツを複数のページに分割して作成することができます。使用可能な出力フォーマットには、HTML、Active Report、PDF、Active PDF、Excel (XLSX)、PowerPoint (PPTX) などがあります。他のタイプの Excel フォーマットを使用することもできます。

注意：ドキュメントモードで Active Report フォーマットを使用し、複数のレポートやグラフを配置すると、これらのコンテンツが統合された高度な複数オブジェクトドキュメント (Active Dashboard) が生成されます。

Microsoft Excel 2007 および PowerPoint 2007 出力フォーマットは、管理コンソールのデフォルト設定で有効になっています。出力フォーマットの有効と無効の切り替えは、管理コンソールで設定する必要があります。

- ☐ Active Report 出力フォーマットでは、複数のレポートおよびグラフが 1 つのドキュメントに統合され、タブ付きの Active Dashboard が生成されます。
- ☐ Excel では、複数のレポートが 1 つのブックに統合され、それぞれ個別のワークシートとして作成されます。
- ☐ PowerPoint では、複数のレポートおよびグラフが 1 つのスライドに統合されます。

トピックス

- ☐ [複数ページのドキュメントの作成](#)
 - ☐ [複数ページの Active テクノロジダッシュボードの作成](#)
 - ☐ [ページメニューのナビゲート](#)
 - ☐ [アクティブキャッシュオプションの使用](#)
 - ☐ [InfoAssist+ でのアクティブキャッシュの有効化](#)
-

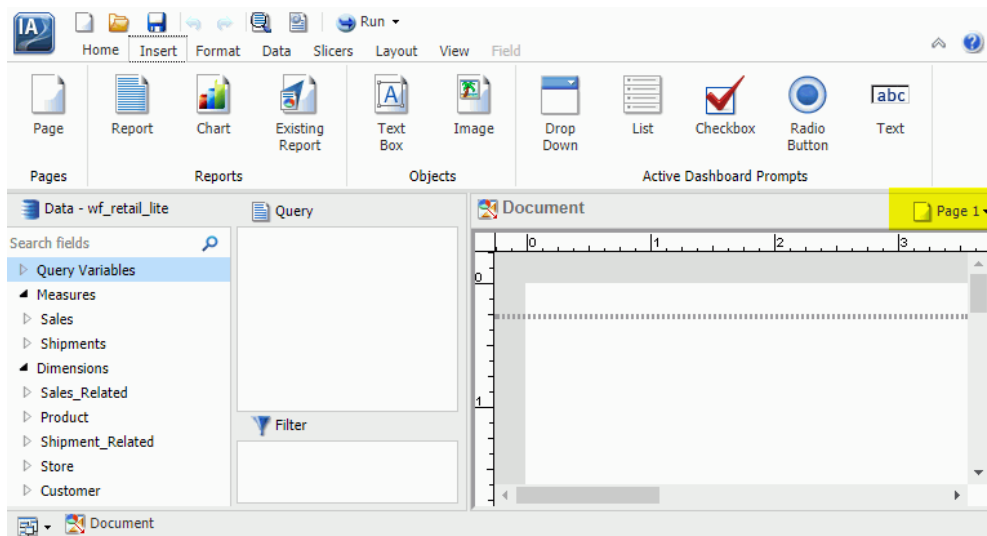
複数ページのドキュメントの作成

複数ページのドキュメントを作成すると、一連の情報を複数のページに分割して表示することができます。

手順 複数ページのドキュメントを作成するには

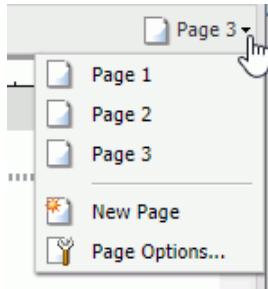
1. 新しいドキュメントを作成します。

下図のように、キャンバスのタイトルバーに、「ページ 1」と表示されます。



2. [ページ 1] に、新規または既存のレポート、グラフ、テキスト、イメージなどのコンテンツを追加します。
3. 別のページを追加するには、次のいずれかを実行します。
 - ☐ [挿入] タブの [ページ] グループで、[ページ] をクリックします。
 - ☐ キャンバスのタイトルバーで、[ページ] アイコンをクリックします。表示された [ページ] メニューから、[新規ページ] を選択します。現在のページの後に新しいページ (例、[ページ 2]) が挿入され、そのページがキャンバスに表示されます。
追加されたページのそれぞれの名前は、「ページ n」のようになります。ここで、「n」は 1 から始まる連続番号です。
4. [ページ 2] に、コンテンツを追加します。
5. 手順 3 および 4 を繰り返し、ドキュメントを完成させます。

下図のように、ページ間を移動するには、キャンバス上部の [ページ] アイコンをクリックして [ページ] メニューを開きます。



複数ページの Active テクノロジダッシュボードの作成

InfoAssist+ では、複数ページの Active テクノロジダッシュボードを作成することができます。

手順 複数ページの Active テクノロジダッシュボードを作成するには

1. 新しいドキュメントを作成し、出力フォーマットを [Active Report] に設定して、そのドキュメントを Active Dashboard にします。

キャンバスのタイトルバーに「ページ 1」と表示されます。

2. [ページ 1] に、新規または既存のレポート、グラフ、テキスト、イメージ、入力フォームなどのコンテンツを追加します。
3. 別のページを追加するには、次の手順を実行します。

❑ [挿入] タブの [ページ] グループで、[ページ] をクリックします。

❑ キャンバスのタイトルバーで、[ページ] アイコンをクリックします。表示された [ページ] メニューから、[新規ページ] を選択します。

現在のページの後に新しいページ (例、[ページ 2]) が挿入され、そのページがキャンバスに表示されます。

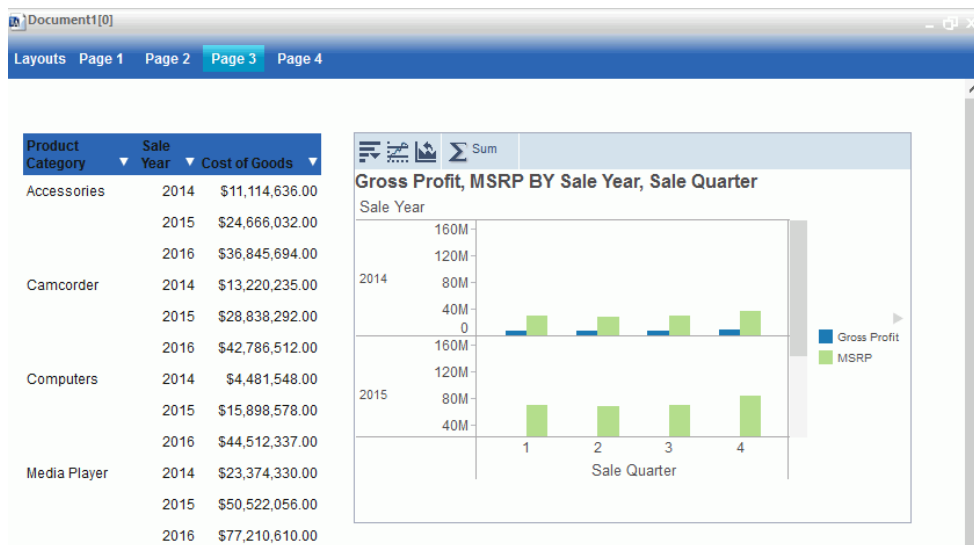
追加されたページのそれぞれの名前は、「ページ n」のようになります。ここで、「n」は 1 から始まる連続番号です。

4. [ページ 2] に、コンテンツを追加します。
5. インタラクティブダッシュボードが完成するまで、手順 3 および 4 を繰り返します。

ページ間を移動するには、キャンバス上部の [ページ] アイコンをクリックして [ページ] メニューを開きます。

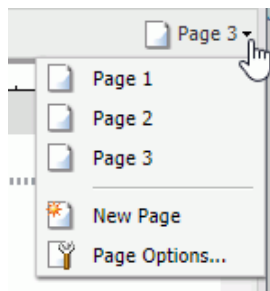
6. Active Dashboard を実行します。

下図のように、キャンバスの上部にタブが表示されます。



ページメニューのナビゲート

[ページ] メニューにアクセスするには、下図のように、デザインモードで [ページ] アイコンをクリックします。



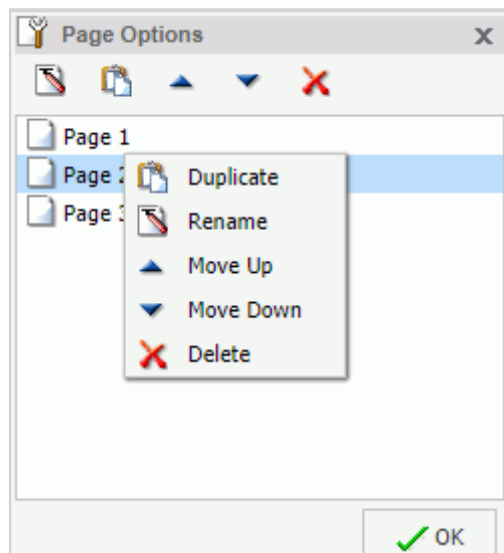
[ページ] メニューには、作成された順序でページが表示されます。ページの順序は、ドラッグアンドドロップで変更することができます。また、複数のページを選択して、削除することもできます。

[ページ] メニューの [新規ページ] オプションを選択すると、ドキュメントに新しいページが追加されます。[ページオプション] ダイアログボックスで [ページの複製を作成] オプションを使用すると、選択したページのコピーが作成されます。

[ページ] メニューの [ページオプション] をクリックすると、ダイアログボックスが開き、次のオプションが表示されます。

- ☐ 名前の変更
- ☐ 複製の作成
- ☐ 上へ移動
- ☐ 下へ移動
- ☐ 削除

下図は、[ページオプション] ダイアログボックスを示しています。



ページのいずれかを選択すると、ダイアログボックス上部のツールバーで、[ページ名の変更]、[ページの複製を作成]、[ページを上へ移動]、[ページを下へ移動]、[ページの削除] オプションが有効になります。また、ページを右クリックすると、同一のオプションを提供するコンテキストメニューが開きます。

方向のオプションは、選択したページの位置によって決定されます。たとえば、「ページ 1」を選択している場合、[上へ移動] は表示されません。最後のページを選択している場合、[下へ移動] は表示されません。

このダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。

アクティブキャッシュオプションの使用

データ取得後の処理は、すべて Web ブラウザのメモリで実行されるため、Active Report の取得レコード数は、最大でおよそ 5000 件 (出力で 100 ページ以内) に制限されています。アクティブキャッシュオプションを使用すると、Active Report 出力の最初のページのみをブラウザに送信し、後続のページを Reporting Server の一時キャッシュから取得することが可能になります。

ヒント: 取得行数には、1 ページあたりの取得行数 (SET LINES で指定) の 5 倍の値を設定することをお勧めします。取得行数の最小値は 100 です。

InfoAssist+ でのアクティブキャッシュの有効化

出力タイプとして [Active Report] を選択し、[フォーマット] タブの [ナビ] グループで [Web ビューア] ボタンを選択すると、アクティブキャッシュが有効になります。

[Active Report オプション] ダイアログボックスの [詳細] タブには、[取得行数] ドロップダウンリストがあります。この設定を使用して、バイナリファイルに格納されたキャッシュデータを出力ウィンドウに送信する単位を指定します。デフォルト値は 100 です。

注意: 複数ページのレイアウトでは、アクティブキャッシュをコンポーネントごとに有効にする必要があります。これはグローバルに設定できません。このため、AHTML フォーマットでドキュメントを作成する場合は、各コンポーネントを個別に選択してアクティブキャッシュを有効にする必要があります。この作業を完了すると、[Web ビューア] ボタンが有効になります。

4

InfoAssist+ での Active テクノロジコンポーネントの作成

ここでは、InfoAssist+ を使用して、Active テクノロジの機能を有効にしたレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム) を作成する方法について説明します。

これらのレポート、グラフ、レイアウトでは、Active テクノロジの完全な機能が使用されます。これらは、Active Report、グラフ、レイアウトとも呼ばれます。

トピックス

□ Active テクノロジの使用

Active テクノロジの使用

ここでは、Active テクノロジの概要、セキュリティ機能、アクティブキャッシュ処理について説明します。Active テクノロジを使用する際に役立つ製品機能についての追加情報も記載されています。

注意: 新しいデザインスタイルでは、AHTML フォーマットのみサポートされます。APDF フォーマットでコンテンツを生成する場合、クイックアクセスツールバーで [レガシー] スタイルに切り替える必要があります。

Active テクノロジレポートオプションの概要

Active Report は、オフライン分析を目的としたレポートです。インタラクティブレポートフォーマットのレポートは、オフラインでアクセスして使用することができます。Active Report の主な機能は次のとおりです。

- Excel のような分析機能を備えた、データのオフライン分析。この分析オプションには、フィルタ設定、ソート、グラフ作成など、さまざまな機能があります。
- プラグインやプログラムの追加が不要なオフライン作業。Active Report は、自己完結型のレポートであり、レポートの HTML 出力ファイルには、すべてのデータおよび JavaScript が含まれています。データとインタラクティブ機能が HTML ファイルにパッケージ化されているため、出力結果は、Email による送信時の圧縮性に優れ、セキュリティの透過性を提供します。
- Active Report 機能付きのレポートをローカルマシンに保存。データを表示または分析するためにサーバに接続する必要はないため、どこでもレポートを保存および使用できます。

注意：ブラウザ固有のメモリ制限により、パフォーマンスはブラウザごとに異なります。大規模なレポートの場合、Internet Explorer でエラーが発生することがあります。詳細は、Microsoft の Web サイトを参照してください。

Adobe Flash Player を使用した Active Report では、HTML バージョンの Active Report で使用可能な機能のほとんどが、視覚的効果の高いユーザフレンドリなレポートフォーマットとして提供されます。自己完結型の Adobe Flash ファイル (.swf) として提供された Active Report では、大規模データセットの高速な分析や、インタラクティブな操作を行えます。

Active Report で操作する際は、次のことが可能です。

- ☐ データのフィルタ設定とハイライト。
- ☐ 任意の列による昇順、降順ソート。
- ☐ 列に演算を適用し、結果を任意の位置に表示。
- ☐ 列の非表示、列の固定、ページ当たりの行数制限などの表示制御や、ピアグラフ化による列値の比較。
- ☐ 円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフ、散布図などの多種グラフおよび集約テーブルの作成。
- ☐ 同一 HTML ページ内での複数レポートへのグローバルフィルタの適用。
- ☐ レポートデータおよびグラフデータのエクスポート。
- ☐ レポートの設定を元に戻す。
- ☐ Opera ブラウザ (バージョン 8.60 U2 以降) をインストールしたモバイルデバイス上での Active Report の実行。サポート対象のデバイス一覧については、Opera の Web サイトを参照してください。

下図は、HTML Active Report フォーマットのインタラクティブレポートを示しています。[売上単位] 列のドロップダウンメニューが開き、[演算] から [平均] 演算子が選択されています。

Store Business Region	Store Business Sub Region	Revenue	Sale Unit(s)
EMEA	Africa	\$	Sort Ascending 31 Sort Descending
	Asia	\$26,4	07
	Europe	\$396,2	Filter 76
North America	Canada	\$51,1	Calculate
	East	\$39,0	Chart
	Mexico	\$12,9	Rollup
	Midwest	\$60,9	Pivot (Cross Tab)
	Northeast	\$1,5	Visualize
	South	\$77,4	Sum
	Southeast	\$4,4	Avg
	West	\$362,3	Min
Oceania	Australia-New Zealand	\$1,2	Max
South America	SA-Port	\$25,9	Count
	SA-Span	\$1,2	Distinct
			% of Total

14 of 14 records, Page 1 of 1

下図は、Active Report のセルレベルで使用可能なオプションを示しています。これらのオプションには、[オートドリルダウン]、[マルチドリルダウン]、[オートリンク] 機能が反映されたオプションもが含まれています。これらの機能についての詳細は、このマニュアルの各機能に対応するトピックを参照してください。

Product Category ▼	Cost of Goods ▼	Quantity Sold ▼
Accessories	\$89,753,898.00	511,667
Camcorder	\$104,866,857.00	455,244
Drill down to Product Subcategory		351,777
Summary Sales Report		771,934
Information Center Website		1,114,332
Auto Links		105,188
Comments		199,749
Highlight Value		
Highlight Row		
Unhighlight All		
Filter Cell		

注意

- ❑ Active Report の設定によっては、生成されたレポートで一部のオプションが利用できない場合があります。
- ❑ Active Report を使用する際は、メニューアイコンが正しく表示されるように、システムフォントの表示を [標準] に設定することをお勧めします。
- ❑ [固定] オプションは、レポートが現在のウィンドウに収まらないときにのみ使用可能です。したがって、レポートが現在のウィンドウにすべて表示可能な場合、このオプションは選択できません。レポートのサイズを変更した場合、または列や行がウィンドウからはみ出す場合には、[固定] オプションが使用可能になります。

セキュリティ機能

Active Report は、パスワードで保護することができます。この機能は、レポートを開く前にユーザにパスワードの入力を要求することで、ユーザのレポート表示を制限するものです。データは、256 ビットの AES (Advanced Encryption Standard) 規格で暗号化されます。パスワードは、データの復号化および暗号化の鍵として使用されます。そのため、パスワードはレポートに格納されず、またパスワード確認のためにサーバに再接続する必要がありません。

出力された HTML ページには、JavaScript とレポートデータの両方が含まれているため、切断モードでもインタラクティブなデータ操作が可能になります。Internet Explorer は、JavaScript を検知して警告を表示します。警告が表示された際は、Active Report コンテンツ (この場合は JavaScript) が検知されたことが明示されます。ブラウザでポップアップがブロックされた際にも同一の警告が表示されます。

大規模データの処理

データ取得後の処理は、すべて Web ブラウザのメモリで実行されるため、Active Report の取得レコード数は、最大でおよそ 5000 件 (出力で 100 ページ以内) に制限されています。アクティブキャッシュオプションを使用すると、Active Report 出力の最初のページのみをブラウザに送信し、後続のページを Web Query Reporting Server の一時キャッシュから取得することが可能になります。また、アクティブキャッシュを有効にした場合、演算、ソート、フィルタの処理は、すべて Reporting Server をリソースとして実行されます。アクティブキャッシュは Web ビューア機能を使用するため、WebFOCUS ビューアはサポートされません。

クラスタマネージャ (CLM) を使用してクラスタ化されたサーバ環境で、アクティブキャッシュオプションを有効にした Active Report を実行した場合、一時キャッシュが作成される Web Query Reporting Server との接続が保持されます。これにより、同一のブラウザセッションが継続している間、この Active Report の後続ページの取得が可能になります。

アクティブキャッシュ機能は、HTTP リクエストで、GET の代わりに POST を使用します。

アプリケーションで Web Query Web サービスを使用するアクティブキャッシュレポートを実行する場合は、『Web Query RESTful Web Services Developer's Guide』を参照してください。

配信および表示に関する考慮事項

Active Report は、レポートを HTML ファイルとして保存します。Active テクノジによって作成された HTML ファイルには、レポートデータが格納される以外に、切断モード (オフライン) でデータのインタラクティブ操作を可能にする JavaScript コードが格納されます。

Active Report は、サーバに接続することなく、ユーザがオフライン分析やインタラクティブ機能を実行できるよう設計されたレポートです。

注意: インタラクティブコンテンツを作成後、出力ファイルを圧縮してファイルサイズを縮小し、Email クライアントからの送信が必要な場合があります。

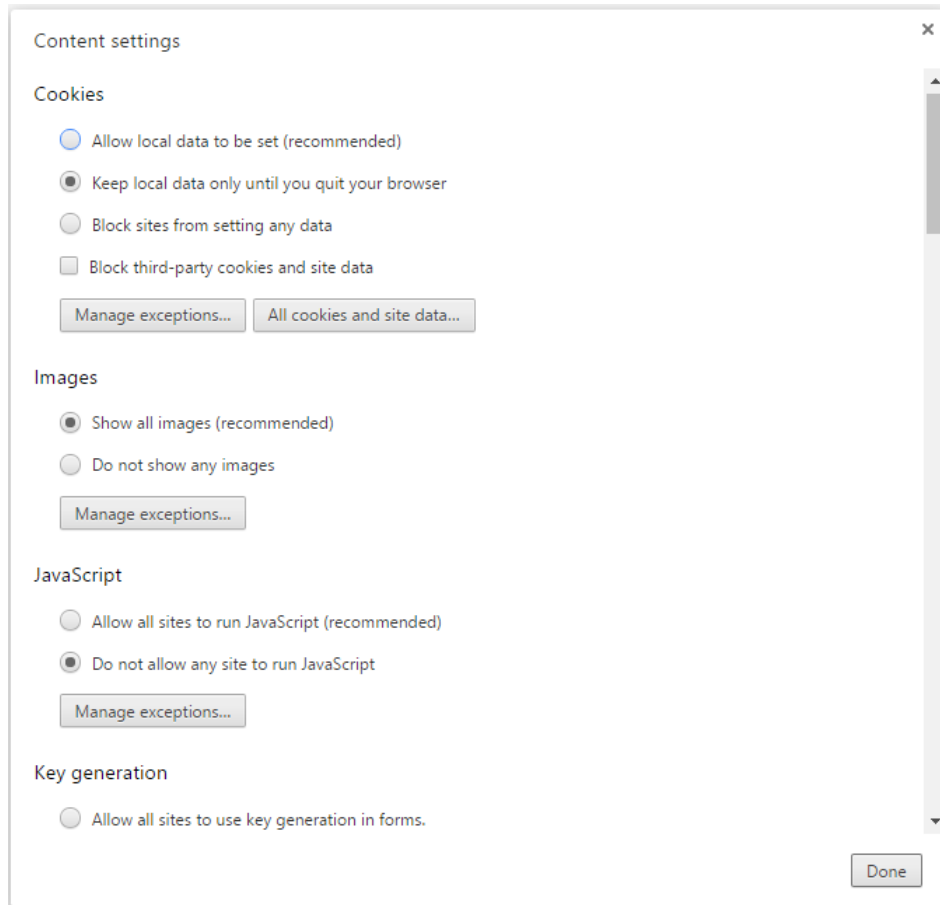
Active Report は、Web ブラウザから別の場所に保存することができます。また、Active Report を HTML 添付ファイルとして別のユーザに Email 送信することもできます。ただし、Active Report を配信する際は、そのレポートがどのような方法で閲覧されるかを念頭に置く必要があります。

たとえば、Active Report を HTML 添付ファイルとして Email 送信した際に、モバイルデバイスの多くのクライアントメールプラグラムが、添付ファイル内の JavaScript をブロックする場合があります。添付ファイルを正しく表示するには、モバイルデバイス用の Mobile Faves アプリケーションなど、他社製ツールを使用することができます。

Web ブラウザで Active Report を表示する際に、その Web ブラウザで JavaScript がブロックされた場合または JavaScript の実行が許可されていない場合、ブラウザ設定で JavaScript を有効にするよう指示するメッセージが表示されます。モバイルデバイスを使用している場合、Mobile Faves アプリケーションの使用を推奨するメッセージが表示されます。Mobile Faves アプリケーションがインストールされていない場合、iOS デバイスでは App Store、Android デバイスでは Google Play Store からダウンロードすることができます。このメッセージで、[App Store] および [Google Play Store] は Mobile Fave アプリケーションにナビゲートするハイパーリンクです。

このメッセージは、オンラインまたはオフラインの Active Report の表示に使用される Web ブラウザで JavaScript の実行が許可されていない場合に、デスクトップまたはサポート対象のモバイルデバイスで表示されます。また、このメッセージは、オフライン Active Report のコンテンツをプレビュー表示するアプリケーションの [プレビュー] ウィンドウにも表示されます。

下図の Google Chrome では、JavaScript の実行が不許可に設定されています。



Active テクノジ使用時の注意

ブラウザサポートに関する注意点は次のとおりです。

- ❑ Active PDF (APDF) は、Active テクノジ出力フォーマットの 1 つです。APDF 出力フォーマットは、Flash Player をサポートする Adobe Reader プラグインを必要とするため、Microsoft Edge ではサポートされません。

- ❑ ActiveX は Microsoft から提供されるテクノロジーですが、Microsoft Edge ではサポートされません。そのため、ActiveX コントロールを必要とする Active テクノロジ機能はすべて、Microsoft Edge ではサポートされません。これらの機能には、以下のものが該当します。これらは、他のブラウザで Active Report を実行した際に列タイトルのドロップダウンメニューからアクセス可能な機能です。
- ❑ Email として送信 (Internet Explorer のみでサポート)
- ❑ 変更の保存 (Internet Explorer のみでサポート)
- ❑ アクティブキャッシュ無効時の XML (Excel) エクスポート
- ❑ Firefox ブラウザで AHTML レポートを Excel にエクスポートすると、誤ったファイル拡張子が表示されます (例、.xls.xls)。ブラウザの設定を使用して、このデフォルト値を上書きすることができます。具体的には、ブラウザの [オプション] ページで [ファイルごとに保存先を指定する] ラジオボタンを選択すると、ダウンロード時にファイルを開くか、保存するかを選択を要求するプロンプトが表示されます。この方法で、ファイルの名前と拡張子を正しく指定することができます。

Active テクノロジレポートに関する注意点は次のとおりです。

- ❑ 実行時に、パラメータ値を渡すドリルダウンを含む Active Report にフィールドを追加したり、フィールドを削除したりすると、ドリルダウンが無効になります。これは、渡されるパラメータ値が適用されなくなるためです。
- ❑ 異なるセキュリティパスワードを使用する複数のレポートコンポーネントを AHTML ドキュメントに追加した場合、最後に追加したレポートコンポーネントのパスワードが使用されます。
- ❑ Active Report では、デフォルト設定で左右のセルパディングが使用されます。これにより、値と値が連結されることも、セルパディングに関する間隔の問題もなくなり、Active Report の外観の統一性が保持されます。これらの設定がスタイルシートで定義されていない場合、左右のセルパディングにデフォルト設定が使用されます。
- ❑ Active テクノロジのデフォルト設定では、表示フィールドが 1 つのみの表形式 Active Report の場合、ACROSS グループのフィールドの識別に、マスターファイルで指定された名前が表示されます。次の SET コマンドを使用することで、マスターファイルで指定された名前の代わりに、タイトルを使用してフィールドを識別することができます。

```
SET ACRSVRBTTITL = ON
```

Active テクノロジは、マスターファイルの TITLE 属性で指定されたタイトルを取得します (例、TITLE = 'Product ID')。名前を使用する設定では、FIELDNAME または FIELD 属性で指定された名前が取得されます (例、FIELD = PCD)。

- ❑ [昇順にソート]、[降順にソート]、[元に戻す] のオプションは、Active Report の列タイトルのドロップダウンメニューからアクセスできます。Active Report のキャッシュが有効な場合、[元に戻す] オプションを使用しても、データのソート後にレポート出力を元の状態に戻すことはできません。その代わりに、「警告：元のソートを特定できません。」というメッセージが表示されます。
- ❑ Active Report をキャッシュモードで使用する際に、Active Report にテキストフィールド (例、TX50) が含まれている場合、フィルタが正常に機能しない場合があります。この問題を回避するには、文字フィールド (例、A50) を使用します。

Active テクノロジグラフに関する注意点は次のとおりです。

- ❑ 一部のグラフタイプに新しいグラフ属性構文が適用されました。これらのグラフタイプは軸棒、2 軸折れ線、タグクラウド、ストリームグラフ、マリメッコ、じょうご、ピラミッドです。この変更過程で、これらのグラフタイプに関連する新しいフィールドコンテナが追加され、グラフ作成時にこれらのフィールドコンテナを使用して、グラフの特定エリアでフィールドを指定することができます。たとえば、[横軸]、[色]、[ツールヒント] フィールドコンテナが新しいグラフ属性構文に含まれています。

InfoAssist+ では、各グラフタイプに固有のフィールドコンテナが表示されます。

Active テクノロジのエクスポート機能を使用する際の注意点は次のとおりです。

- ❑ ACROSS ソートフィールドを含むレポートを作成し、そのデータをエクスポートしようとすると、列タイトルおよびフィールド値が CSV および XML (Excel) フォーマットにエクスポートされません。

Active テクノロジツールに関する注意点は次のとおりです。

- ❑ アクティブキャッシュが有効な場合、集約テーブルおよびピボットテーブルで、カンマ挿入の編集オプションが適用されません。

Active テクノロジキャッシュオプションを使用する際の注意点は次のとおりです。

- ❑ 日付時間フォーマットフィールドはサポートされません。

Excel へのエクスポート機能を使用する際の注意点は次のとおりです。

- ❑ アクティブキャッシュを有効にした Active Report を生成し、エクスポート機能の [Excel] オプションを使用すると、リクエストの出力が EXL2K フォーマットではなく、XLSX フォーマットで生成されます。この動作は、Microsoft Edge、Internet Explorer、Firefox、Chrome ブラウザに適用されます。

エクスポート動作は Reporting Server によって制御されます。エクスポートの実行時に Office Open XML ドキュメントが生成されます。このドキュメントをダウンロードし、所定のフォーマットで保存することができます (デフォルトは .xlsx)。

- ❑ アクティブキャッシュを無効にした Active Report を生成し、エクスポート機能の [XML (Excel)] オプションを使用する際は、エクスポート動作がアクティブ JavaScript レイヤによって制御されます。エクスポートの実行時に Microsoft Office XML ドキュメントが生成されます。このドキュメントをダウンロードし、所定のフォーマットで保存することができます (デフォルトは .xls)。この動作は、Microsoft Edge、Internet Explorer、Firefox、Chrome ブラウザに適用されます。

モバイルデバイスを使用する際の注意点は次のとおりです。

- ❑ Android モバイルデバイスで、Chrome ブラウザのアクセシビリティオプションを [強制的にズームを有効化] に設定すると、この設定がズームを回避する Web サイトのリクエストより優先されます。Android モバイルデバイスで、Chrome ブラウザを使用して AHTML レポートを実行する際にこの設定が有効の場合、列の固定や手動サイズ調整などインタラクティブレポートの機能との競合が発生します。Active Report が完全に機能するためには、[アクセシビリティ] の設定を無効にする必要があります。

5

Active テクノロジコンポーネントによる インタラクティブコンテンツの作成

ここでは、Active テクノロジを有効にして、オフラインでユーザが分析、操作できるインタラクティブレポート、グラフ、ダッシュボードを作成する方法について説明します。

トピックス

- ☐ [Active テクノロジレポートの作成](#)
- ☐ [Active テクノロジグラフの作成](#)
- ☐ [複数ページの Active テクノロジダッシュボードの作成](#)

Active テクノロジレポートの作成

Active Report は、オフライン分析を目的とした自己完結型のレポートです。

手順

次の手順は、InfoAssist+ レポートモードの [クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで実行することができます。

1. ステータスバーの [出力タイプ] メニューで、[Active Report] または [Active PDF] をクリックします。
2. 次のいずれかの方法でレポートにデータを挿入します。
 - ☐ ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドをキャンバスにドラッグする。
 - ☐ ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドを [クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグする。

Active Report のメニューオプション

下表は、Active Report のメニューオプションを示しています。

注意： 下表に記載されているオプションの中で、次のオプションには ActiveX コントロールが必要です。Microsoft Edge は ActiveX テクノロジをサポートしないため、これらのオプションは Microsoft Edge では使用できません。

- ☐ Email として送信

- ☐ 変更の保存
- ☐ アクティブキャッシュ無効時の XML (Excel) エクスポート

オプション	定義
昇順ソート	列を昇順でソートします。
降順ソート	列を降順でソートします。
フィルタ	<p>データにフィルタを設定します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 等しい<input type="checkbox"/> 等しくない<input type="checkbox"/> より大きい<input type="checkbox"/> 以上<input type="checkbox"/> より小さい<input type="checkbox"/> 以下<input type="checkbox"/> 値 1 から値 2<input type="checkbox"/> 値 1 から値 2 以外<input type="checkbox"/> 文字列を含む<input type="checkbox"/> 文字列を含む (大文字と小文字の一致)<input type="checkbox"/> 文字列を含まない<input type="checkbox"/> 文字列を含まない (大文字と小文字の一致)

オプション	定義
演算	<p>フィールドに適用可能な演算タイプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> クリア <input type="checkbox"/> すべてクリア <input type="checkbox"/> 件数 <input type="checkbox"/> 固有値 (値の種類) - フィールド内の一意の値 (重複した値を除く) の個数を計算します。 <p>数値フィールドには、次の演算を適用することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 集計 <input type="checkbox"/> 平均 <input type="checkbox"/> 最小 <input type="checkbox"/> 最大 <input type="checkbox"/> 件数 <input type="checkbox"/> 固有値 (値の種類) - フィールド内の一意の値 (重複した値を除く) の個数を計算します。 <input type="checkbox"/> 合計のパーセント
グラフ	<p>レポートから Active Report グラフを作成します。オプションには、[円]、[折れ線]、[縦棒]、[散布図] があります。</p>
集約	<p>テーブルの作成に使用可能なフィールドをすべて表示します。</p>
ピボット (クロス集計)	<p>ピボットテーブルの作成に使用可能なフィールドをすべて表示します。</p>
表示	<p>選択した列にピアグラフを追加したり、列からピアグラフを削除したりします。[ピアグラフ] オプションは、数値データ列でのみ使用できます。</p>
列の非表示	<p>選択した列をレポート内で非表示にします。</p>

オプション	定義
列の表示	<p>レポート内で非表示の列の名前をすべて表示し、それぞれの列を個別に再表示することができます。</p> <p>レポート内の特定の列を再表示するには、非表示の列リストからその列の名前を選択します。</p>
列の固定	<p>レポートを特定の列で固定し、横方向へのスクロール時に、固定した列より左側の列を常に表示された状態にします。</p> <p>注意：ブラウザウィンドウ内にレポート全体を表示できる場合、列の固定は適用されません。[列の固定] オプションは、レポートを折りたたみ付き (アコーディオン) で表示した場合は使用できません。</p>
すべて固定解除	列の固定を解除します。
リストツール	リストツールを開き、Active Report での列の順序変更、選択した複数列の昇順または降順ソート、列の表示と非表示の切り替え、列への演算結果の追加、中間合計の追加を行えます。
グラフ/集約ツール	グラフ/集約ツールを開き、複数のグループフィールドを選択して、グラフまたは集約テーブルを生成することができます。グラフ/集約ツールには、Active Report で使用可能なフィールドのリストが表示され、このリストから [グループ] および [メジャー] ボックスにフィールドを追加します。フィールドをドラッグし、追加先のボックスにドロップします。
ピボットツール	ピボットツールを開き、複数のグループフィールドを選択して、グラフまたはピボットテーブルを生成することができます。ピボットツールには、Active Report で使用可能なフィールドのリストが表示され、このリストから [グループ]、[ACROSS]、[メジャー] ボックスにフィールドを追加します。フィールドをドラッグし、追加先のボックスにドロップします。
レコードの表示	[レコードの表示] メニューオプションを開き、レポートの 1 ページあたりに表示可能なレコード件数のリストを表示します。1 ページあたりに表示する件数 (例、10 件) を選択します。[デフォルト] を選択すると、レポートプロシジャで指定された 1 ページあたりのレコード件数 (行数) が表示されます。

オプション	定義
コメント	Active Report 出力でセルの下にコメントを表示したり、コメントのインジケータを非表示にしたりします。
Email として送信	<p>Active Report の現在の状態を保存し、そのレポートを Email で送信することができます。</p> <p>注意：この機能を使用するには、ブラウザのセキュリティ設定で ActiveX を有効にしておく必要があります。</p> <p>この機能は、Internet Explorer でのみサポートされます。</p>
変更の保存	<p>現在の状態の Active Report を、HTML ファイルとしてダウンロードフォルダに保存します。ブラウザの設定によっては、必要に応じて、ファイルをローカルシステムの別の場所に保存することもできます。</p> <p>注意：ブラウザの [名前を付けて保存] オプションを使用して Active Report を保存した場合、そのレポートは元のデフォルト状態で保存されます。ブラウザの [名前を付けて保存] ダイアログボックスでは、ページを正しく保存するために [Web ページ、HTML のみ] 保存オプションを選択することをお勧めします。</p>
エクスポート	<p>アクティブキャッシュを有効にしている場合、すべてのレコード、またはフィルタされたレコードのみを HTML、CSV、Excel、PDF のいずれかのフォーマットでエクスポートします。</p> <p>注意：Active Report のアクティブキャッシュは、[フォーマット] タブの [ナビ] グループで [Web ビューア] をクリックした際に有効になります。</p> <p>アクティブキャッシュが無効化され、非接続のファイルをオフライン分析用に使用する場合は、HTML、CSV、または XML (Excel) ファイルに、すべてのレコードまたはフィルタを設定したレコードのみをエクスポートし、ダウンロードフォルダにコピーを自動的に保存します。この動作は、すべてのブラウザにおいて、すべてのインタラクティブアウトプットをエクスポートする場合に適用されます。この機能を使用するには、ブラウザのセキュリティ設定で ActiveX を有効にしておく必要があります。</p>

オプション	定義
プリンタ	すべてのレコード、またはフィルタされたレコードのみを印刷します。
ウィンドウ	複数のレポートを重ねて表示するか、タブ別に表示します。
元に戻す	Active Report を、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。

Active テクノロジセルメニューオプション

Active Report レポートフォーマット で作業する場合、次のデータセルオプションが表示されます。

オプション	定義
ドリルダウン	データソース階層の 1 つ下のレベルにドリルダウンすることができます。このオプションは、[オートドリル] を有効にしたレポートで表示されます。
ドリルアップ	データソース階層の 1 つ上のレベルにドリルアップすることができます。このオプションは、[オートドリル] を有効にしたレポートで表示されます。
元に戻す	Active Report を、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。
オートリンク	[オートリンク] を有効にしたレポートにリンクされるターゲットレポートのリストを表示します。このオプションは、[オートリンク] を有効にしたレポートで表示されます。
コメント	レポートのデータに関するコメントを追加することができます。追加したコメントは、データセルの上にマウスポインタを置いた際に注釈として表示されます。
値のハイライト	レポートの特定の値をハイライト表示します。
行のハイライト	レポートで選択した行をハイライト表示します。

オプション	定義
ハイライトをすべてクリア	レポートの値または行に適用したハイライト表示をすべて削除します。
セルフフィルタ設定	出力にフィルタを適用し、選択したデータ行のみを表示します。
セルフフィルタ設定解除	適用したセルフフィルタ設定をすべて削除します。

Active テクノロジレポートオプションの構成

メニューオプションなどの Active Report レポートオプションは、ユーザロールに応じて、[Active Report オプション] ダイアログボックスから構成することができます。

このダイアログボックスにアクセスするには、[フォーマット] タブの [機能] グループで [Active Report オプション] ボタンをクリックします。このボタンは、Active Report または Active PDF を出力タイプに選択した場合に表示されます。

[Active Report オプション] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- ☐ 全般
- ☐ メニューオプション
- ☐ 色
- ☐ 詳細

全般タブ

[全般] タブでは、Active Report に固有の全般プロパティを設定します。

[全般] タブには、次のオプションがあります。

表示 このエリアには、ウィンドウを重ねて表示するか、タブ表示するかを設定するオプション、および列を固定するオプションがあります。

- ☐ **ウィンドウ** ウィンドウ設定を選択します。オプションには、[重ねて表示]、[タブ] があります。

注意：[重ねて表示] または [タブ] オプションを使用して、出力ウィンドウの表示方法を変更することができます。[タブ] オプションは、[レガシー] スタイルのみで使用できます。

☐ **列の固定** 固定する列を選択します。[なし] を選択することもできます。

ページオプション このエリアでは、1 ページあたりのレコード件数の設定、ページ情報の表示の有効化、配置の変更、ページ情報の位置設定を行えます。

☐ **1 ページの件数** 1 ページに表示するレコードの件数を選択または入力します。デフォルト値は 57 です。

☐ **ページ情報の表示** このオプションを選択して、ページナビゲート情報を表示します。このオプションの選択を解除すると、ページナビゲート情報が非表示になります。

☐ **配置** いずれかのボタンをクリックして、ページナビゲート情報の配置を設定します。オプションは、[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え] です。

☐ **場所** ページナビゲート情報の位置を選択します。オプションは、[先頭行]、[最終行] です。

グラフオプション 出力フォーマットが Active PDF の場合、このエリアにグラフに関するオプションが表示されます。

注意： 出力フォーマットが Active Report の場合、[グラフオプション] エリアは表示されません。

☐ **凡例 (チェックボックス)** このオプションを選択すると、必要に応じて凡例が折りたたまれます。凡例の折りたたみを無効にするには、このオプションの選択を解除します。

☐ **凡例 (メニュー)** 凡例の位置を選択します。次のオプションがあります。

☐ 下左

☐ 下中央

☐ 下右

メニューオプションタブ

[メニューオプション] タブでは、ユーザタイプを選択し、ユーザタイプ別にメニューに表示するオプションを選択します。

[メニューオプション] タブには、次のオプションがあります。

☐ **ユーザタイプ** オプションは、[パワーユーザ]、[分析ユーザ]、[基本ユーザ]、[カスタム] です。

☐ **パワーユーザ** これがデフォルトのユーザタイプです。このユーザタイプに設定すると、すべての機能が使用可能になります。

- ❑ **分析ユーザ** このユーザタイプが使用可能な機能は、[レコードの表示]、[固定]、[表示/非表示]、[エクスポート]、[ソート]、[ピボット]、[フィルタ]、[演算]、[グラフ]、[ピアグラフ]、[元に戻す]、[変更の保存]、[アコーディオン] です。
- ❑ **基本** このユーザタイプが使用可能な機能は、[レコードの表示]、[固定]、[表示/非表示]、[ソート]、[フィルタ]、[演算]、[ピアグラフ]、[元に戻す] です。
- ❑ **カスタム** 選択したオプションの組み合わせが、既存のユーザタイプ (パワーユーザ、分析ユーザ、基本ユーザ) で設定されているオプションの組み合わせと一致しない場合、[ユーザタイプ] テキストボックスに表示されるユーザレベル名は [カスタム] になります。これは、デフォルトユーザタイプでもなく、上記の選択可能なユーザタイプでもありません。このユーザのオプションが既存のユーザタイプのいずれにも一致しないことを示します。

ユーザタイプに応じて使用可能なオプションは次のとおりです。

- ❑ **レコードの表示** すべてのレコードを表示したり、指定した件数のレコードのみを表示したりします。
- ❑ **固定** 列を固定したり、固定を解除したりします。
- ❑ **表示/非表示** 列を表示したり、非表示にしたりします。
- ❑ **エクスポート** アクティブキャッシュが有効な場合、データを HTML、CSV、Excel、PDF のいずれかでエクスポートします。アクティブキャッシュが無効な場合、データを HTML、CSV、XML (Excel) のいずれかでエクスポートします。

注意: キャッシュが無効な場合、出力は自動的に [ダウンロード] フォルダに送信されます。これは、すべてのインタラクティブ出力およびすべてのブラウザに適用されます。また、オフライン分析で切断モードのファイルを使用する場合も同様です。
- ❑ **ソート** データを昇順または降順でソートします。
- ❑ **ピボット** ピボットテーブルの作成に使用可能なフィールドをすべて表示します。
- ❑ **ウィンドウタイプ** 複数のウィンドウを重ねて表示したり、タブ表示にしたりします。
- ❑ **Email として送信** 現在の変更内容を保存し、レポートを Email で送信することができます。
- ❑ **印刷** すべてのレコードを印刷したり、フィルタされたレコードのみを印刷したりします。
- ❑ **詳細ツール** グラフ/集約ツール、ピボットツール、リストツールにアクセスします。

- ❑ **フィルタ** [フィルタの選択] ダイアログボックスを開きます。
- ❑ **演算** [集計]、[平均]、[最小]、[最大]、[件数]、[固有値 (値の種類)]、[合計のパーセント]の演算を実行します。
- ❑ **グラフ** レポートを円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフ、散布図のいずれかに変換します。
- ❑ **ピアグラフ** レポートにピアグラフを追加します。
- ❑ **集約** データの集約を実行します。
- ❑ **コメント** コメントを追加します。
- ❑ **元に戻す** Active Report を、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。
- ❑ **変更の保存** 現在の変更内容を保存します。
- ❑ **アコーディオン** アコーディオンレポートを生成します。
- ❑ **リストツール** [リストツール] ダイアログボックスを開きます。

色タブ

[色] タブでは、レポート上のさまざまなオブジェクトの色を選択することができます。

[色] タブには、次のオプションがあります。

ページ このエリアには、ページテキストのフォントおよび背景の色を設定するオプションがあります。

- ❑ **フォント** [色] ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。
- ❑ **背景** [色] ダイアログボックスを開いて、ページテキストの背景色を選択することができます。

行の選択 このエリアには、マウスポインタをレポートの行の上に置いたり、行を選択したりしたときに表示する色の設定オプションがあります。

- ❑ **Hover** [色] ダイアログボックスを開いて、マウスポインタをレポートの行の上に置いたときに表示する色を選択することができます。
- ❑ **選択済み** [色] ダイアログボックスを開いて、ハイライトオプションを使用したときに行に表示する色を選択することができます。

ピアグラフ このエリアには、ピアグラフの棒の色を設定するオプションがあります。

- ☐ **正の値** [色] ダイアログボックスを開いて、正の値のピアグラフに使用する色を選択することができます。
- ☐ **負の値** [色] ダイアログボックスを開いて、負の値のピアグラフに使用する色を選択することができます。

演算 このエリアには、演算の値に使用する色を設定するオプションがあります。

- ☐ **フォント** [色] ダイアログボックスを開いて、演算のフォント色を選択することができます。
- ☐ **背景** [色] ダイアログボックスを開いて、演算の背景色を選択することができます。

メニュー このエリアには、メニューの色を変更するオプションがあります。

- ☐ **標準**
 - ☐ **フォント** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションに使用するテキストの色を選択することができます。
 - ☐ **背景** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューの背景色を選択することができます。
 - ☐ **境界** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューの境界色を選択することができます。
- ☐ **Hover**
 - ☐ **フォント** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションにマウスポインタを置いたときに表示するテキスト色を選択することができます。
 - ☐ **背景** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションにマウスポインタを置いたときに背後に表示する背景色を選択することができます。

詳細タブ

[詳細] タブでは、アクティブキャッシュから取得する行数の制御、およびセキュリティの追加を行います。

注意：アクティブキャッシュは、出力タイプとして [Active Report] を選択し、[フォーマット] タブの [ナビ] グループで [Web ビューア] をクリックした場合に有効になります。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

アクティブキャッシュ レポートのデータをバイナリファイルにキャッシュし、事前に設定した増加値に基づいてキャッシュデータを出力ウィンドウに返します。

❑ **取得行数** 出力時に取得する行数を選択します。デフォルト値は 100 です。

セキュリティ このエリアでは、レポートにアクセスするためのパスワードを設定したり、日付または日数に基づいて期限切れを有効にしたりできます。このオプションは、[Active Report] レポート出力のみで 사용할 수 있습니다。

注意: Active Report のセキュリティオプションは、キャンバス上の各コンポーネントに個別に設定できますが、指定可能なパスワードはレイアウト全体で 1 つのみです。

Active テクノロググラフの作成

Active Chart は、オフライン分析を目的としたグラフです。詳細は、59 ページの「[Active テクノログレポートオプションの概要](#)」を参照してください。

注意: Active テクノログでは、HTML5 拡張グラフの使用がサポートされます。この拡張グラフは、Web Query 外部のリソースにアクセスする、ユーザ提供のカスタムグラフタイプです。

手順

Active テクノログ グラフを作成するには

次の手順は、InfoAssist+ グラフモードの [クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで実行することができます。

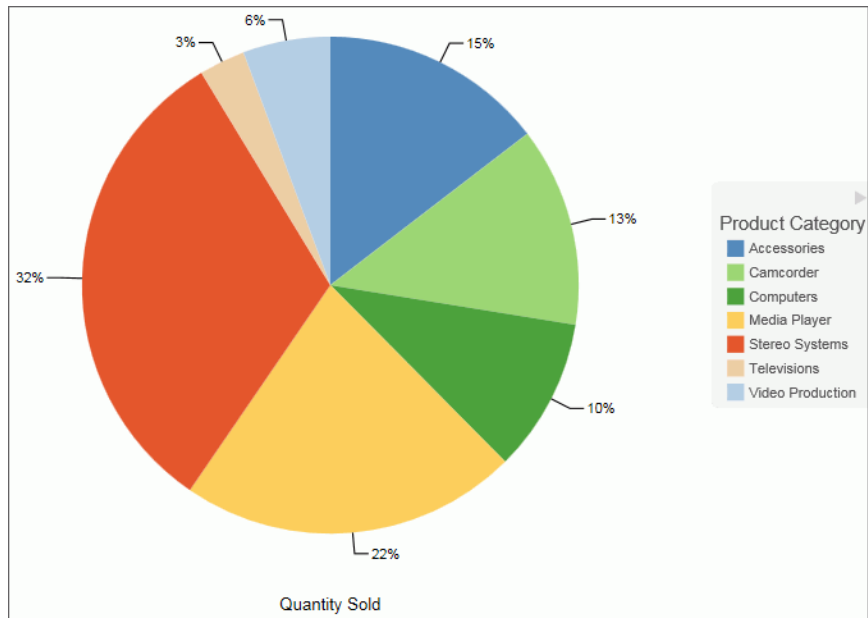
1. ステータスバーの [出力タイプ] メニューで、[Active Report] または [Active PDF] をクリックします。
2. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、作成するグラフのボタンをクリックします。デフォルト設定では、棒グラフが選択されています。

キャンバスにグラフが表示されます。

3. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。

- ❑ ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドをグラフ上にドラッグする。
- ❑ ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドを [クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグする。

下図は、[販売,数量] フィールドの値を製品区分別に集計した HTML5 円グラフを示しています。













Active テクノロジグラフのオプション

下表は、Active Chart のメニューオプションを示しています。

注意：新しい属性構文を使用するグラフでは、[詳細オプション]、[詳細グラフ]、[元のグラフ]、[集計] の 4 つのアイコンのみ表示されます。フィルタを適用した場合は、[フィルタ設定解除] アイコンが表示されます。

オプション	定義
詳細オプション 	新規作成 グラフの新しいインスタンスを作成します。このオプションは、表形式レポートの列タイトルメニューからグラフを作成した場合にのみ使用できます。
	グループ (X) 横方向ソートフィールドのグループを変更します。
	追加 (Y) 縦方向ソートフィールドを追加します。
	X 軸 メジャーまたはディメンションソートフィールドを指定します。散布図に適用されます。
	Y 軸 メジャーを指定します。散布図に適用されます。
	整列 マーカー色を指定します。マーカー色は、[色] 属性に割り当てられているフィールドに基づきます。この属性に割り当てられたフィールドが存在しない場合、すべてのマーカーが同一色になります。散布図に適用されます。
	エクスポート Excel、Word、PowerPoint のいずれかにエクスポートします。
	積み上げ ライザを別のライザの上に積み重ねます。各ライザの長さは、データ値を表します。棒グラフに適用されます。
	上位 上位の値を表示します。オプションには、[上位 3]、[上位 5]、[上位 10]、[上位のクリア] があります。円グラフに適用されます。
	傾向 シリーズごとに傾向線を描画し、数式ラベルを配置します。散布図に適用されます。
	グラフ/集約ツール グラフ/集約ツールを開いて、生成するグラフまたは集約テーブルに表示する複数のグループフィールドを選択することができます。グラフ/集約ツールには、Active Report で使用可能なフィールドのリストと、[グループ] および [メジャー] ソートフィールドが表示されます。フィールドをクリックし、それぞれのソートフィールドにドラッグします。
	注意: Active Chart (具体的には新しいグラフ属性構文を使用するグラフ) のグラフ/集約ツールを使用する場合、[シリーズ] タブはサポートされません。[シリーズ] タブは、表形式レポートから作成されたグラフ、または新しいグラフ属性構文を使用しないグラフでサポートされます。
	元に戻す Active Report を、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。

オプション	定義
縦棒 	データを縦棒グラフで表示します。
円 	データを円グラフで表示します。
折れ線 	データを折れ線グラフで表示します。
散布図 	データを散布図で表示します。
集約 	グラフを集約テーブルに変更します。
詳細グラフ 	グラフ/集約ツールを開きます。
元のグラフ 	Active Report を、レポートプロシジャで指定されたグラフタイプに戻します。
固定/固定解除 	<p>グラフまたは集約テーブルを固定します。グラフの [固定] アイコンまたは集約テーブルの [固定] アイコンを使用して、レポートに適用したフィルタにグラフまたは集約テーブルを関連付けるか、関連付けを解除するかを切り替えることができます。このアイコンは、レポートがフィルタに関連付けられているか (グラフまたは集約テーブルの固定)、関連付けが解除されているか (グラフまたは集約テーブルの固定解除) を示します。</p> <p>このオプションは、表形式レポートの列タイトルメニューからグラフを作成した場合にのみ使用できます。</p>

オプション	定義
集計 	[メジャー] フィールドに [集計]、[平均]、[最小]、[最大]、[件数]、[固有値 (値の種類)] を適用します。デフォルト値は [集計] です。
フィルタ設定解除 	グラフからフィルタを除外します。フィルタを適用するには、グラフのコンポーネント上にマウスポインタを置くか、グラフの特定の領域をフリーハンド (ラッソ) 選択で囲み、グラフのツールヒントから [グラフフィルタ設定] または [グラフから除外] を選択します。

Active テクノロジグラフ使用時の注意

新しいグラフプロパティが含まれていない AHTML グラフを作成し (具体的には BUCKET 構文を使用しない AHTML グラフ)、実行時に [詳細グラフ] ツールを使用して現在のグラフタイプを以下のいずれかのグラフタイプに変更すると、エラーが発生します。

- ☐ タグクラウド
- ☐ じょうご
- ☐ ピラミッド
- ☐ 滝型
- ☐ ヒストグラム
- ☐ レーダー線
- ☐ レーダー面
- ☐ 3D 面

デフォルト設定では、元のグラフが BUCKET 構文を使用する AHTML グラフの場合、上記のグラフタイプは [詳細グラフ] ツールには表示されません。これらのグラフタイプは、次の場合に使用可能になります。

- ☐ 元のグラフが BUCKET 構文を使用しないグラフの場合
- ☐ グラフが表形式レポートから作成された場合

複数ページの Active テクノロジダッシュボードの作成

Active Dashboard を作成するには、レイアウトに複数のコンテンツタイプ (例、レポート、グラフ、イメージ、テキスト) を挿入します。Active Dashboard では、レポートおよびグラフ自体の出力フォーマットが Active Report ではない場合も含めて、すべてのレポートおよびグラフを Active Report 出力フォーマットで実行します。

また、レイアウトに入力フォームを挿入すると、その入力フォームが Active Dashboard 上のレポートやグラフのフィルタとして機能します。複数の入力フォームに連鎖を設定すると、ユーザーが 1 つ目の入力フォームで選択した値に基づいて 2 つ目の入力フォームに表示される値が絞り込まれます。

入力フォームを追加するには、ダッシュボードの出力フォーマットを Active Report または Active PDF にする必要があります。

入力フォーム

入力フォームグループには、ダッシュボードに入力フォームを挿入するためのボタンが用意されています。このグループは、ドキュメントの出力フォーマットを Active Report または Active PDF に設定した場合にのみ表示されます。入力フォームにアクセスするには、[挿入] タブの [入力フォーム] グループを選択します。

Active Dashboard でフィルタの適用に使用可能な入力フォームには、次のものがあります。

- ❑ **ドロップダウン** ドロップダウン入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- ❑ **リストボックス** リスト入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- ❑ **チェックボックス** チェックボックス入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- ❑ **ラジオボタン** ラジオボタン入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- ❑ **テキストボックス** テキストボックス入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。

注意：入力フォームに入力される値の表示は、データの設定によって異なります。たとえば、サンプルデータを有効にした場合、入力フォームには、次のようなサンプルデータが表示されます。

WF_RETAIL1
WF_RETAIL2
WF_RETAIL3

ターゲットレポート

フィールドを入力フォームにバインドした場合、デフォルトのターゲットレポートは、そのフィールドをドラッグした元のレポートになります。[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスでは、ターゲットレポートを入力フォームに追加したり、入力フォームから削除したりできます。

レポートをターゲットレポートにするには、次の要件のいずれかを満たす必要があります。

- ❑ ターゲットレポートに、ソースフィールドと同一名のフィールドが存在する (実フィールド名または AS 名)。
- ❑ ターゲットレポートのマスターファイルに、ソースフィールドと同一名のフィールドが存在する。

フィールドのタイトルとユーザが入力したタイトルが同一であるためにターゲットレポートになる要件を満たしている場合、そのタイトルが変更されると、そのレポートは自動的にターゲットから除外されます。

手順

ダッシュボードに入力フォームを追加するには

ここでは、ドキュメントモードでレポートを作成し、そのレポートのフィールドの 1 つに単一入力フォームをバインドする方法でダッシュボードを作成する手順について説明します。

InfoAssist+ をドキュメントモードで開き、次の手順を実行します。

1. ステータスバーの [出力タイプ] メニューで、デフォルトの設定 ([Active Report]) を受容するか、[Active PDF] を選択します。
2. [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。
キャンバスにプレースホルダが表示されます。
3. キャンバスまたは [クエリ] ウィンドウにフィールドをドラッグしてレポートを作成し、ダッシュボードの作成を開始します。
4. [挿入] タブの [入力フォーム] グループで、レイアウトに挿入する入力フォームを選択します。

入力フォームは、作業領域の左上に表示されます。レポートがキャンバスの左上に配置されている場合、入力フォームをレポートの外側に移動する必要があります。

5. 次のいずれかの方法で、レポートを選択し、そのレポートのフィールドの 1 つを入力フォームにバインドします。

- **[クエリ] ウィンドウ** レポートを選択します。[クエリ] ウィンドウから、バインドするフィールドをドラッグし、入力フォーム上にドロップします。
- **キャンバス** キャンバス上でレポートを選択します。レポートが編集可能になります。使用するデータが含まれているフィールドを選択し、入力フォーム上にドラッグします。

フィールドを入力フォームにバインドすると、そのフィールドの値が入力フォームに表示されます。

注意: キャンバスに入力フォームを追加すると、レイアウトの出力フォーマットは、Active テクノロジ出力フォーマットに固定されます。キャンバスに入力フォームが配置されている場合、Active Report または Active PDF のフォーマットを変更することはできません。Active テクノロジ以外の出力フォーマットに切り替えるには、すべての入力フォームを削除する必要があります。

ターゲットとソースとしての複数レポートの使用

Active Dashboard には、複数のレポートおよびグラフを追加することができます。各レポートには、複数の入力フォームを関連付けることができます。

手順 複数レポートを使用してダッシュボードを作成するには

次の手順では、Active Dashboard の 2 つのレポートに入力フォームを設定する方法について説明します。ここで使用する例では、最初のレポートに、さまざまな地域で販売された家電製品のカテゴリに関する情報が含まれています。[製品,区分] フィールドは、ラジオボタンにバインドされます。各ラジオボタンは、家電製品の特定の製品区分を表します。特定の製品区分(例、Accessories) のラジオボタンを選択すると、選択した値に基づいてレポートがフィルタされます。

2 つ目のレポートには、家電製品の消費者の性別と地域に関する情報が含まれています。[性別] フィールドは、ドロップダウンリストにバインドされます。ドロップダウンリストには、性別の値が F(女性) または M(男性) として表示されます。ドロップダウンリストから性別を選択すると、選択した値に基づいてレポートがフィルタされます。

1. wf_retail_lite マスターファイルを使用して、InfoAssist+ をドキュメントモードで開きます。
2. レイアウトに次の 2 つのレポートを挿入して Active Dashboard を作成します。各レポートには、以下のフィールドを追加します。

レポート 1

- ☐ 製品,区分
- ☐ 店舗,ビジネス,地方区分
- ☐ 値引
- ☐ 粗利益

レポート 2

- ☐ 性別
- ☐ 顧客,大陸
- ☐ 製品,区分

3. [挿入] タブの [入力フォーム] グループで、次の入力フォームを選択してダッシュボードに挿入し、それぞれに対応するレポートの位置に移動します。

☐ **ラジオボタン** この入力フォームはレポート 1 に使用します。

☐ **ドロップダウンリスト** この入力フォームはレポート 2 に使用します。

入力フォームの操作についての詳細は、86 ページの「[ダッシュボードに入力フォームを追加するには](#)」を参照してください。

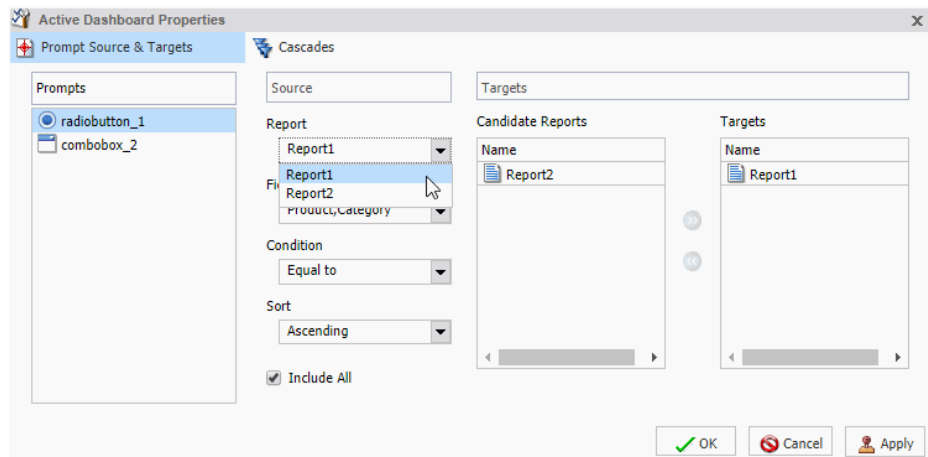
4. フィールドにバインドするラジオボタン入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

[プロンプト] リストには、手順 3 でドキュメントに追加した 2 つの入力フォーム (radiobuttons_1 および combobox_2) が表示されます。

5. [レポート] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドが含まれたレポートを選択します。

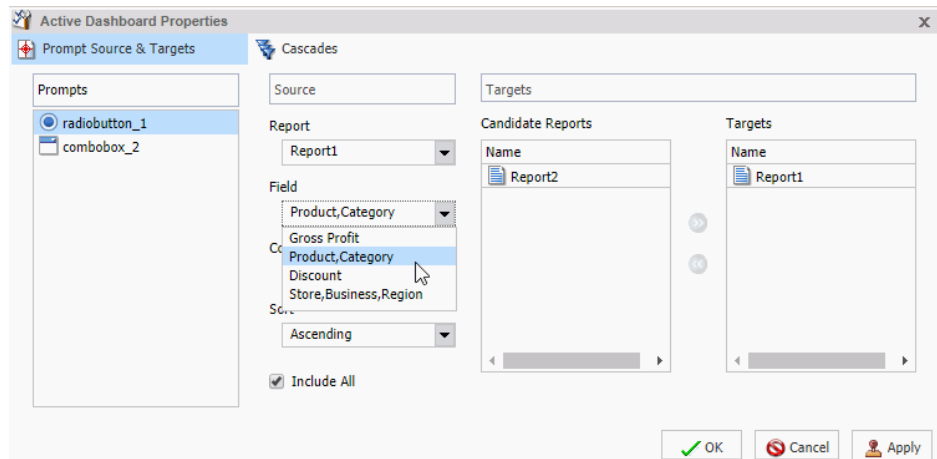
この例では、下図のように、ラジオボタン (radiobuttons_1) に対して [レポート 1] (地方区分レポート) を選択します。



次の手順では、地方区分レポートの [製品,区分] フィールドをラジオボタンにバインドして、このレポートのフィルタを作成します。

6. [フィールド] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドを選択します。

この例では、下図のように、ラジオボタン (radiobuttons_1) に対して [製品,区分] フィールドを選択します。



注意： 必要に応じて、[ソート] ドロップダウンリストから [昇順] または [降順] を選択します。

7. [OK] をクリックします。

これで、入力フォームがドキュメント上のフィールドにバインドされました。

下図では、ラジオボタンが [製品,区分] フィールドにバインドされています。このラジオボタンには、レポートをフィルタするための製品区分がすべて表示されます。

<input checked="" type="radio"/> [All]				
<input type="radio"/> Accessories				
<input type="radio"/> Camcorder				
<input type="radio"/> Computers				
<input type="radio"/> Media Player				
<input type="radio"/> Stereo Systems				
	Product Category	Store Business Region	Discount	Gross Profit
	Accessories	EMEA	\$2,437,956.41	\$15,898,776.98
		North America	\$3,416,809.19	\$22,879,859.37
		South America	\$153,257.58	\$1,027,460.88
	Camcorder	EMEA	\$2,840,963.46	\$19,928,603.81
		North America	\$4,075,160.76	\$28,304,171.49
		South America	\$185,793.84	\$1,309,721.34
	Computers	EMEA	\$1,700,675.30	\$12,147,362.23
		North America	\$2,999,148.76	\$20,556,914.70
		South America	\$100,862.80	\$753,505.60
	Media Player	EMEA	\$4,678,461.09	\$22,897,933.25
		North America	\$6,522,133.78	\$31,364,927.54
		South America	\$304,865.09	\$1,499,928.75
	Stereo Systems	EMEA	\$5,428,981.57	\$34,639,882.85
		North America	\$7,744,502.52	\$49,228,757.29
		South America	\$341,022.82	\$2,214,130.64
	Televisions	EMEA	\$1,518,099.74	\$6,990,404.98
		North America	\$2,013,911.63	\$9,358,461.12
		South America	\$102,362.82	\$462,120.21
	Video Production	EMEA	\$1,066,117.73	\$7,195,930.82
		North America	\$1,552,040.11	\$10,272,127.15
		South America	\$73,964.80	\$460,856.91

21 of 21 records, Page 1 of 1

次の手順では、性別レポート (レポート 2) の [性別] フィールドをドロップダウンリスト入力フォームにバインドします。

8. フィールドにバインドするドロップダウンリスト入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

[プロンプト] リストでは、ドキュメント上で選択した入力フォーム (combobox_2) が選択されています。

9. [レポート] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドが含まれたレポート (レポート 2) を選択します。

次の手順では、性別レポートの [性別] フィールドをドロップダウンリストにバインドして、このレポートのフィルタを作成します。

10. [フィールド] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドする [性別] フィールドを選択します。

[性別] フィールドを選択すると、性別レポート (レポート 2) が [ターゲット] リストに表示され、地方区分レポート (レポート 1) が [候補レポート] リストに表示されます。

注意： レポートを [候補レポート] リストから [ターゲット] リストに移動するには、レポートを選択し、[追加] 矢印をクリックします。レポートを [ターゲット] リストから削除するには、レポートを選択し、[削除] 矢印をクリックします。複数のレポートを選択するには、Ctrl キーを押しながらレポートを順にクリックします。

11. [OK] をクリックします。

これで、入力フォームがドキュメント上の [性別] フィールドにバインドされました。下図のように、[F] または [M] を選択することで性別レポートをフィルタすることができます。

Gender ▼	Customer Continent ▼	Product Category ▼
F	Africa	Accessories
		Camcorder
		Computers
		Media Player
		Stereo Systems
		Televisions
		Video Production
Asia	Accessories	Accessories
		Camcorder
		Computers
		Media Player
		Stereo Systems
		Televisions
		Video Production

下図は、完成したダッシュボードを示しています。

[All]

Accessories

Camcorder

Computers

Media Player

Stereo Systems

Televisions

Product Category

Accessories

Camcorder

Computers

Media Player

Televisions

Store Business Region

Discount

Gross Profit

[All]

F

M

Gender

Africa

Asia

Africa

Asia

Customer Continent

Accessories

Camcorder

Computers

Media Player

Stereo Systems

Televisions

Video Production

Accessories

Camcorder

Computers

Media Player

Stereo Systems

Televisions

Video Production

Accessories

Camcorder

Computers

Media Player

Stereo Systems

Televisions

Video Production

Product Category

Accessories

Camcorder

Computers

Media Player

Stereo Systems

Televisions

Video Production

28 of 28 records, Page 1 of 1

手順

フィールドを変更するには

入力フォームのバインド先となるフィールドを変更することができます。

1.

レイアウトモードでダッシュボードを作成するか、既存のダッシュボードを開き、特定のフィールドに入力フォームをバインドします。
2.

構成する入力フォームを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
3.

[フィールド] メニューから別のフィールドを選択します。

入力フォームのソースフィールドを変更すると、既存の入力フォームおよび従属 (子) の入力フォームのすべてが連鎖から削除されることを示す警告メッセージが表示されます。

4.

[OK] をクリックして、警告メッセージを閉じます。
5.

[OK] をクリックして、[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

入力フォームが、新しいソースフィールドで更新されます。

手順 フィルタ条件を変更するには

1. レイアウトモードで Active Dashboard を作成するか、既存の Active Dashboard を開き、86 ページの「[ダッシュボードに入力フォームを追加するには](#)」の説明に従って、特定のフィールドに入力フォームをバインドします。
2. 変更する入力フォームを右クリックし、コンテキストメニューから [プロパティ] を選択します。

[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [条件] ドロップダウンリストから、入力フォームのフィルタ条件を選択します。オプションには、[等しい]、[等しくない]、[より小さい]、[以下]、[より大きい]、[以上] があります。
4. [OK] をクリックします。

選択したフィルタ条件が入力フォームに適用されます。

手順 ダッシュボードに複数の入力フォームを追加するには

1. ドキュメントモードで Active Dashboard を作成するか、86 ページの「[ダッシュボードに入力フォームを追加するには](#)」の説明に従って、少なくとも 2 つの入力フォームを追加します。
2. 86 ページの「[ダッシュボードに入力フォームを追加するには](#)」の説明に従って、追加した入力フォームにフィールドをバインドします。

手順 入力フォームに連鎖を設定するには

ドキュメントに複数の入力フォームが存在する場合、これらの入力フォームに連鎖を設定することで、1 つ目の入力フォームで選択された値に基づいて、2 つ目の入力フォームに値を挿入することができます。複数の入力フォームに連鎖を設定すると、親子関係が形成され、親の入力フォームに基づいて、子の入力フォームで選択可能なオプションがフィルタされます。


1 つの入力フォームを複数の入力フォームの親として使用することはできますが、複数の入力フォームの子として使用することはできません。


1. ドキュメントモードで Active Dashboard を作成するか、既存の Active Dashboard を開き、少なくとも 2 つの入力フォームをフィールドにバインドします。
2. 構成する入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [連鎖] をクリックします。

デフォルト設定では、[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスの [連鎖] セクションには、「Cascade1」という名前の連鎖が表示されます。

□ [連鎖の新規作成]  ボタンをクリックすると、新しい連鎖を作成することができます。

□ [選択した連鎖の削除]  ボタンをクリックすると、選択した連鎖を削除することができます。

4. 入力フォームを追加する連鎖を選択します。

5. [利用可能なプロンプト] リストで、追加する入力フォームを選択します。

6. [追加] 矢印をクリックして、選択した入力フォームを [選択したプロンプト] リストボックスに移動します。

注意：[選択したプロンプト] リストボックスから入力フォームを削除するには、入力フォームを選択し、[削除] 矢印をクリックします。

7. 手順 5 と手順 6 を繰り返し、連鎖の一部とする別の入力フォームを追加します。

デフォルト設定では、入力フォームの階層は [選択したプロンプト] リストに追加した順序で適用されます。入力フォームの連鎖は、上から下の順に設定されます。[選択したプロンプト] リストで、上位の入力フォームが、下位の入力フォームの親になります。

8. 入力フォームの階層を変更するには、[選択したプロンプト] リストボックスで入力フォームを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] の矢印をクリックします。

9. [OK] をクリックします。

これで、連鎖が作成されます。

10. レポートを実行します。

注意：複数の連鎖を設定した場合、最後に操作した連鎖に基づいてレポートがフィルタされます。

6

スライサの使用

スライサ機能は、レポート、グラフ、ドキュメントに動的なユーザコントロールを簡単に追加する手法の 1 つです。これらのコンテンツの作成時または実行時にスライサを使用することで、表示するデータの絞り込みが可能になります。スライサは、1 つまたは複数のフィールドのドロップダウンメニューから値を選択することで、条件を動的に変更できるフィルタです。スライサを使用してコンテンツをフィルタする例として、レポートまたはグラフの作成時に [スライサ] タブでスライサを操作し、フィルタを適用した上でレポートまたはグラフを実行する方法や、[スライサ] タブが表示されるよう設定された InfoMini アプリケーションを起動し、スライサを操作した上でアプリケーションを実行する方法があります。

トピックス

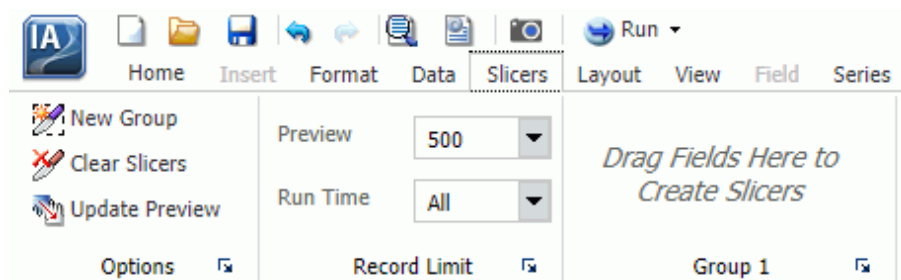
- ❑ [スライサの作成](#)
- ❑ [スライサによるフィルタの適用](#)
- ❑ [スライサの編集ダイアログボックス](#)

スライサの作成

スライサを作成するには、フィールドを [スライサ] タブにドラッグするか、フィールドのコンテキストメニューを使用します。

注意：App Studio のグラフモードで作業している場合、スライサ機能を使用することはできません。

スライサグループを作成すると、作成されたグループが下図に示す [スライサ] タブに表示されます。



スライサを使用すると、デザイン時に動的なフィルタをレポートに適用することができます。

InfoMini アプリケーションにスライサを追加しておくと、実行時のレポートに、動的なフィルタを設定することができます。詳細は、109 ページの「[InfoMini アプリケーションの作成](#)」を参照してください。

手順

スライサを作成するには

1. [スライサ] タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、新しいスライサを作成します。
 - [新規グループ] ボタンをクリックし、新しいスライサグループを作成します。

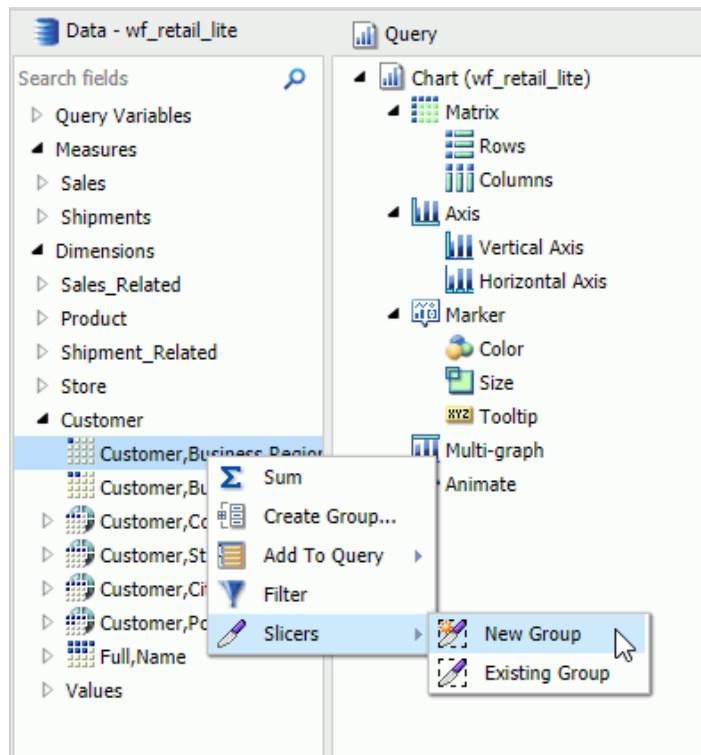
[データ] ウィンドウでフィールドを選択し、[スライサ] タブの「スライサを作成するフィールドをここにドラッグ」というテキスト上にドラッグアンドドロップします。

注意：親子階層を [スライサ] タブにドラッグすることはできません。

新しいグループに、フィールドが追加されます。

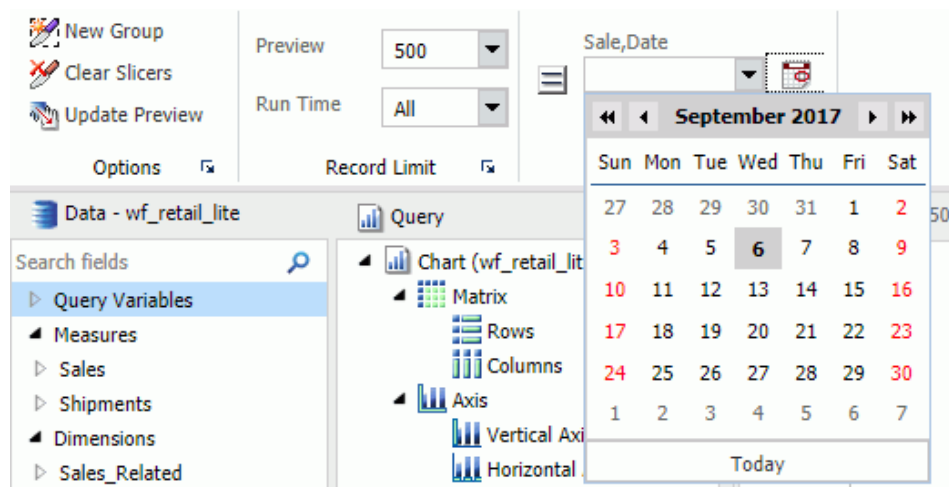
または

- 下図のように、[データ] ウィンドウでフィールドを右クリックし、[スライサ]、[新規グループ] を順に選択します。



新しいグループに、フィールドが追加されます。

完全な日付フォーマットのフィールドでスライサを作成する場合、フィールドの横にカレンダーアイコンが表示されます。このアイコンを使用して、カレンダーコントロールから日付を選択することができます。



手順 既存のスライサグループにフィールドを追加するには

1. [スライサ] タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、既存のスライサグループにフィールドを追加します。
 - ☐ [データ] ウィンドウでフィールドを選択し、既存のスライサグループにドラッグアンドドロップします。
 - または
 - ☐ [データ] ウィンドウでフィールドを右クリックし、[スライサ]、[既存グループ] を順に選択します。

メニューから既存のグループを選択し、[OK] をクリックします。

選択したフィールドが既存のグループに追加されます。詳細は、106 ページの「[グループタブ](#)」を参照してください。

手順 スライサグループとして階層を追加するには

注意： 親子階層を [スライサ] タブにドラッグすることはできません。

1. [スライサ] タブをクリックします。

2. 次のいずれかの方法で、スライサグループとして、階層を追加します。

- ❑ [データ] ウィンドウで階層を選択し、既存のスライサグループにドラッグアンドドロップします。

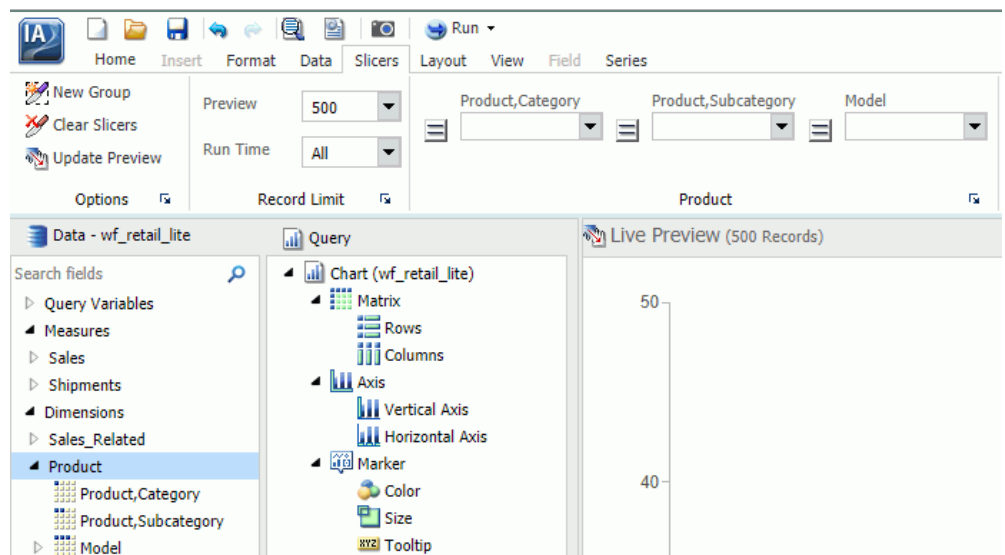
階層は、既存グループのスライサとしてではなく、新しいグループとして追加されます。新しいグループには、階層と同一の名前が付けられます。

または

- ❑ [新規グループ] ボタンをクリックし、新しいスライサグループを作成します。

[データ] ウィンドウで階層を選択し、[スライサ] タブの「スライサを作成するフィールドをここにドラッグ」というテキスト上にドラッグアンドドロップします。

新しいグループに、フィールドが追加されます。新しいグループの名前は、自動的に階層名に変更されます。たとえば、[製品] 階層を使用してスライサグループを作成すると、そのスライサグループに [製品,区分]、[製品,区分 (詳細)]、[型] が追加され、グループ名が自動的に「製品」になります。



注意：既存のスライサグループに、階層を追加することはできません。階層を既存のスライサグループにドラッグアンドドロップすると、新しいグループが自動的に作成されます。

この階層に、右クリックのコンテキストメニューはありません。階層をスライサグループとして追加するには、新しいスライサグループにドラッグする必要があります。

スライサによるフィルタの適用

InfoAssist+ レポートにスライサを追加した後、そのスライサを使用してレポートにフィルタを適用することができます。スライサメニューから値を選択することや、表示レコード数の変更、新しいグループの作成、既存スライサグループのクリア、レポートプレビューの更新が行えます。

値が選択されていないスライサには、選択済みスライサによってフィルタされた値が表示されます。次のスライサメニューには、前に選択したスライサの条件に一致する値のみが表示されます。スライサへのフィルタは、スライサグループの表示順ではなく、選択された順序で設定されます。スライサの連鎖は、階層の場合にのみ有効になります。

手順 スライサの関係演算子を変更するには

1. レポートに少なくとも 1 つのスライサを追加して、[スライサ] タブをクリックします。
2. スライサで変更する演算の演算子ボタンをクリックします。

メニューに演算子のリストが表示されます (数値フィールドの場合)。

注意：文字フィールドでは、[等しい] と [等しくない] の切り替えのみを行えます。

3. 使用する演算子をメニューから選択します。演算子の上にマウスポインタを置くと、演算の説明がポップアップ表示されます。

スライサの連鎖

階層 (キューブまたはディメンションベース) の場合、スライサの連鎖は、ユーザが操作した順序ではなく、階層内で設定されます。これにより、パフォーマンスの問題が回避されます。

手順 スライサを連鎖するには

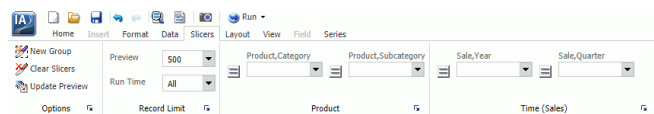
同一階層の各フィールドのコントロールには、互いに連鎖が設定されます。

下図の例では、作成されたレポートに、製品の販売数量が製品区分別、年度別に表示されています。

Product Category	Sale Year	Quantity Sold
Accessories	2014	63,836
	2015	139,977
	2016	209,571
Camcorder	2014	56,782
	2015	123,972
	2016	187,033
Computers	2014	34,626
	2015	89,626
	2016	188,736
Media Player	2014	92,435
	2015	199,311
	2016	315,783
Stereo Systems	2014	138,850
	2015	302,717
	2016	451,751
Televisions	2014	11,542
	2015	24,940
	2016	38,123
Video Production	2014	25,032
	2015	54,953
	2016	81,585

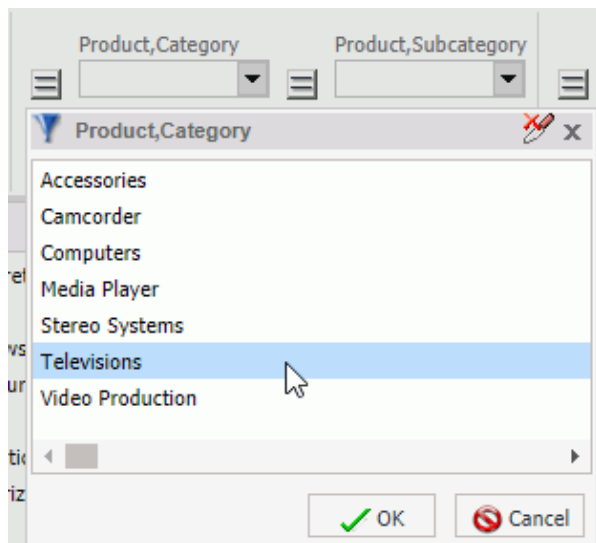
1. レポートを作成します。
2. 96 ページの「[スライサを作成するには](#)」の手順に従って、複数のスライサグループを作成します。

下図の例では、このレポートに 2 つのグループが作成されています。これらのグループは、[製品] と [取引日,簡略] です。これらは階層から作成されているため、互いに連鎖が設定されます。

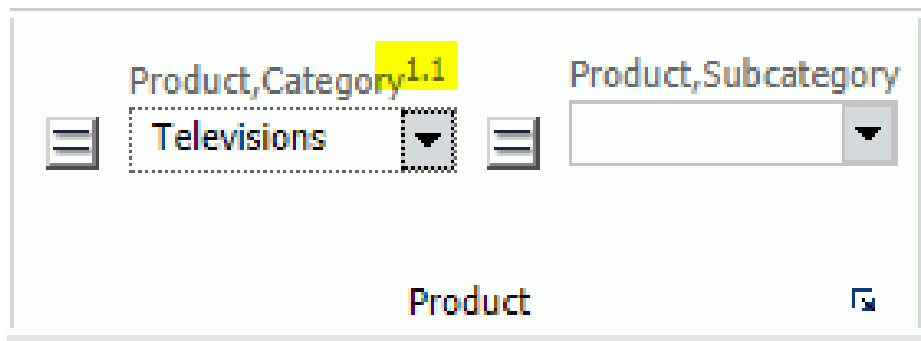


下図の例では、[製品] グループの最初のコントロールとして [Televisions] が選択されています。

注意：複数の値を選択するには、Ctrl キーを押しながらドロップダウンリストの値を順にクリックします。複数の値を選択した場合、ドロップダウンリストのラベルが [複数] に設定されます。選択した値を確認するには、ドロップダウンリストをクリックします。

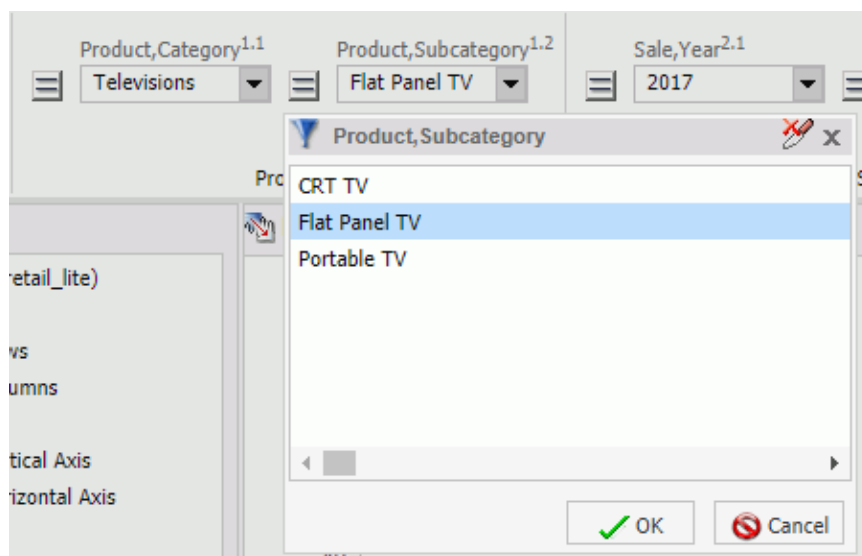


[OK] をクリックすると、ドロップダウンリストに新しいコントロール値が表示されます。



小数点の左側の「1」は、ユーザが操作した連鎖の中で、これが最初の連鎖であることを示しています。小数点の右側の「1」は、その連鎖内のコントロールの中で、これが最初のコントロールであることを示しています。

下図の例では、[製品] グループの 2 つ目のコントロールとして [Flat Panel TV] が選択されています。フィルタが設定された結果、このメニューには [Televisions] のサブカテゴリのみが表示されています。



[製品,区分 (詳細)] ドロップダウンリストに [Flat Panel TV] が表示されます。

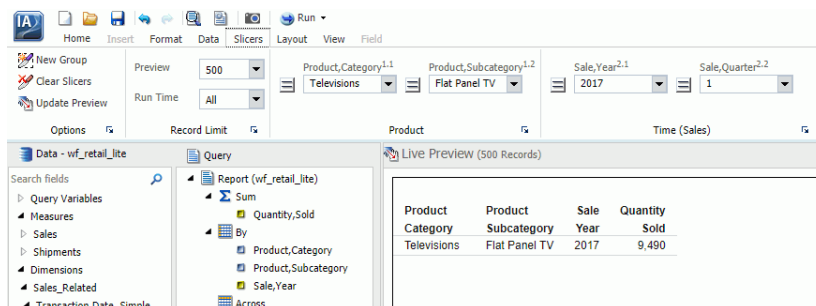
「1.2」という数字は、これが最初の連鎖の 2 つ目のコントロールであることを示しています。

スライサの編集ダイアログボックス

一方、2 つ目のグループとして [時期 (売上)] が作成されています。このグループには 2 つのコントロールがあり、1 つ目が [売上,年]、2 つ目が [売上,四半期] です。

3. 作成したスライサグループのコントロールを使用して、レポートにフィルタを設定します。

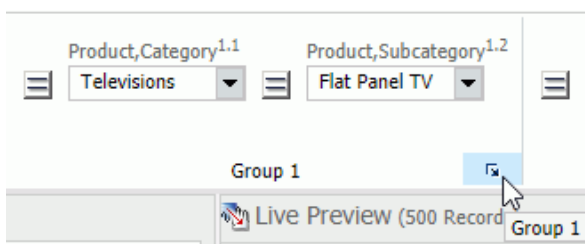
下図の例では、レポートにフィルタが設定された結果、2017 年の第 1 四半期に販売された Flat Panel TV の数量のみが表示されています。



注意:連鎖の順序は、動的に機能します。たとえば、最初に [製品] サブカテゴリから [Video Editing] を選択した場合、[製品] カテゴリのコントロール値は [Video Production] になります。

スライサの編集ダイアログボックス

下図のように、[スライサ] タブでグループラベル横の [編集] ボタンをクリックすることで、[スライサの編集] ダイアログボックスを表示することができます。



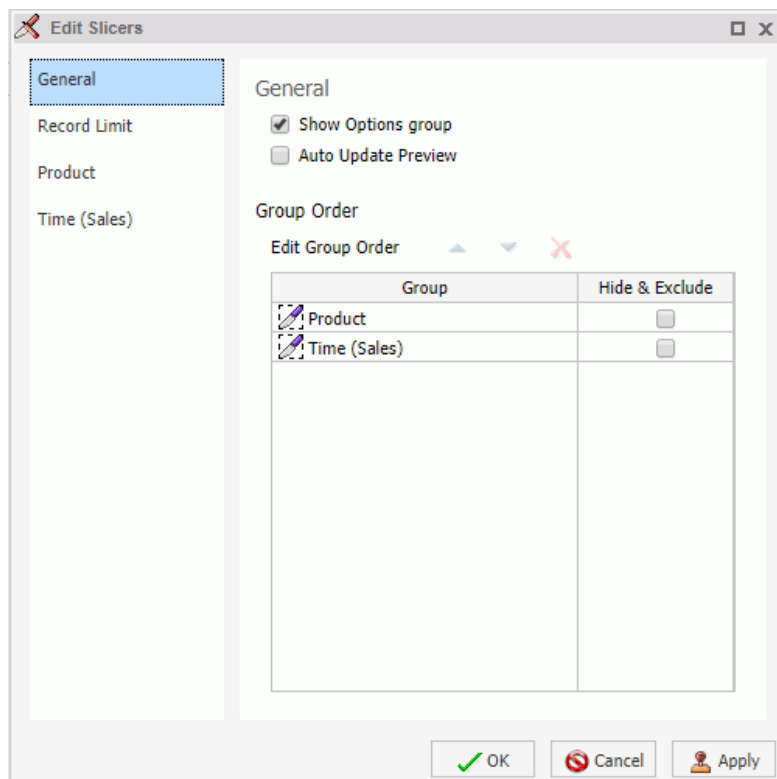
[スライサの編集] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- ☐ 全般
- ☐ 最大レコード数
- ☐ グループ # (各スライサグループのタブ)

全般タブ

[全般] タブでは、[オプション] グループの表示と非表示を切り替えたり、プレビューの自動更新を有効にしたりできます。また、このタブで既存グループの順序変更や削除も行えます。

下図は、[全般] タブを示しています。



[全般] タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **[オプション] グループの表示** このオプションを選択して、[スライサ] タブに [オプション] グループを表示します。

[オプション] グループには、次のオプションがあります。

- ❑ **新規グループ** [スライサ] タブに新しいスライサグループを追加します。
- ❑ **スライサのクリア** 既存のスライサから、選択済みの値をすべてクリアします。
- ❑ **プレビューの更新** レポート作成時のキャンバスを更新し、それまでに加えた変更をすべて適用します。

- ❑ **プレビューの自動更新** キャンバスの自動更新を有効にします。
- ❑ **グループ順の編集** グループを選択し、上下の矢印を使用してグループの位置を変更します。グループを選択し、x アイコンを使用してグループを削除します。
- ❑ **非表示にして解除** グループを選択し、このオプションのチェックをオンにすると、そのグループが非表示になり、スライサから除外されます。

注意：グループを完全に削除するには、グループを選択し、[削除] をクリックします。

最大レコード数タブ

[最大レコード数] タブでは、[最大レコード数] グループ、[プレビュー] コントロール、[実行時] コントロールの表示と非表示を切り替えます。このタブでは、プレビュー時および実行時に表示するレコード数を選択することもできます。

[最大レコード数] タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **[最大レコード数] グループの表示** このオプションを選択して、[スライサ] タブに [最大レコード数] グループを表示します。

[最大レコード数] グループには、次のメニューがあります。

- ❑ **プレビュー** このメニューを使用して、レポート作成時に表示するレコード数を制御します。
- ❑ **実行時** このメニューを使用して、レポート実行時に表示するレコード数を制御します。
- ❑ **プレビューコントロールの表示** このオプションを選択して、[スライサ] タブの [最大レコード数] グループに [プレビュー] メニューを表示します。[プレビュー] セクションの件数メニューで、レポート作成時に表示するデフォルトのレコード件数を設定することができます。
- ❑ **実行時コントロールの表示** このオプションを選択して、[スライサ] タブの [最大レコード数] グループに [実行時] メニューを表示します。[実行時] セクションの件数メニューで、レポート実行時に表示するデフォルトのレコード件数を設定することができます。

グループタブ

[グループ] タブでは、グループ名の変更、グループ内のスライサの順序変更、各スライサの必須オプションの設定を行います。スライサを選択し、[削除] ボタンをクリックすると、選択したスライサが削除されます。

[グループ] タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **グループ名** このテキストボックスで、スライサグループの名前の入力と編集を行います。
- ❑ **スライサ順の編集** スライサを選択し、上下の矢印を使用してスライサの位置を変更します。
- ❑ **必須** このオプションを選択して、必須のスライサとして設定します。必須として設定されたスライサの値を選択しない場合、レポートを実行することはできません。必須のスライサは、アスタリスク (*) で示されます。

InfoMini アプリケーションの作成

InfoMini アプリケーションは、InfoAssist+ レポートから作成します。このアプリケーションには、実行時に使用可能な InfoAssist+ 機能の一部が組み込まれます。

InfoMini アプリケーションを作成すると、このアプリケーションを実行するユーザに、レポートの操作と編集に関するオプションを提供することができます。

トピックス

- ❑ [InfoMini アプリケーションの概要](#)
- ❑ [InfoMini アプリケーションの作成](#)

InfoMini アプリケーションの概要

InfoAssist+ でレポートを作成する際は、InfoMini をアクティブにするオプションが提供されます。InfoMini をアクティブにしてレポートを実行すると、InfoMini アプリケーションが作成されます。InfoMini アプリケーションには、完全バージョンのレポートまたはグラフインターフェースで使用可能な機能の一部が組み込まれます。InfoAssist+ でレポートまたはグラフを作成する際に、InfoMini アプリケーション実行時にユーザに提供する機能を制限したり拡張したりできます。

InfoMini アプリケーションを InfoAssist+ から実行した場合、InfoMini アプリケーションは独自のブラウザウィンドウで開きます。

InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist+ レポートで有効なコンポーネントの多くを使用することができますが、次の例外があります。

- ❑ メインメニューにアクセスすることはできません。
- ❑ クイックアクセスツールバーの [新規作成]、[開く]、[コードの表示] ボタンは使用不可になります。
- ❑ タブやグループには、無効になるものや、機能が制限されるものがあります。
- ❑ ステータスバーにアクセスすることはできません。
- ❑ ナビゲーションタスクバーにアクセスすることはできません。
- ❑ InfoMini で既存のプロシジャを参照することはできません。

InfoMini ボタンの使用

[InfoMini] ボタンは、[フォーマット] タブの [対象] グループにあります。[InfoMini] ボタンをクリックして、InfoMini を有効にすることができます。[InfoMini] ボタンがアクティブな場合は、レポートを実行して InfoMini アプリケーションを開くことができます。

InfoMini を無効にするには、[InfoMini] ボタンを再度クリックします。InfoMini を有効にするには、[InfoMini] ボタンのメニューから、少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。

[InfoMini] ボタンのメニューからオプションを選択することで、実行時にユーザに提供するオプションを設定することができます。[InfoMini] ボタンが無効な場合に、このメニューからオプションのいずれかを選択すると、InfoMini が有効になります。次のオプションがあります。

☐ [フォーマット] タブ

☐ [スライサ] タブ

☐ 即時実行

メニューからオプションを選択すると、そのオプションの横にチェックマークが表示されます。このチェックマークは、実行時にユーザが InfoMini アプリケーション内で、そのオプションの使用が可能になることを示しています。チェックマークの付いたオプションを選択すると、選択が解除されてチェックマークが非表示になり、このオプションは、InfoMini アプリケーションで使用不可になります。メニューからすべてのオプションの選択を解除すると、InfoMini は無効になります。すべてのオプションは、デフォルト設定で選択されています。

[即時実行] オプションを選択すると、InfoMini アプリケーションの起動と同時にレポートが即時実行されます。ユーザがレポートを実行する前にフォーマットを選択したり、スライサを指定したりできるようにするには、このオプションの選択を解除します。

InfoMini レイアウトの理解

InfoMini レイアウトは、InfoAssist+ レイアウトに類似しています。InfoMini アプリケーションで使用可能なオプションは、InfoAssist+ で [InfoMini] メニューから選択したオプションに応じて異なります。InfoMini リボンには、InfoAssist+ リボンの一部が表示されます。

リボン

ここでは、InfoMini リボンに表示されるタブの種類について説明します。

InfoAssist+ で有効にしたオプションに応じて、InfoMini アプリケーションで使用可能なタブオプションが異なります。

フォーマットタブ

レポートの場合、[フォーマット] タブに表示されるグループには、[出力] および [オートリンク] があります。グラフの場合、追加のグループとして [グラフ]、[ラベル]、[インタラクティブ] も表示されます。

InfoMini アプリケーションでは、[フォーマット] タブに次の例外があります。

- ❑ InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist+ の [フォーマット] タブで使用可能な [対象] および [機能] グループは使用できません。[ナビ] グループは、グラフの場合にのみ表示されます。
- ❑ InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist+ の [フォーマット] タブの [グラフ] グループで使用可能な [その他] ボタンは使用不可になります。

[出力] グループのコマンドを使用して、サポートされるフォーマットのいずれかで出力することができます。

レポートおよびグラフでは、[オートリンク] グループにアクセスすることもできます。このグループのオプションを使用してオートリンク機能を有効にし、社内で参照可能な一連のレポートやグラフを関連付けたコンテンツを作成することができます。

スライサタブ

編集モードで [スライサ] タブに表示されるグループには、[オプション]、[最大グループ数]、[グループ 1] があります。

InfoMini アプリケーションでは、[スライサ] タブに次の例外があります。

- ❑ InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist+ の [スライサ] タブの [オプション] グループで使用可能な [プレビューの更新] オプションは使用できません。
- ❑ InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist+ の [スライサ] タブの [最大レコード数] グループで使用可能な [プレビュー] リストは使用不可になります。

InfoMini アプリケーションの作成

InfoAssist+ で InfoMini アプリケーションを作成するには、通常の方法でレポートを作成してから、InfoMini を有効にし、実行時にユーザーに提供する機能を追加します。InfoMini アプリケーションで使用可能な機能についての詳細は、109 ページの「[InfoMini アプリケーションの概要](#)」を参照してください。

手順 InfoMini を有効にするには

1. レポートまたはグラフを開き、[フォーマット] タブをクリックします。
2. [対象] グループで、[InfoMini] をクリックします。

注意：InfoMini を有効にするには、[InfoMini] メニューから少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。新しいレポートで InfoMini を有効にする場合、[InfoMini] メニューのデフォルトオプションとして、[フォーマット] タブおよび [スライサ] タブが選択されています。InfoMini のオプションを有効にする方法についての詳細は、112 ページの「[InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには](#)」を参照してください。

[InfoMini] ボタンがハイライト表示され、InfoMini モードがアクティブになります。

InfoMini アプリケーションの実行についての詳細は、112 ページの「[InfoMini アプリケーションをテストするには](#)」を参照してください。

手順 InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには

InfoMini アプリケーションでは、実行時に使用可能にするオプションを選択することができます。新しいレポートで InfoMini を有効にする場合、[InfoMini] メニューのデフォルトオプションとして、[フォーマット] タブおよび [スライサ] タブが選択されています。各オプションの機能についての詳細は、109 ページの「[InfoMini アプリケーションの概要](#)」を参照してください。

1. レポートまたはグラフを開き、[フォーマット] タブをクリックします。
2. [InfoMini] ボタン横の矢印をクリックします。メニューが開き、使用可能なタブおよびオプションのリストが表示されます。

InfoMini を有効にしていない場合でも、メニューを開くことができます。メニューからオプションのいずれかを選択すると、InfoMini が有効になります。

3. このメニューから、InfoMini アプリケーションに表示するオプションを選択します。

手順 InfoMini アプリケーションをテストするには

1. InfoAssist+ レポートを開き、112 ページの「[InfoMini を有効にするには](#)」の説明に従って InfoMini を有効にします。
2. 112 ページの「[InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには](#)」の説明に従って、必要なオプションを有効にします。
3. レポートを実行します。

新しいウィンドウで、InfoMini アプリケーションが開きます。

手順

InfoMini アプリケーションを操作するには

InfoMini アプリケーションは、実行時にインタラクティブモードに切り替えることができます。アプリケーションに加えた変更はキャンバスに動的に反映されないため、更新を確認するには、レポートを実行する必要があります。

1. 112 ページの「[InfoMini アプリケーションをテストするには](#)」の説明に従って、InfoMini を有効にしたレポートを実行します。

新しいウィンドウで、InfoMini アプリケーションが開きます。

2. InfoMini アプリケーションのデフォルト設定では、リボン是非表示になります。リボンを表示するには、次のいずれかを実行します。

☐ インタラクティブモードで、タブのいずれかをクリックします。

☐ [ヘルプ] アイコン横の下向き矢印をクリックします。

これらのタブで使用可能なオプションの機能は、InfoAssist+ で提供される機能と同一です。これらの機能を使用して、実行時にレポートを変更することができます。

3. 必要な変更を加えて [実行] をクリックし、更新されたレポートを確認します。

8

リボンのコマンドリファレンス

状況依存型のリボンは、現在作業中のファイルのタイプに応じて変化します。ここでは、InfoAssist+ の各ツールで使用されるリボンおよびコマンドの詳細について説明します。

トピックス

- レポートのリボンコマンド
- グラフのリボンコマンド
- ドキュメントのリボンコマンド
- ビジュアライゼーションのリボンコマンド

レポートのリボンコマンド

レポートモードでレポートを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してレポートをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
フォーマットグループ	
出力ファイルフォーマット	ドロップダウンメニューを開き、サポートされている出力フォーマットをすべて表示します。
グラフ	グラフモードに切り替えます。レポートで指定されているフィールド群を使用してレポートをグラフに変換します。
レポート	現在の作業モードがレポートモードであることを示します。
ファイル	レポートからデータファイルを作成します。
デザイングループ	

コマンド	説明
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してレポートを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のレポートを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、レポートのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	レポートをドキュメントに変換します。キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます
ライブデータ	選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。
サンプルデータ	サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
件数	[ライブプレビュー] が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。 [件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	フィルタをオフにします。
条件の設定	フィルタをオンにします。

コマンド	説明
レポートグループ	
テーマ	<p>ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。</p> <p>また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。</p>
スタイル	[レポートスタイル] ダイアログボックスを開いて、レポート全体にグローバルスタイルを適用します。
バンド	[色] ダイアログボックスを開いて、レポートの代替色スキームを選択することができます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。このパターンはレポート全体に適用されます。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
総合計	レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。
行合計	レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。

フォーマットタブ

コマンド	説明
対象グループ	

コマンド	説明
InfoMini	InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。 InfoMini の使用についての詳細は、109 ページの「 InfoMini アプリケーションの作成 」を参照してください。
グラフ	グラフモードに切り替えます。レポートで指定されているフィールド群を使用してレポートをグラフに変換します。
レポート	現在の作業モードがレポートモードであることを示します。
ファイル	レポートからデータファイルを作成します。
ナビグループ	
テーブル	標準のブラウザ出力を生成します。これがデフォルト値です。
目次	生成された出力で、一般にレポート出力が表示される左上の位置に目次アイコンを表示します。[目次] アイコンをクリックすると、メニューが表示され、このメニューから最初のソート (BY) フィールドの個別値を、一度に 1 つずつ選択して表示することができます。 レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。
固定	生成された出力で、レポートのページのスクロール時にタイトルを固定して表示します (タイトルを常時表示)。
Web ビューア	選択した出力タイプに応じて、異なる 2 つの機能が提供されます。
OLAP 分析	オンラインレポートの OLAP 機能を有効にします (例、OLAP パネルの表示、非表示)。分割ボタンのドロップダウンメニューから、さまざまなオプションを選択することができます。
機能グループ	

コマンド	説明
ポップアップ	レポート出力の列タイトル上にマウスポインタを置いたときに、タイトルがポップアップ表示されます。
アコーディオン	縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できるレポートを作成します。このオプションを選択すると、出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。
ソート値繰り返し	デフォルト動作ではソートフィールドの値が変わるたびに最初のソート値のみがレポートに表示され、後続の同一ソート値はブランクになりますが、このオプションを選択すると、ソート値のすべてが繰り返し表示されます。
積み重ねメジャー	レポート出力列の数値メジャーフィールド名すべてに、対応する数値データの値を表示します。
Active Report オプション	[Active Report で、メニュー項目、グラフエンジン、色など、Active Report のオプションを構成することができます。
アクセシビリティ	レポート、グラフ、ドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。
実行オプショングループ	
オートドリル	データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動を可能にします。この機能を有効にするには、[オートドリル] をクリックします。
オートリンクグループ	
オートリンク有効	オートリンクを有効にします。
オートリンクターゲット	プロシジャをオートリンク先のターゲットとして設定します。

データタブ

コマンド	説明
演算グループ	
一時項目 (DEFINE)	[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。
一時項目 (COMPUTE)	[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。
JOIN グループ	
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
表示グループ	
ミッシングデータ	レポートの場合、このオプションは無効です。
データソースグループ	

コマンド	説明
追加	[開く] ダイアログボックスを表示し、ドキュメントに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一ドキュメントに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。このオプションは、HOLD ファイルを追加した際に有効になります。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。
切り替え	ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。アクティブにするデータソース、つまり新しいレポートの作成に使用するデータソースを選択することができます。このオプションは、HOLD ファイルを追加した際に有効になります。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。

スライサタブ

コマンド	説明
オプショングループ	
新規グループ	類似したスライサのグループを新規に作成します。
スライサのクリア	すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。
プレビューの更新	スライサをプレビューに適用します。
オプション	[スライサの編集] ダイアログボックスの [全般] タブを開き、スライサに適用する全般オプションを設定することができます。
最大レコード数グループ	
プレビュー	プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。
実行時	実行時に取得するレコード数を設定します。

コマンド	説明
最大レコード数	[スライサの編集] ダイアログボックスの [最大レコード数] タブを開き、スライサに適用する最大レコード数を設定することができます。
グループ番号グループ	
グループ n	追加したスライサグループごとに番号付きグループが表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。スライサグループオプションにアクセスするには、[グループ n] をクリックして [スライサの編集] ダイアログボックスを開きます。ここで、スライサグループの名前変更や、グループ内のスライサの順序変更を行えます。

レイアウトタブ

コマンド	説明
ページ設定グループ	
マージン	[標準 (各辺 1.0 インチ)]、[狭く (各辺 0.50 インチ)]、[中間 (左/右 0.50 インチ)]、[広く (左/右 1.50 インチ)]、[カスタム] から、マージン値を選択することができます。必要に応じて、[カスタム] を選択して [マージン] ダイアログボックスを開き、特定のマージンを指定することができます。
方向	レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。
サイズ	印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。

コマンド	説明
単位	レポートの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント] から選択できます。
ページ番号	<p>ページ番号オプションを選択することができます。次のいずれかを選択します。</p> <p><input type="checkbox"/> NOLEAD (見出しスペースなし)</p> <p><input type="checkbox"/> オン (ページ番号のみ)</p> <p><input type="checkbox"/> オフ (見出しスペースあり、ページ番号スペースなし)</p> <p>ページ番号の値は、見出しと脚注のテキストオプションによって上書きされます。</p>
レポートグループ	
セルパディング	[セルパディング] ダイアログボックスを開いて、レポートの行列間の間隔を指定することができます。
自動調整	レポートの列幅が、各フィールドの最大幅以内に収まるように調整されます。[自動調整] は、デフォルト設定で選択されています。

表示タブ

コマンド	説明
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してレポートを作成する際の領域が拡張されます。

コマンド		説明
ライブビュー (デザインビュー)		キャンバス上に作成中のレポートを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、レポートのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)		レポートをドキュメントに変換します。キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます
表示グループ		
リソース		リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。キャンバスには、プレビュー、出力、または[クエリ] ウィンドウを表示することができます。
データグループ		
論理		一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
リスト		一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
構造		データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
クエリグループ		
縦横表示		データを 2 列と 2 行のグリッドで表示します。
縦表示		データを 1 列と 4 行のグリッドで表示します。

コマンド	説明
ツリー表示	データをツリー形式で表示します。これがデフォルト値です。
ウィンドウグループ	
整列	ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法を選択することができます。[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示] から選択することができます。
出力方法	ドロップダウンメニューを開いて、新しい出力の表示先を選択することができます。[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。
出力切替	ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアルのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

コマンド	説明
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	レポートからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。

コマンド	説明
条件の設定	レポートから除外されたフィルタを元に戻します。
プロンプト	<p>[フィルタの作成] ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、レポートを実行する際に選択することができます。[フィルタの作成] ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[タイプ] ドロップダウンリストから [パラメータ] を選択した場合のプロンプトオプションには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 実行時に入力 テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。 <input type="checkbox"/> 静的 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 <input type="checkbox"/> 動的 データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 <input type="checkbox"/> オプション 単一選択または複数選択パラメータのプロンプトに使用します。
ソートグループ	
昇順	選択したフィールドを昇順にソートします。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。
降順	選択したフィールドを降順にソートします。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。

コマンド	説明
ランキング	BY フィールドを選択した場合に、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドを挿入します。メジャーフィールドを選択した場合も、BY フィールドのすぐ左に順位付けフィールドが追加されます。メジャーフィールドで順位付けを行った場合、フィールドのコピーが 2 つ作成されます。1 つは元のメジャーフィールドで、もう 1 つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
制限	ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。
区切りグループ	
改ページ	主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページを開始します。アイコン右の下向き矢印をクリックしてドロップダウンメニューから [ページ番号のリセット] を選択すると、改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
改行	主ソートフィールドが変更されたところで、改行します。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
中間合計	主ソートフィールドの値が変わるたびにすべての数値フィールドに 1 行追加し、合計テキスト (TOTAL FIELD 値) と中間合計を挿入します。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。

コマンド	説明
中間見出し	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の列タイトルの直下に追加する中間見出しを入力することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
中間脚注	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の各ページのデータ末尾に追加する中間脚注を入力することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
スタイルグループ	
フォント	フォントリストを開き、フォントを変更することができます。
フォントサイズ	フォントサイズリストを開き、フォントサイズの数値を変更することができます。
文字色	[色] ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。
デフォルトのスタイルに戻す	すべての設定をテンプレートのデフォルト設定に戻します。
太字	選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
斜体	選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
下線	選択したテキストを下線付きにします。
左揃え	テキストを左端に揃えます。
中央揃え	テキストを中央に揃えます。
右揃え	テキストを右端に揃えます。
背景色	[色] ダイアログボックスを開き、フォントの背景色を選択することができます。

コマンド	説明
データスタイル	選択したフィールドのデータだけにスタイルを設定します。
タイトルスタイル	選択したフィールドのタイトルだけにスタイルを設定します。
データ + タイトル	選択したフィールドのデータとタイトルの両方にスタイルを設定します。
フォーマットグループ	
10 進コード	選択したメジャーフィールドに対して定義されているフィールドフォーマットが表示されます。フィールドフォーマットを変更するには、ドロップダウンメニューから[文字]、[整数]、[倍精度浮動小数点]のいずれかを選択するか、[詳細オプション]を選択して[フィールドフォーマットオプション]ダイアログボックスを開きます。
通貨オプションの変更	選択したフィールドの通貨オプションを変更します。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
パーセント	フィールドの値をパーセント表示にします。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
カンマ	選択したフィールドにカンマ (,) を使用します。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
小数部を長く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を増やします。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
小数部を短く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を減らします。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
表示グループ	
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にすることができます。

コマンド	説明
ミッシングの非表示	値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。
集計	レポートのフィールドに集計関数を適用することができます。ドロップダウンメニューを開き、集計オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[なし] (デフォルト)、[集計]、[平均]、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント]、[固有値]、[最初の値]、[最後の値]、[最大]、[最小]、[合計]、[パーセント]、[行に対するパーセント]、[中央値]、[平方和の平均] があります。
条件スタイル	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、新しい条件付きスタイルを追加し、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用することができます。また、既存の条件付きスタイルを編集したり、条件付きドリルダウンを有効にしたりすることもできます。
ピアグラフ	選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列を追加します。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。
WITHIN	レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートフィールドではなく、ソートグループで表示フィールドの値を合計する際に、その値を操作することができます。
列	レポートの場合、このオプションは無効です。
リンクグループ	
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。

グラフのリボンコマンド

グラフモードでグラフを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してグラフをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
フォーマットグループ	
出力ファイルフォーマット	ドロップダウンメニューを開き、サポートされている出力フォーマットをすべて表示します。
グラフ	現在の作業モードがグラフモードであることを示します。
レポート	レポートモードに切り替えます。グラフで指定されているフィールド群を使用してグラフをレポートに変換します。
ファイル	グラフからイメージファイルを作成します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。HTMLフォーマットの場合にのみ有効になります。
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してグラフを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のグラフを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、グラフのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます。

コマンド	説明
ライブデータ	選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。
サンプルデータ	サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
件数	[ライブプレビュー] が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。 [件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	フィルタをオフにします。
条件の設定	フィルタをオンにします。
レポートグループ	
テーマ	ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。 また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。

コマンド	説明
スタイル	グラフの場合、このオプションは無効です。
バンド	グラフの場合、このオプションは無効です。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
総合計	グラフの場合、このオプションは無効です。
行合計	グラフの場合、このオプションは無効です。

フォーマットタブ

コマンド	説明
対象グループ	
InfoMini	InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。 InfoMini の使用についての詳細は、109 ページの「 InfoMini アプリケーションの作成 」を参照してください。
グラフ	現在の作業モードがグラフモードであることを示します。
レポート	レポートモードに切り替えます。グラフで指定されているフィールド群を使用してグラフをレポートに変換します。
ファイル	グラフからイメージファイルを作成します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。HTML フォーマットの場合にのみ有効になります。
グラフグループ	
棒	グラフタイプを棒グラフに変更します。
円	グラフタイプを円グラフに変更します。

コマンド	説明
折れ線	グラフタイプを折れ線グラフに変更します。
面	グラフタイプを面グラフに変更します。
散布図	グラフタイプを散布図に変更します。
コロプレス	グラフタイプをコロプレスマップに変更します。
プロポーショナルシンボル	グラフタイプをプロポーショナルシンボル (バブル) マップに変更します。
その他	[グラフの選択] ダイアログボックスを開きます。ダイアログボックスの左側では、グラフタイプがカテゴリ別に分類されています。デフォルト設定では、最上部の棒グラフカテゴリが選択されています。グラフタイプのカテゴリを選択すると、そのカテゴリでサポートされるグラフタイプのバリエーションが、サムネールイメージで表示されます。
マップグループ	
背景	さまざまな背景地図オプションが提供されます。このオプションは、グラフタイプとしてマップを選択した場合にのみ表示されます。
人口統計レイヤ	1 つまたは複数の定義済み人口統計レイヤを適用することができます。これにより、これらの人口統計区分レイヤに基づいてデータ範囲の絞り込みが可能になります。このオプションは、グラフタイプとしてマップを選択した場合にのみ表示されます。
参照レイヤ	1 つまたは複数の参照レイヤを定義することができます。参照レイヤを使用すると、選択した地理区分に基づいて境界が明確になります。このオプションは、グラフタイプとしてマップを選択した場合にのみ表示されます。
機能グループ	

コマンド	説明
3D 表示	3D 表示のオンまたはオフを設定します。[3D 表示] 機能は、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。これがデフォルト値です。このオプションは、マップでは使用できません。
回転	グラフ表示の縦向きと横向きを切り替えます。詳細は、 <i>Rotate a Chart</i> を参照してください。[回転] 機能は、円グラフ、散布図、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。このオプションは、マップでは使用できません。
参照	ドロップダウンメニューを開いて、[Y 軸に参照線を追加] および [X 軸に参照線を追加] オプションを表示します。これらのオプションの 1 つを選択すると、対応する [参照線] ダイアログボックスが開いて、テキストの入力、X 軸または Y 軸値の設定、グラフ参照線の配置の設定を行うことができます。[参照] 機能は、円グラフ、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。このオプションは、マップでは使用できません。
注釈 (コマンド)	ドロップダウンメニューを開いて、[注釈の追加] オプションを表示します。このオプションを選択すると、[注釈] ダイアログボックスが開いて、テキストの入力とグラフ注釈行の配置の設定を行うことができます。 注釈のオプションは、HTML5 では使用できません。このオプションは、マップでは使用できません。
罫線	ドロップダウンメニューを開いて、[横罫線] と [縦罫線] のオプションを選択することができます。どちらのオプションを選択した場合でも、主罫線と補助罫線を有効または無効にできます。[罫線詳細オプション] を選択すると、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。このオプションは、マップでは使用できません。

コマンド	説明
フレームと背景	[フレームと背景] ダイアログボックスを開いて、グラフの背景スタイルとフレームを編集することができます。選択したグラフタイプに応じて、このダイアログボックスには、異なるオプションが表示されます。
メータ	[メータ] ダイアログボックスを開いて、メータグラフを編集することができます。このボタンは、メータグラフを選択した場合にのみ使用可能になります。このオプションは、マップでは使用できません。
Active Report オプション	[Active Report て、メニュー項目、グラフエンジン、色など、Active Report のオプションを構成することができます。このボタンは、出力タイプが Active Report に設定されている場合に使用可能です。このオプションは、マップでは使用できません。
アクセシビリティ	<p>レポート、グラフ、またはドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。このオプションは、出力タイプが HTML、HTML5 または PDF のレポートまたはグラフでのみ使用可能です。これには、JS グラフも含まれます。つまり、定義済みデータセットと JSON (JavaScript Option Notation) 定義を使用して HTML 環境で描画されるグラフも対象になります。</p> <p>ドキュメントの場合は、出力タイプを PDF に設定する必要があります。</p> <p>Active Report フォーマットでグラフを作成する場合、このグラフ機能は無効になります。</p>
ラベルグループ	

コマンド	説明
軸	ドロップダウンメニューを開き、横軸および縦軸の [ラベルの表示]、[ラベルの回転]、および [ラベルを交互に表示] (横軸のみ) を選択することができます。また、[横軸詳細オプション] または [縦軸詳細オプション] を選択して、軸ラベルを編集することもできます。このオプションは、マップでは使用できません。
凡例	ドロップダウンメニューを開き、[凡例の表示] オプションを選択してグラフに凡例を表示したり、選択を解除して凡例を非表示にしたりできます。また、凡例のデフォルト位置やデフォルト方向を変更することも可能です。
インタラクティブグループ	
インタラクティブオプション	[インタラクティブオプション] ダイアログボックスを開き、グラフでのアニメーションの表示、およびマウスオーバー効果を指定することができます。このオプションは、HTML5、Active Report 出力フォーマットでのみ使用できます。このオプションは、マップでは使用できません。
実行オプショングループ	
オートドリル	<p>データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動を可能にします。この機能を有効にするには、[オートドリル] をクリックします。</p> <p>注意：[オートドリル] 機能を使用するには、リクエストで少なくとも 1 つのディメンションフィールドを指定する必要があります。</p>
オートリンクグループ	
オートリンク有効	オートリンクを有効にします。
オートリンクターゲット	プロシジャをオートリンク先のターゲットとして設定します。

データタブ

コマンド	説明
演算グループ	
一時項目 (DEFINE)	[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。
一時項目 (COMPUTE)	[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。
JOIN グループ	
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。
フィルタグループ	
フィルタ	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開き、フィルタオプションを設定することができます。フィルタオプションには、単一式の WHERE、WEHRE TOTAL、AND 論理積、OR 論理積があります。
表示グループ	
ミッシングデータ	グラフでのミッシング値の表示方法を指定するオプションを選択します。
データソースグループ	

コマンド	説明
追加	[開く] ダイアログボックスを表示し、ドキュメントに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一ドキュメントに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。このオプションは、グラフが HOLD ファイルから作成された場合にのみ有効になります。
切り替え	ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。アクティブにするデータソース、つまり新しいレポートの作成に使用するデータソースを選択することができます。このオプションは、グラフが HOLD ファイルから作成された場合にのみ有効になります。

スライサタブ

コマンド	説明
オプショングループ	
新規グループ	類似したスライサのグループを新規に作成します。
スライサのクリア	すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。
プレビューの更新	スライサをプレビューに適用します。
オプション	[スライサの編集] ダイアログボックスの [全般] タブを開き、スライサに適用する全般オプションを設定することができます。
最大レコード数グループ	
プレビュー	プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。
実行時	実行時に取得するレコード数を設定します。

コマンド	説明
最大レコード数	[スライサの編集] ダイアログボックスの [最大レコード数] タブを開き、スライサに適用する最大レコード数を設定することができます。
グループ番号グループ	
グループ n	追加したスライサグループごとに番号付きグループが表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。スライサグループオプションにアクセスするには、[グループ n] をクリックして [スライサの編集] ダイアログボックスを開きます。ここで、スライサグループの名前変更や、グループ内のスライサの順序変更を行えます。

レイアウトタブ

コマンド	説明
ページ設定グループ	
マージン	[標準 (各辺 1.0 インチ)]、[狭く (各辺 0.50 インチ)]、[中間 (左/右 0.50 インチ)]、[広く (左/右 1.50 インチ)]、[カスタム] から、マージン値を選択することができます。必要に応じて、[カスタム] を選択して [マージン] ダイアログボックスを開き、特定のマージンを指定することができます。
方向	レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。
サイズ	印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。

コマンド	説明
単位	レポートやグラフの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント]から選択できます。
ページ番号	グラフの場合、このオプションは無効です。
サイズと整列グループ	
高さ	グラフの高さを設定します。
幅	グラフの幅を設定します。
オーバフロー	グラフの場合、このオプションは無効です。
縦横比	高さとの比率を固定します。縦横比を固定した場合、幅を変更すると高さが自動的に変更され、コンポーネントの縦横比が保持されます。高さを変更すると、幅が自動的に変更されます。
自動調整	別のフィールドを追加すると、デザイン時にグラフが自動的に拡張されます。実行時は、グラフが配置されているコンテナ内に収まるようグラフサイズが自動的に変更されます。[自動調整]は、デフォルト設定で有効になっています。
整列	このオプションは、ドキュメントモードでのみ使用できます。
相対位置	このオプションは、ドキュメントモードでのみ使用できます。

表示タブ

コマンド	説明
デザイングループ	

コマンド	説明
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してグラフを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のグラフを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、グラフのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	グラフをドキュメントに変換します。キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます
表示グループ	
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。キャンバスには、プレビュー、出力、または [クエリ] ウィンドウを表示することができます。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。

コマンド	説明
クエリグループ	
縦横表示	データを 2 列と 2 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ構文を使用するグラフでは、このオプションは無効です。
縦表示	データを 1 列と 4 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ構文を使用するグラフでは、このオプションは無効です。
ツリー表示	データをツリー形式で表示します。これがデフォルト値です。
ウィンドウグループ	
整列	ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法を選択することができます。[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示] から選択することができます。
出力方法	ドロップダウンメニューを開いて、新しい出力の表示先を選択することができます。[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。
出力切替	ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメントのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

注意：グラフモードでは、[フォーマット] グループは無効です。

コマンド	説明
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	グラフからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。
条件の設定	グラフから除外されたフィルタを元に戻します。
プロンプト	<p>[フィルタの作成] ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、グラフを実行する際に選択することができます。[フィルタの作成] ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[タイプ] ドロップダウンリストから [パラメータ] を選択した場合のプロンプトオプションには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 実行時に入力 テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。 <input type="checkbox"/> 静的 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 <input type="checkbox"/> 動的 データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 <input type="checkbox"/> オプション 単一選択または複数選択パラメータのプロンプトに使用します。
ソートグループ	

コマンド	説明
昇順	選択したフィールドを昇順にソートします。
降順	選択したフィールドを降順にソートします。
ランキング	グラフの場合、このオプションは無効です。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。このオプションは、ディメンションフィールドのみで使用できます。
制限	ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。

フォーマットグループ

注意：グラフの場合、これらのオプションは使用不可です。

表示グループ

フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にすることができます。
ミッシングの非表示	値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。グラフの場合、このオプションは無効です。
集計	ドロップダウンメニューを開き、集計オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[なし] (デフォルト)、[集計]、[平均]、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント]、[最初の値]、[最後の値]、[最大]、[最小]、[合計]、[パーセント]、[行に対するパーセント]、[中央値]、[平方和の平均] があります。このオプションは、メジャーフィールド、および数値フィールドコンテナに配置されたディメンション (文字フィールドのみ) でのみ使用できます。それ以外の場合、集計関数のメニューは表示されません。

コマンド	説明
条件スタイル	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、新しい条件付きスタイルを追加し、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用することができます。また、既存の条件付きスタイルを編集したり、条件付きドリルダウンを有効にしたりすることもできます。このオプションは、メジャーフィールドでのみ使用できます。
ピアグラフ	グラフの場合、このオプションは無効です。
WITHIN	レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートの列全体で集計するのではなく、ソートグループ単位で集計したように、表示フィールドの値を操作することができます。グラフの場合、このオプションは無効です。
列	複数のグラフを表示する列数を指定することができます。1 から 512 までの値を指定します。デフォルト値は 1 です。このオプションは、[クエリ] ウィンドウで [複数グラフ] コンポーネントを右クリックして選択することもできます。このオプションは、[複数グラフ] フィールドコンテナにフィールドを追加した場合にのみ有効になります。
リンクグループ	
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。このオプションは、メジャーフィールドでのみ使用できます。PDF フォーマットの場合、このオプションは無効です。

シリーズタブ

コマンド	説明
選択グループ	
シリーズドロップダウンリスト	現在のグラフで使用されているシリーズのリストを表示します。
スタイルグループ	
スタイル	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択する方法でも開くことができます。
プロパティグループ	
データラベル	<p>グラフにデータラベルを追加します。ドロップダウンメニューを開き、グラフ上でデータ値をラベルとして表示する位置を指定するオプションを選択します。これらのデータ位置オプションには、[上] (デフォルト)、[上端]、[上端の下]、[中央揃え]、[下] があります。円グラフの場合のオプションは、[円項目上]、[円項目の外側]、[外側]、[フィーラ線付き] です。</p> <p>[データラベル詳細オプション] を選択すると、[ラベルフォーマット] ダイアログボックスが開いて、データラベルをさらに編集することができます。</p>
グラフ	<p>ドロップダウンメニューを開き、別のグラフタイプを選択するオプションを表示し、[なし] (デフォルト)、[棒グラフ]、[折れ線グラフ]、[面グラフ] のいずれかを選択することができます。</p> <p>注意：[シリーズ] タブの [グラフ] ボタンを使用してグラフタイプを変更すると、[フォーマット] タブで選択したグラフタイプが上書きされます。</p>

コマンド	説明
傾向線	ドロップダウンメニューを開き、グラフに傾向線を追加するオプションを選択することができます。
数式	選択した傾向線に関連付けられた数式をグラフに表示します。 数式は、HTML5 では使用できません。
折れ線グループ	
スムーズ	スムージング線を使用してグラフを描画します。
接続線	折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。
マーカー	ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。詳細は、 <i>Change the Appearance of a Marker</i> を参照してください。
円グループ	
注意： 次のオプションは、円グラフを作成、編集する場合にのみ使用できます。	
展開	円項目を切り離します。
非表示	円項目を非表示にします。

ドキュメントのリボンコマンド

ドキュメントモードでドキュメントを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してドキュメントをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
フォーマットグループ	

コマンド	説明
出力ファイルフォーマット	ドロップダウンメニューを開き、サポートされている出力フォーマットをすべて表示します。
グラフ	InfoAssist+ で使用する機能を、グラフに特化した機能にします。InfoAssist+ セッションで作成した新しいグラフごとに、「グラフ n (データソース)」というデフォルト名が付けられます。ここで、(データソース) は、レポート作成時に選択したデータソースの名前を表します。グラフの名前を変更するには、[クエリ] ウィンドウで [グラフ n] を右クリックし、[名前の変更] を選択します。
レポート	InfoAssist+ で使用する機能を、レポートに特化した機能にします。InfoAssist+ セッションで作成した新しいレポートごとに、「レポート n (データソース)」というデフォルト名が付けられます。ここで、(データソース) は、レポート作成時に選択したデータソースの名前を表します。レポートの名前を変更するには、[クエリ] ウィンドウで [レポート n] を右クリックし、[名前の変更] を選択します。
ファイル	ドキュメント上のレポートコンポーネントからデータファイルを作成します。
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
ライブビュー (デザインビュー)	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
ドキュメント (デザインビュー)	ドキュメントモードで作業を開始すると、[デザイン] グループでこのオプションがデフォルト設定で選択されています。キャンバス上にドキュメントが表示され、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加することができます。
ライブデータ	選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。

コマンド	説明
サンプルデータ	サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
件数	[ライブプレビュー] が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。 [件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	フィルタをオフにします。
条件の設定	フィルタをオンにします。
クリップボードグループ	
貼り付け	クリップボードにコピーまたは配置したテキスト、レポート、グラフオブジェクトをビジュアライゼーションに貼り付けます。
切り取り	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトを切り取り、クリップボードに配置します。
コピー	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトをコピーし、クリップボードに配置します。
複製の作成	ドキュメント上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトの複製を作成し、ドキュメントに配置します。
レポートグループ	

コマンド	説明
テーマ	<p>ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。</p> <p>また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。</p>
スタイル	[レポートスタイル] ダイアログボックスを開いて、レポート全体にグローバルスタイルを適用します。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。
バンド	[色] ダイアログボックスを開いて、レポートの代替色スキームを選択することができます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。このパターンはレポート全体に適用されます。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
総合計	レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。
行合計	レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。

挿入タブ

コマンド	説明
ページグループ	
ページ	ドキュメントに新しいページを追加します。
レポートグループ	
レポート	キャンバスにレポートのプレースホルダを挿入します。
グラフ	キャンバスにグラフのプレースホルダを挿入します。
取り込み	[開く] ダイアログボックスを開き、既存のレポートまたはグラフを選択してキャンバスの左上に挿入することができます。
オブジェクトグループ	
テキスト	キャンバスの左上にインラインテキストオブジェクトを挿入します。
イメージ	[開く] ダイアログボックスを開き、イメージを選択してキャンバスの左上に挿入することができます。
入力フォームグループ	
ドロップダウン	キャンバスの左上にドロップダウンリストコントロールのプレースホルダを挿入します。
リストボックス	キャンバスの左上にリストボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。
チェックボックス	キャンバスの左上にチェックボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。
ラジオボタン	キャンバスの左上にラジオボタンコントロールのプレースホルダを挿入します。
テキストボックス	キャンバスの左上にテキストボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。

フォーマットタブ

コマンド	説明
対象グループ	
InfoMini	InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。 InfoMini の使用についての詳細は、「InfoMini アプリケーションの作成」を参照してください。
レポート	レポート固有の機能を使用可能にします。ドキュメントモードでレポートコンポーネントを選択すると、[ホーム] タブの [レポート] オプションが有効になり、リボンで使用可能なオプションが変更されます。詳細は、115 ページの「 レポートのリボンコマンド 」を参照してください。
グラフ	グラフ固有の機能を使用可能にします。ドキュメントモードでグラフコンポーネントを選択すると、[ホーム] タブの [グラフ] オプションが有効になり、リボンで使用可能なオプションが変更されます。詳細は、131 ページの「 グラフのリボンコマンド 」を参照してください。
ファイル	ドキュメント上のレポートコンポーネントからデータファイルを作成します。
ナビグループ	
テーブル	標準のブラウザ出力を生成します。これがデフォルト値です。このオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。

コマンド	説明
目次	<p>生成された出力で、一般にレポート出力が表示される左上の位置に目次アイコンを表示します。[目次] アイコンをクリックすると、メニューが表示され、このメニューから最初のソート (BY) フィールドの個別値を、一度に 1 つずつ選択して表示することができます。</p> <p>レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。ドキュメントモードでは、このオプションはグラフには表示されず、レポートではデフォルト設定で無効になっています。</p>
固定	<p>生成された出力で、レポートのページのスクロール時にタイトルを固定して表示します (タイトルを常時表示)。</p> <p>ドキュメントモードでは、このオプションはグラフには表示されず、レポートではデフォルト設定で無効になっています。</p>
Web ビューア	<p>選択した出力タイプに応じて、異なる 2 つの機能が提供されます。このオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。</p>
機能グループ	
ポップアップ	<p>レポート出力の列タイトル上にマウスポインタを置いたときに、タイトルがポップアップ表示されます。ドキュメントモードのレポートでは、このオプションは無効です。</p>
アコーディオン	<p>縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できるレポートを作成します。このオプションを選択すると、出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。</p>
ソート値繰り返し	<p>デフォルト動作ではソートフィールドの値が変わるたびに最初のソート値のみがレポートに表示され、後続の同一ソート値はブランクになりますが、このオプションを選択すると、ソート値のすべてが繰り返し表示されます。</p>

コマンド	説明
積み重ねメジャー	レポート出力列の数値メジャーフィールド名すべてに、対応する数値データの値を表示します。
Active Report オプション	[Active Report オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、Active Report のオプションを構成することができます。
アクセシビリティ	レポート、グラフ、ドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。
実行オプショングループ	
オートドリル	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。

データタブ

コマンド	説明
演算グループ	
一時項目 (DEFINE)	[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。
一時項目 (COMPUTE)	[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。
JOIN グループ	

コマンド	説明
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。
フィルタグループ	
フィルタ	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開き、フィルタオプションを設定することができます。フィルタオプションには、単一式の WHERE、WEHRE TOTAL、AND 論理積、OR 論理積があります。
表示グループ	
ミッシングデータ	グラフでのミッシング値の表示方法を指定するオプションを選択します。
データソースグループ	
追加	[開く] ダイアログボックスを表示し、ドキュメントに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一ドキュメントに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。
切り替え	ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。現在アクティブなデータソース、および新しいレポート作成に使用するデータソースを選択することができます。

スライサタブ

コマンド	説明
オプショングループ	
新規グループ	類似したスライサのグループを新規に作成します。
スライサのクリア	すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。

コマンド	説明
プレビューの更新	スライサをプレビューに適用します。
オプション	[スライサの編集] ダイアログボックスにアクセスすることができます。詳細は、95 ページの「 スライサの使用 」を参照してください。
最大レコード数グループ	
プレビュー	プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。
実行時	実行時に取得するレコード数を設定します。
最大レコード数	[スライサの編集] ダイアログボックスにアクセスし、最大レコード数の設定を変更することができます。詳細は、95 ページの「 スライサの使用 」を参照してください。
グループ番号グループ	
グループ n	追加したスライサグループごとに番号付きグループが表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。

レイアウトタブ

コマンド	説明
ページ設定グループ	
マージン	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
方向	レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。

コマンド	説明
サイズ	印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。
単位	レポートやグラフの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント] から選択できます。
ページ番号	<p>ページ番号オプションを選択することができます。次のいずれかを選択します。</p> <p><input type="checkbox"/> NOLEAD (見出しスペースなし)</p> <p><input type="checkbox"/> オン (ページ番号のみ)</p> <p><input type="checkbox"/> オフ (見出しスペースあり、ページ番号スペースなし)</p> <p>ページ番号の値は、見出しと脚注のテキストオプションによって上書きされます。</p>
サイズと整列グループ	
高さ	選択したドキュメントコンポーネントの高さを設定します。
幅	選択したドキュメントコンポーネントの幅を設定します。
オーバーフロー	レポート領域を自動的に拡張してデータをすべて表示します。
縦横比	高さとの比率を固定します。
自動調整	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
整列	複数のドキュメントコンポーネントを選択した際に、ドロップダウンメニューを開き、使用可能な位置揃えオプションを選択することができます。

コマンド	説明
相対配置	ドキュメント上の 2 つのコンポーネントを選択した際に、最初を選択したコンポーネントの左上の位置と、次に選択したコンポーネントの左下の位置を相対的に固定します。
サイズと整列	[サイズと位置] ダイアログボックスを開き、ドキュメント上で選択したコンポーネントのサイズと位置のオプションを設定することができます。
レポートグループ	
セルパディング	[セルパディング] ダイアログボックスを開いて、レポートの行列間の間隔を指定することができます。
自動調整	レポートコンポーネントを作成、編集する際にこのオプションを選択すると、レポートの列幅が自動的に調整され、データの最大長が収まる幅まで圧縮されます。[自動調整] は、デフォルト設定で選択されています。

表示タブ

コマンド	説明
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	このオプションは、ドキュメントモードでは使用できません。
ライブビュー (デザインビュー)	このオプションは、ドキュメントモードでは使用できません。
ドキュメント	デフォルト設定でドキュメントモードを有効にします。
表示グループ	

コマンド	説明
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。キャンバスには、プレビュー、出力、または [クエリ] ウィンドウを表示することができます。
ルーラ	ドキュメントのキャンバスの上側および左側にルーラを表示します。
グリッド	ドキュメント内のオブジェクトを整列するための視覚的な補助線としてグリッドを表示します。
関係	複数のオブジェクト間の相対的な位置関係を表示します。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
クエリグループ	
縦横表示	データを 2 列と 2 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ属性構文を使用するグラフの場合、このオプションは使用できません。

コマンド	説明
縦表示	データを 1 列と 4 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ属性構文を使用するグラフの場合、このオプションは使用できません。
ツリー表示	データをツリー形式で表示します。これがデフォルト値です。
ウィンドウグループ	
整列	ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法を選択することができます。[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示] から選択することができます。
出力方法	ドロップダウンメニューを開いて、新しい出力の表示先を選択することができます。[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。
出力切替	ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメントのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

コマンド	説明
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。

コマンド	説明
条件の解除	レポートまたはグラフからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。
条件の設定	レポートまたはグラフから除外されたフィルタを元に戻します。
プロンプト	<p>[フィルタの作成] ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、レポートを実行する際に選択することができます。[フィルタの作成] ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[タイプ] ドロップダウンリストから [パラメータ] を選択した場合のプロンプトオプションには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ❑ 実行時に入力 テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。 ❑ 静的 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❑ 動的 データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❑ オプション 単一選択または複数選択パラメータのプロンプトに使用します。
ソートグループ	
昇順	選択したフィールドを昇順にソートします。
降順	選択したフィールドを降順にソートします。

コマンド	説明
ランキング	BY フィールドを選択した場合に、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドを挿入します。メジャーフィールドを選択した場合も、BY フィールドのすぐ左に順位付けフィールドが追加されます。メジャーフィールドで順位付けを行った場合、フィールドのコピーが 2 つ作成されます。1 つは元のメジャーフィールドで、もう 1 つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。
制限	ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。
区切りグループ	
改ページ	主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページを開始します。アイコン右の下向き矢印をクリックしてドロップダウンメニューから [ページ番号のリセット] を選択すると、改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。
改行	主ソートフィールドが変更されたところで、改行します。
中間合計	主ソートフィールドの値が変わるたびにすべての数値フィールドに 1 行追加し、合計テキスト (TOTAL FIELD 値) と中間合計を挿入します。
中間見出し	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の列タイトルの直下に追加する中間見出しを入力することができます。
中間脚注	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の各ページのデータ末尾に追加する中間脚注を入力することができます。

コマンド	説明
スタイルグループ	
注意： このグループのオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。	
フォント	フォントリストを開き、フォントを変更することができます。
フォントサイズ	フォントサイズリストを開き、フォントサイズの数値を変更することができます。
文字色	[色] ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。
デフォルトのスタイルに戻す	すべての設定をテンプレートのデフォルト設定に戻します。
太字	選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
斜体	選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
下線	選択したテキストを下線付きにします。
左揃え	テキストを左端に揃えます。
中央揃え	テキストを中央に揃えます。
右揃え	テキストを右端に揃えます。
背景色	[色] ダイアログボックスを開き、背景色を選択することができます。
データスタイル	選択したフィールドのデータのみスタイルを設定します。
タイトルスタイル	選択したフィールドのタイトルのみスタイルを設定します。
データ + タイトル	選択したフィールドのデータとタイトルの両方にスタイルを設定します。
フォーマットグループ	
注意： このグループのオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。	

コマンド	説明
通貨オプションの変更	選択したフィールドの通貨オプションを変更します。
パーセント	フィールドの値をパーセント表示にします。
カンマ	選択したフィールドにカンマ (,) を使用します。
小数部を長く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を増やします。
小数部を短く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を減らします。
表示グループ	
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にすることができます。
ミッシングの非表示	値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。
集計	ドロップダウンメニューを開き、集計オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[なし] (デフォルト)、[集計]、[平均]、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント]、[固有値]、[最初の値]、[最後の値]、[最大]、[最小]、[合計]、[パーセント]、[行に対するパーセント]、[中央値]、[平方和の平均] があります。
条件スタイル	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、新しい条件付きスタイルを追加し、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用することができます。また、既存の条件付きスタイルを編集したり、条件付きドリルダウンを有効にしたりすることもできます。
WITHIN	レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートフィールドではなく、ソートグループで表示フィールドの値を合計する際に、その値を操作することができます。

コマンド	説明
ピアグラフ	選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列を追加します。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。
列	複数のグラフを表示する列数を指定することができます。1 から 512 までの値を指定します。デフォルト値は 1 です。このオプションは、[クエリデザイン] ウィンドウで [複数グラフ] コンポーネントを右クリックして選択することもできます。
リンクグループ	
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。

シリーズタブ

ドキュメントモードでは、[シリーズ] タブはグラフコンポーネントを選択した際に有効になります。

コマンド	説明
選択グループ	
シリーズドロップダウンリスト	現在のグラフで使用されているシリーズのリストを表示します。
スタイルグループ	

コマンド	説明
スタイル	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択する方法でも開くことができます。
プロパティグループ	
データラベル	<p>グラフにデータラベルを追加します。ドロップダウンメニューを開き、グラフ上でデータ値をラベルとして表示する位置を指定するオプションを選択します。これらのデータ位置オプションには、[上] (デフォルト)、[上端]、[上端の下]、[中央揃え]、[下] があります。円グラフの場合のオプションは、[円項目上]、[円項目の外側]、[外側]、[フィーラ線付き] です。</p> <p>[データラベル詳細オプション] を選択すると、[ラベルフォーマット] ダイアログボックスが開いて、データラベルをさらに編集することができます。</p>
傾向線	ドロップダウンメニューを開き、グラフに傾向線を追加するオプションを選択することができます。
数式	グラフの傾向線に関連付けられた数式を表示します。
折れ線グループ	
スムーズ	スムージング線を使用してグラフを描画します。
接続線	折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。
マーカー	ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。
円グループ	
注意： 次のオプションは、円グラフを作成、編集する場合にのみ使用できます。	

コマンド	説明
展開	円項目を切り離します。
非表示	円項目を非表示にします。

ビジュアライゼーションのリボンコマンド

ビジュアライゼーションモードでビジュアライゼーションを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してビジュアライゼーションをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
クリップボードグループ	
貼り付け	クリップボードにコピーまたは配置したテキスト、レポート、グラフオブジェクトをビジュアライゼーションに貼り付けます。
切り取り	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトを切り取り、クリップボードに配置します。
コピー	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトをコピーし、クリップボードに配置します。
複製の作成	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトの複製を作成し、ドキュメントに配置します。
データグループ	
演算	ドロップダウンメニューからオプションを選択して、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) を作成することができます。

コマンド	説明
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。また、データ混合を作成し、ローカルリソースまたはシステムリソースのデータを現在のデータソースに統合することもできます。
ビジュアルグループ	
挿入	新しいビジュアルを挿入します。[挿入] ボタンの左側をクリックすると、デフォルトビジュアルの積み上げ棒グラフが挿入されます。[挿入] ボタンの下向き矢印をクリックし、ビジュアルタイプ (グラフ、グリッド、テキスト) を指定して挿入することもできます。
変更	[ビジュアルの選択] メニューを開き、ビジュアライゼーションに追加したビジュアルのタイプ (グラフ、マップ、グリッド) を変更することができます。
入れ替え	<p>ビジュアルに追加したデータの横方向と縦方向を入れ替えます。[入れ替え] オプションは、キャンバスに 1 つ以上のフィールドを追加した際に有効になります。[縦軸] および [横軸] フィールドコンテナにデータフィールドを追加した際に [入れ替え] をクリックすると、これらのデータフィールドの軸が入れ替わり、それぞれが反対の軸に表示されます。マトリックスグラフの場合も同様に、[入れ替え] をクリックすると、行と列が入れ替わります。[入れ替え] オプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、散布図、マトリックスマーカークラフで使用できます。また、リストでも使用可能です。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> キャンバスにフィールドを追加していない場合、[入れ替え] オプションは選択不可になります。 <input type="checkbox"/> [入れ替え] オプションは、マップで使用できません。

コマンド	説明
クリア	現在のビジュアルをクリアします。分割ボタンを使用して、選択したコンポーネントをクリアするか、ビジュアライゼーション全体をクリアするかを選択することができます。ビジュアライゼーション全体の場合、キャンバス上のすべてのビジュアルがクリアされます。フィルタを作成している場合は、フィルタをクリアすることもできます。[クリア] ボタンは、キャンバス上でビジュアルを作成するまで有効になりません。
ストーリーボードグループ	
追加	現在のビジュアルまたはビジュアライゼーションのスナップショットを作成し、ストーリーボードに追加します。
表示	ストーリーボードを PowerPoint プレゼンテーションとして開き、ストーリーボードを表示するか、保存するかを選択することができます。すべてのストーリーボードは、Microsoft PowerPoint フォーマットで表示されます。

フォーマットタブ

コマンド	説明
レポートグループ	
テーマ	<p>[テンプレート] ダイアログボックスを開き、リストのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。</p> <p>また、リストに適用するスタイルテーマを選択することも、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるビジュアライゼーションのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。</p>
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。

コマンド	説明
総合計	リストオブジェクトの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。
行合計	このオプションは、ビジュアライゼーションモードではサポートされません。

機能グループ

注意：これらのオプションは、リストまたはマップでは表示されません。ただし、[フレームと背景] は表示されます。

参照	参照線メニューを開き、[Y 軸に参照線を追加] および [X 軸に参照線を追加] オプションを表示します。これらのオプションのいずれかを選択すると、[参照線] ダイアログボックスが開き、X 軸値または Y 軸値の設定、テキストの入力、グラフ参照線の配置の設定を行うことができます。
罫線	罫線メニューを開き、[横罫線] または [縦罫線] オプションを表示します。どちらのオプションを選択した場合でも、主罫線と補助罫線を有効または無効にできます。[罫線詳細オプション] を選択すると、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
フレームと背景	[フレームと背景] ダイアログボックスを開いて、グラフの背景スタイルとフレームを編集することができます。このダイアログボックスには、選択したグラフタイプに応じてさまざまなオプションが表示されます。

ラベルグループ

軸	軸メニューを開き、横軸および縦軸の [ラベルの表示]、[ラベルを交互に表示] (横軸のみ)、および [ラベルの回転] を選択することができます。また、[横軸詳細オプション] または [縦軸詳細オプション] を選択して、軸ラベルを編集することもできます。このオプションは、リストまたはマップでは表示されません。
---	--

コマンド	説明
凡例	凡例メニューを開き、[凡例の表示] オプションを選択してグラフに凡例を表示することができます。また、このオプションの選択を解除して凡例に非表示にすることもできます。さらに、凡例のデフォルト位置やデフォルト方向を変更することも可能です。このオプションは、マップでは表示されますが、リストでは表示されません。

インタラクティブグループ

注意：リストおよびマップの場合、これらのオプションは表示されません。

インタラクティブオプション	[インタラクティブオプション] ダイアログボックスを開き、グラフでのアニメーションの表示、マウスオーバー効果、およびスクロールを指定することができます。
---------------	--

表示タブ

コマンド	説明
表示グループ	
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。[リソース] ボタンを再度クリックすると、リソースパネルが再表示され、グラフ、マップ、リストのサイズもそれぞれ調整されます。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。

コマンド	説明
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメントのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

コマンド	説明
フィルタグループ	
注意: [フィールド] タブで使用可能なオプションは、選択したビジュアルタイプに応じて異なります。	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	[フィルタ] ウィンドウで既存のフィルタを選択し、[条件の解除] をクリックすると、そのフィルタが削除されるのではなく、ビジュアルから除外されます。
条件の設定	[フィルタ] ウィンドウで既存のフィルタを選択し、[条件の設定] をクリックすると、ビジュアルから除外されていたフィルタが再設定されます。

コマンド	説明
ソートグループ	
昇順	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]があります。
降順	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照]があります。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。このオプションは、リストの作成時にディメンションをクリックした場合に有効になります。
表示グループ	
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にします。
集計	指定したフィールドの集計オプションを指定します。よく使用するオプションとして、[集計]、[平均]、[件数]、[最小]、[最大]があります。
選択条件	選択したフィールドの条件付きスタイルを指定します。

シリーズタブ

コマンド	説明
選択グループ	
注意： リストの場合、このグループは表示されません。マップの場合、このグループは使用不可になります。	

コマンド	説明
シリーズドロップダウンリスト	現在のビジュアライゼーションで使用されているシリーズのリストを表示します。
スタイルグループ	
スタイル	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択する方法でも開くことができます。
プロパティグループ	
データラベル	グラフにデータラベルを追加します。ドロップダウンメニューを開き、グラフ上でデータ値をラベルとして表示する位置を指定するオプションを選択します。これらのデータ位置オプションには、[上] (デフォルト)、[上端]、[上端の下]、[中央揃え]、[下] があります。円グラフの場合のオプションは、[円項目上]、[円項目の外側]、[外側、フィーラ線付き] です。
グラフ	ドロップダウンメニューを開き、別のグラフタイプを選択するオプションを表示し、[なし] (デフォルト)、[棒グラフ]、[折れ線グラフ]、[面グラフ] のいずれかを選択することができます。
傾向線	ドロップダウンメニューを開き、グラフに傾向線を追加するオプションを選択することができます。
折れ線グループ	
スムーズ	スムージング線を使用してグラフを描画します。
接続線	折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。

コマンド		説明
マーカー		ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。
円グループ		
注意：次のオプションは、円グラフを作成、編集する場合にのみ使用できます。		
展開		円項目を切り離します。
非表示		円項目を非表示にします。

9

InfoAssist+ 警告メッセージの理解

ここでは、InfoAssist+ の警告メッセージについて説明します。

トピックス

- InfoAssist+ 警告メッセージ
- 未サポートの構文およびオブジェクト

InfoAssist+ 警告メッセージ

メッセージ	説明	OK	キャンセル
データソースを切り替えてよろしいですか? これにより、現在のレポートは削除されます。	この警告メッセージは、HOLD ファイルから作成したレポートを保存後、[データ] タブの [データソース] グループで [切り替え] をクリックし、ドロップダウンメニューから別のレポートを選択した際に表示されます。	現在のレポートが削除されます。	現在のレポートは保持されます。

メッセージ	説明	OK	キャンセル
データソースを追加してよろしいですか? これにより、現在のレポートは削除されます。	この警告メッセージは、HOLD ファイルから作成したレポートを保存後、[データ] タブの [データソース] グループで [追加] をクリックした際に表示されます。	現在のレポートが削除されます。	現在のレポートは保持されます。
プリンタ出力の構文が見つかりました。この機能はサポートされていません。レポートは PDF 出力に変換されます。	この警告メッセージは、HTML グラフアシスタントで作成されたプロシジャを開き、特定の条件に適合した場合に表示されます。	レポートが PDF フォーマットに変換されます。	プロシジャを開く処理が中断されます。
未サポートのグラフアップレット構文が見つかりました。サーバサイドグラフを使用するようレポートが変換されます。	Web Query 2.1.0 では、グラフアップレット機能はサポートされません。この警告メッセージは、グラフアップレット構文が含まれたプロシジャを開く際に表示されます。	サーバサイドグラフを使用するようレポートが変換されます。	プロシジャを開く処理が中断されます。

メッセージ	説明	OK	キャンセル
未サポートのグラフエンジン OLD 構文が見つかりました。グラフエンジン NEW を使用するようレポートが変換されます。	Web Query 2.1.0 では、OLD グラフエンジン機能はサポートされません。この警告メッセージは、OLD グラフエンジン構文が含まれた既存のプロシジャを開く際に表示され、サポートされていない構文が検出されたこと、および NEW グラフエンジン構文を使用するようプロシジャが変換されることをユーザに提示します。	プロシジャの OLD グラフエンジンが NEW グラフエンジンに変換されます。	元のプロシジャはそのまま保持され、変更されずにプロシジャが閉じます。
未サポートのグラフタイプ構文が見つかりました。レポートはデフォルトグラフタイプに変換されます。	この警告メッセージは、既存のプロシジャを開き、特定の条件に適合した場合に表示されます。	デフォルトグラフタイプを使用するようレポートが変換されます。	デフォルトグラフタイプへのレポート変換はキャンセルされます。

メッセージ	説明	OK	キャンセル
このリクエストの [ユーザ選択] は、構成で許可されていません。レポートはデフォルト出力に変換されます。	この警告メッセージは、レポートを再度開く際に [ユーザ選択] オプションが使用できない場合や、グローバル設定で [ユーザ選択] オプションが無効になっている場合に、このオプションを有効にしたレポートを再度開く場合に表示されます。	デフォルト出力タイプを使用するようレポートが変換されます。	元のプロシジャはそのまま保持され、変更されずにプロシジャが閉じます。
ファイルは InfoAssist+ 以外で変更されています。続行しますか？	この警告メッセージは、InfoAssist+ で作成されたレポートの一部がテキストエディタで変更されている場合に表示されます。	変更されたプロシジャが InfoAssist+ で開きます。	警告メッセージを閉じ、Web Query ホームページに戻ります。

未サポートの構文およびオブジェクト

ここでは、サポートされない構文およびオブジェクトについて説明します。

- ❑ SUB-TOTAL 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャに SUB-TOTAL 構文が含まれており、そのプロシジャを InfoAssist+ で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、構文が SUBTOTAL に変換され、上位のすべてのソート区切りに変換後の構文が追加されます。
- ❑ SUMMARIZE 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャに SUMMARIZE 構文が含まれており、そのプロシジャを InfoAssist+ で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、構文が RECOMPUTE に変換されます。

- ❑ HTML FULL、FIXED、PAGED 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャにこれら 3 つの構文のいずれかが含まれており、そのプロシジャを InfoAssist+ で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、プロシジャが通常の HTML 出力に変換されます。
- ❑ COLUMN-TOTAL 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャにこの構文が含まれており、そのプロシジャを InfoAssist+ で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、RECOMPUTE 構文を使用するようプロシジャが変換されます。
- ❑ レガシーツールからインポートされた複合ドキュメントの線オブジェクトはサポートされません。線オブジェクトが含まれた既存のプロシジャを開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、これらの線オブジェクトが削除されます。

Glossary

3D 表示

グラフのカスタム機能で、3 次元表示のオンオフを設定します。

アクセシビリティ

レポートに特化した機能で、レポート、グラフ、またはドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加することができます。このオプションは、出力タイプが HTML または PDF のレポートまたはグラフでのみ使用可能です。

アコーディオン

レポートに特化した機能で、縦ソートフィールドのそれぞれに展開可能なデータ表示を作成します。このオプションを選択すると、1 回目の出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。この表示を手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。

アコーディオンレポート

縦ソートフィールドごとに展開可能なレポートです。

Active Chart

Active テクノロジーの完全な機能を使用したグラフです。

Active Dashboard

Active テクノロジーの完全な機能を使用したダッシュボードです。

入力フォーム

ドキュメント内のレポートでフィルタとして機能する Active テクノロジーコントロールです。テキスト、イメージ、ドロップダウンリスト、リストボックス、チェックボックス、ラジオボタン、テキストボックスがあります。

Active PDF

レポート、グラフ、ドキュメントで利用可能な出力フォーマットです。Adobe Reader 9.0 以降が必要です。

Active Report

Active テクノロジーの完全な機能を使用したレポートです。

Active Report オプション

グラフのカスタム機能です。[Active Report オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、Active Report のオプションを構成することができます。このオプションは、出力タイプが Active Report または Active PDF に設定されている場合に使用できます。

集計

レポートのカスタム機能で、SUM 以外のさまざまな集計オプションを使用して、数値メジャーデータを表示することができます。

集計値

レポートの数値メジャーフィールドに割り当てられる値です。

注釈 (コマンド)

グラフのカスタム機能で、注釈を追加して、グラフに配置することができます。

注釈

説明として付加する注記またはコメントです。

アプリケーションボタン

InfoAssist+ アプリケーションウィンドウ上のボタンで、プロシジャに関連するコマンドのアプリケーションメニューへのアクセスを提供します。

軸

グラフに表示される軸線です。

軸ラベル

軸の目盛りに基づいて自動的に生成されるラベルです。軸ラベルは、軸に沿って表示されます。

軸タイトル

軸に表示されるデータの意味を明確にするためのテキストです。

background

グラフフレームの背後に表示される領域です。

キャンバス

InfoAssist+ アプリケーションウィンドウのコンポーネントです。[ライブプレビュー] デザインビュー (デフォルト) でレポートを作成または編集している場合、キャンバスにレポートのプレビューが表示されます。キャンバスは常に最大領域で表示され、最小化することも、重ねて表示や並べて表示に切り替えることもできません。ただし、レポートが存在しない場合、ブランクのキャンバスが開きます。

重ねて表示

出力表示のオプションで、複数の出力ウィンドウをキャンバス全体の対角線上に重ねて表示します。

連鎖コントロール

親子関係にある複数のコントロールです。親コントロールで選択した値に基づいて、子コントロールで選択可能なオプションがフィルタされます。Active フォームコントロールは、複数のコントロールの親として使用することができますが、複数のコントロールの子として使用することはできません。

セルパディング

レポートの行列間に挿入するスペースのサイズです。

色バンド

グラフの基本デザイン要素です。色バンドは 2 色で構成され、各バンドにそれぞれ異なる色を使用します。色バンドは、グラフ上のシリーズの背後に、連続したパターンとして表示されます。色の対比を使用することで、グラフの読み取りが容易になります。

色モード

グラフのシリーズ (メジャーフィールド) への色の適用方法を制御するモードです。設定の選択肢には、[シリーズ] (デフォルト設定) と [グループ] があります。

ピアグラフ

レポートのカスタム機能で、数値データにピアグラフを追加します。

データラベル

シリーズ内の特定のデータポイントを識別するテキストです。

[データ] タブ

リボン上のタブの 1 つで、データ操作およびデータ表示のオプションが表示されます。これらは [演算]、[JOIN]、[フィルタ]、[表示]、[データソース] グループに分類されています。

人口統計レイヤ

このレイヤには、特定の人口統計エリアでの人やビジネスに関する情報が表示されます。この情報には、アメリカ合衆国のほか、120 か国が含まれています。人口統計レイヤは、消費パターン、人口、ライフスタイルなど、地域に関する追加情報を提供する主題図です。

フィルタを上に表示

レポートの上部にフィルタを表示するオプションです。

ドキュメントテーマ

レポートとグラフに明示的スタイルを適用するため、ユーザが選択するテーマです。

環境とスタイル

InfoAssist+ の [オプション] ウィンドウのエリアの 1 つで、ユーザインターフェースに適用するアプリケーションテーマ、およびレポートとグラフにスタイルを適用するドキュメントテーマを選択する設定が表示されます。

接続線

グラフにデータラベルを接続する線です。

[フィールド] タブ

リボン上のタブの 1 つで、ユーザが [クエリ] ウィンドウまたはキャンバスでフィールドを選択した場合に表示されます。[フィールド] タブで選択可能なオプションは、選択したデータタイプによって異なります。数値フィールドと数値以外のフィールドでは、有効なオプションは異なります。[フィールド] タブには、[フィルタ]、[ソート]、[区切り]、[スタイル]、[フォーマット]、[表示]、[リンク] グループが表示されます。

[フィルタ] ウィンドウ

リソースパネルのコンポーネントの 1 つで、[クエリ] ウィンドウの下側に表示されます。
[データ] ウィンドウから [フィルタ] ウィンドウにフィールドをドラッグし、レポートに適用するフィルタを作成することができます。作成したフィルタを [フィルタ] ウィンドウで管理することもできます。

軸のフォーマットダイアログボックス

縦軸および横軸のフォーマットを設定するダイアログボックスです。

メータフォーマットダイアログボックス

メータグラフのフォーマットを設定するダイアログボックスです。たとえば、メータグラフのタイトルを設定し、スタイルを適用するオプション、目盛りおよび色バンドを設定するオプションのほか、メータの始点角度および終点角度の設定などの詳細設定があります。

罫線のフォーマットダイアログボックス

グラフ上の縦横罫線、色バンド、フレームのフォーマットを設定するダイアログボックスです。

ラベルフォーマットダイアログボックス

データラベルを編集するダイアログボックスです。

シリーズフォーマットダイアログボックス

グラフ上の各シリーズの塗りつぶしおよび境界のフォーマットを設定するダイアログボックスです。

[フォーマット] タブ

リボン上のタブの 1 つで、出力フォーマットおよびその他のレポート機能を選択するオプションが表示されます。これらのオプションは、レポートとグラフのどちらを作成しているかによって異なります。レポートの場合、[フォーマット] タブから [対象]、[ナビ]、[機能]、[オートドリル]、[オートリンク] グループへアクセスできます。

フレーム

データポイント、罫線、凡例、グラフタイトルなどの基本的なグラフ要素のすべてを格納するグラフ領域です。フレームは矩形で表示されます。

フレームと背景

グラフのカスタム機能です。[フレームと背景] ダイアログボックスで、選択したグラフのタイプに応じて、フレームおよびバックグラウンドのオプションを設定することができます。

固定

レポートのカスタム出力フォーマットで、レポート出力のページをスクロールした場合に、列タイトルが固定されます (表示され続ける)。

メータ

グラフのカスタム機能です。[メータ] ダイアログボックスで、メータグラフに特化したオプションを設定することができます。

グリッド

グラフのカスタム機能で、縦横の線に関するオプションを設定することができます。

罫線

グラフの読み取りを容易にするために縦方向および横方向に配置される線です。罫線には、主罫線と補助罫線があります。

ホームタブ

リボン上のタブの 1 つで、よく使用するコマンドおよびオプションが表示され、[フォーマット] グループ、[デザイン] グループ、[フィルタ] グループ、[レポート] グループに分類されています。

InfoMini

InfoAssist+ レポートから作成され、実行時に InfoAssist+ 機能の一部が含まれたアプリケーションです。

[挿入] タブ

リボン上のタブの 1 つで、[ドキュメント] デザインビューのキャンバスにページ、レポート、グラフ、既存レポート、テキスト、イメージ、Active フォームコントロール (Active Report、Active PDF 出力の場合のみ) を追加するオプションが表示されます。

インターフェーステーマ

すべてのメニューおよびダイアログボックスにスタイルを設定するため、ユーザが選択するテーマです。

[レイアウト] タブ

リボン上のタブの 1 つで、ページの表示とレイアウトのオプションが表示され、[ページ設定]、[サイズと整列]、[レポート] グループに分類されています。

凡例

グラフ上に表示され、各シリーズを識別するグラフ要素です。

マップ

地図機能は、位置情報に関連付けられたデータの表示を可能にします。HTML5 マップビューアを使用して、バブルマーカ―やヒートマップ (コロプレス) など、使用頻度の高いさまざまなフォーマットでデータを表示することができます。HTML5 マップビューアには、ズーム、パン、縮尺コントロールが含まれています。この機能を使用して、データの位置情報に関連するパターン、傾向、関係を視覚化することができます。

制限

レポートのカスタム機能で、列内に表示するユニーク変数の個数を制限します。

マーカー

折れ線グラフで、グラフ上のデータポイントを視覚的に表す要素です。

ナビゲーションタスクバー

InfoAssist+ アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、表示されるグループおよびアイコンを使用して、表示方法を切り替えることができ、また、作業中のすべてのレポートにすばやくアクセスすることができます。

改ページ

Web ビューアレポートのカスタム機能で、出力の主ソートフィールドが変更されたところで、新しいページを開始します。

Web ビューア

レポートのカスタム出力フォーマットで、出力を一度に 1 ページずつ表示することができます。レポート出力下部のメニューバーを使用して、特定のページを表示することもできます。

ポップアップタイトル

レポートのカスタム機能で、レポートにポップアップタイトルを追加し、列タイトルにマウスポインタが置かれたときに、ポップアップタイトルが表示されるようにします。

四分線

グラフを 4 つのセクションに分割するための縦横に交差する線です。

[クエリ] ウィンドウ

リソースパネルのコンポーネントの 1 つで、[データ] ウィンドウの右側、[フィルタ] ウィンドウの上側に表示されます。[クエリ] ウィンドウのさまざまなフィールドコンテナに、選択したデータフィールドを配置します。

クイックアクセスツールバー

InfoAssist+ アプリケーションウィンドウ上のツールバーで、[新規作成]、[開く]、[保存]、[元に戻す]、[やり直し]、[コードの表示]、[実行]、[プレビュー] など、よく使用するコマンドが表示されます。

ランキング

レポートのカスタム機能で、レポートの BY フィールドとメジャーフィールドにランキング列を挿入します。

再演算

レポートのカスタム機能で、COMPUTE コマンドの結果を再計算します。

参照

グラフのカスタム機能で、X 軸と Y 軸に参照線を追加します。

参照レイヤ

このレイヤには、大陸、国、州、市に至るまでの境界と地点が表示されます。

参照線

グラフ上で特定のデータの位置を強調するために使用する線です。横方向 (X 軸) と縦方向 (Y 軸) のそれぞれに最大で 3 本の参照線をグラフに追加することができます。

ソート値の繰り返し

レポートのカスタム機能で、最初の新しいソート値の後にブランクを表示する代わりに、繰り返しソート値をすべて表示します。

リソースパネル

[データ] ウィンドウ、[クエリ] ウィンドウ、[フィルタ] ウィンドウで構成されるパネルです。

リボン

InfoAssist+ アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、レポート、グラフ、ドキュメント、ドキュメント (入力フォーム) の作成に必要なコマンドを表示します。

円ラベル

円グラフに表示する同心円を識別するテキストです。

回転

グラフのカスタム機能で、グラフの方向 (縦、横) を切り替えます。

行合計

レポートのカスタム機能で、レポートの右側に総合計列を挿入し、各行の数値データを合計します。

シリーズ

グラフ上に表示されるデータポイントグループです。

[シリーズ] タブ

リボン上のタブの 1 つで、ユーザがグラフで作業している場合にのみ表示されます。このタブでは、[選択]、[スタイル]、[プロパティ]、[折れ線]、[円] グループからグラフオプションにアクセスすることができます。

スライサ

レポート、グラフ、ドキュメントで使用可能な動的なフィルタです。

[スライサ] タブ

リボン上のタブの 1 つで、スライサの作成、編集が行えます。

積み重ねメジャー

レポートのすべてのメジャーフィールドを積み重ねるオプションです。

スプラッシュスクリーン

[開始] および [ヘルプ] オプションが表示され、InfoAssist+ アプリケーションメインメニューで、ユーザが [新規作成] をクリックした場合に表示されます。

ステータスバー

InfoAssist+ アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、[出力] ボタンと [出力ターゲット] ボタンが表示されます。[出力] ボタンをクリックすると、選択したフォーマットが表示され、[出力ターゲット] ボタンをクリックすると、新規出力として選択した表示先 (ウィンドウまたはタブ) が表示されます。

中間脚注

レポートのカスタム機能で、主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力各ページのデータの最後に中間脚注を追加します。

中間見出し

レポートのカスタム機能で、主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力のタイトル直下に中間見出しを追加します。

中間合計

レポートのカスタム機能で、主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力のすべての数値フィールドに中間合計を追加します。

出力の切り替え

出力表示のオプションで、ドロップダウンメニューを開いて、作業中のレポートの中から、出力を表示するレポートを選択します。

目次

レポートのカスタム出力フォーマットで、最初のソートフィールド (BY) の値の出力を個別に表示します。

縦に並べて表示

出力表示のオプションで、複数の出力ウィンドウをキャンバス全体に縦に並べて表示します。

横に並べて表示

出力表示のオプションで、複数の出力ウィンドウをキャンバス全体に横に並べて表示します。

タイトルポップアップ

レポートに特化した機能で、レポート出力の列タイトルにマウスポインタを置いたときに、ポップアップタイトルを表示します。

条件付きスタイル設定

選択したメジャーフィールドのデータに、色スタイルを適用します。デフォルト設定では、1 つ目の条件の値は緑色、2 つ目の条件の値は赤色で表示されます。

傾向線

データシリーズの値の方向性を示す、データシリーズの任意の 2 点を接続する線です。

表示

InfoAssist+ の [オプション] ウィンドウのエリアの 1 つで、ユーザが作業するデザインビュー、出力のプレビューに使用するデータのタイプ、レコード入力に設定が必要な制限、[データ] パネルと [クエリ] パネルの外観、使用する出力ターゲットの設定を行います。

表示タブ

リボン上のタブの 1 つで、レポートデザイン表示オプションが表示され、[デザイン]、[表示]、[データ]、[クエリ]、[ウィンドウ]、[レポート] グループに分類されています。

WITHIN

特定の集計をレポートのさまざまなレベルで実行することができます。WITHIN 句を使用して、レポートフィールドではなく、ソートグループで表示フィールドの値を合計する際に、その値を操作することができます。

Legal and Third-Party Notices

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of TIBCO Software Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, FOCUS, iWay, Omni-Gen, Omni-HealthData, and WebFOCUS are either registered trademarks or trademarks of TIBCO Software Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. TIBCO SOFTWARE INC. MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S) AND/OR THE PROGRAM(S) DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of TIBCO Software Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (<https://www.tibco.com/patents>) for details.

Copyright © 2021. TIBCO Software Inc. All Rights Reserved.